YAMAHA

J

AVレシーバー

RX-A1010

取扱説明書

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（134〜137ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「かんたん設置ガイド」が付属しています。はじめに「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

本書および「かんたん設置ガイド」は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

保証書別添付

目次

商標 ---- 4
付属品を確認する ---- 5

本機の特長

本機でできること ---- 6
各部の名称 ---- 8
前面 ---- 8
前面カバー内部 ---- 9
背面 ---- 10
リモコン ---- 12
前面ディスプレイ（インジケーター） ---- 13

準備する

使用までの基本的な流れ ---- 14
1. スピーカーを接続する ---- 15
スピーカーシステム（基本編） ---- 16
スピーカーシステム（応用編） ---- 20
入出力端子とケーブル ---- 25
2. テレビを接続する ---- 26
3. 再生機器を接続する ---- 31
ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど） ---- 31
オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど） ---- 34
本体前面の端子に接続する ---- 35
4. FM/AM アンテナを接続する ---- 36
5. ネットワークに接続する ---- 37
6. その他の機器を接続する ---- 38
録画 / 録音機器を接続する ---- 38
アナログのマルチチャンネル出力を持つ機器を接続する ---- 38
シーン連動再生対応の機器を接続する（リモート接続） ---- 39
トリガー機能対応の機器を接続する ---- 39
7. 電源コードを接続する ---- 40
8. スピーカー設定を自動で調整する（YPAO） ---- 41
測定前の準備 ---- 41
1 か所で測定する（シングル測定） ---- 43
複数の視聴位置で測定する（マルチ測定） ---- 44
測定結果を確認する ---- 45
最後に保存した YPAO 補正値に戻す ---- 45
エラーメッセージ ---- 46
警告メッセージ ---- 47

再生する

再生の基本操作 ---- 48
HDMI 出力端子を切り替える ---- 48
入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能） ---- 49
シーンに好みの設定を登録する ---- 50
好みのサウンドを選ぶ ---- 51
音場効果を楽しむ（シネマ DSP） ---- 52
音場効果をかけずに再生する ---- 54
原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクト） ---- 55
圧縮音源をダイナミックに再生する（ミュージックエンハンサー） ---- 55
ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ） ---- 55
FM/AM ラジオを聴く ---- 56
周波数を指定して選局する ---- 56
お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット） ---- 56
テレビ画面でラジオを操作する ---- 57
iPod の曲 / 映像を再生する ---- 59
iPod を接続する ---- 59
iPod の曲を選ぶ ---- 61
Bluetooth 機器の曲を再生する ---- 64
Bluetooth レシーバーを接続する ---- 64
Bluetooth 機器とペアリングする ---- 64
Bluetooth 機器と接続して再生する ---- 65
USB 機器の曲を再生する ---- 66
USB 機器を接続する ---- 66
USB 機器の曲を選ぶ ---- 66
パソコンの曲を再生する ---- 69
メディアの共有設定を行う ---- 69
パソコンの曲を選ぶ ---- 69
インターネットラジオを聴く ---- 72

複数の部屋で音楽を楽しむ（マルチゾーン）----------75
ゾーン 2 を準備する----------75
ゾーン 2 を操作する----------77
メインゾーンと同じ音楽を聴く（パーティーモード）----------78
便利な機能----------79
お気に入りのコンテンツを登録する（ショートカット）----------79
ウェブブラウザーで本機を操作する（ウェブコントロール）----------80
現在の状態を確認する----------82
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）----------83
オプションメニューでできること----------83

設定する

入力の設定を変更する（入力選択メニュー）----------86
入力選択メニューでできること----------87
シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）----------89
シーン選択メニューでできること----------89
音場プログラム / サラウンドデコーダーの設定を変更する（サウンドプログラムメニュー）----------91
サウンドプログラムメニューでできること----------91
詳細機能を設定する（設定メニュー）----------93
設定メニューでできること----------94
スピーカー設定（手動設定）----------96
音声設定----------99
映像設定----------100
HDMI 設定----------101
ネットワーク設定----------103
マルチゾーン設定----------104
ファンクション設定----------105
表示言語----------107
情報を確認する（情報メニュー）----------108
情報の種類----------108
システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）----------109
アドバンスドセットアップメニューでできること----------109
リモコン信号の受信設定（REMOTE SENSOR）----------110
リモコン ID の変更（REMOTE CON AMP）----------110
ビデオ信号方式の変更（TV FORMAT）----------110
HDMI 映像出力の制限解除（MONITOR CHECK）----------110
設定の保存 / 復元（RECOV./BACKUP）----------111
設定の初期化（INITIALIZE）----------111
ファームウェアの更新（FIRM UPDATE）----------111
ファームウェアバージョンの確認（VERSION）----------111
リモコンで外部機器を操作する----------112
テレビのリモコンコードを登録する----------112
再生機器のリモコンコードを登録する----------113
リモコンコードを消去する----------114
リモコンコード一覧----------114
本機のファームウェアを更新する----------116

付録

こんな場合の解決方法----------117
故障かな?と思ったら----------118
電源 / システム----------118
音声----------119
映像----------120
FM/AM ラジオ----------121
USB/ ネットワーク----------121
リモコン----------122
前面ディスプレイのエラー表示----------123
用語 / 技術解説----------124
音声に関する用語----------124
映像に関する用語----------126
映像信号の流れ----------127
HDMI について----------128
HDMI コントロール----------128
本機が対応している HDMI 信号----------129
主な仕様----------130
Information about software----------132
安全上のご注意----------134

商標

DOLBY TRUEHD

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts-HD Master Audio

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS および記号は DTS 社の登録商標です。また、DTS-HD、DTS-HD Master Audio、および DTS ロゴは DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアを含みます。
著作権 DTS 社。不許複製。

AAC

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

iPod™, iPhone™

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod または iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod または iPhone と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

IIS

Fraunhofer Institut Integrierte Schaltungen

MPEG Layer 3 音声圧縮技術は Fraunhofer IIS および Thomson によってライセンス供与されています。

Network

本機はネットワーク接続に対応しています。

Bluetooth™

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

SILENT CINEMA

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

dlna CERTIFIED

DLNA はデジタルリビングネットワークアライアンスの米国およびその他の国における登録商標です。

Compatible with Windows 7

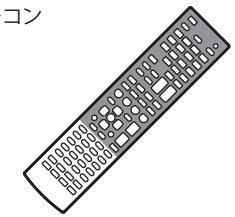
Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows Media Audio、Windows Media Connect、Windows Media player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

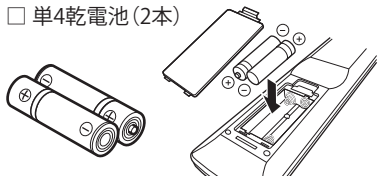
付属品を確認する

すべて揃っていることをお確かめください。

□ リモコン

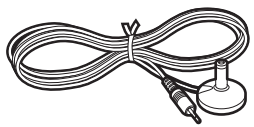


□ 単4乾電池（2本）



正しい向き（＋と－）でリモコンに入れてください。

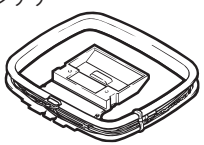
□ YPAO用マイク



□ 電源コード



□ AMアンテナ



□ FMアンテナ



□ 取扱説明書（本書）

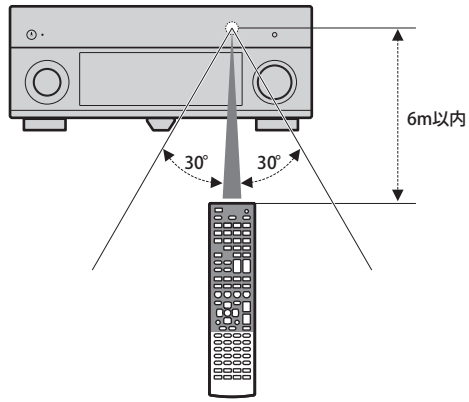


□ かんたん設置ガイド



リモコンの操作範囲

本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



- 製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 本書は付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本書は iPod と iPhone を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod と iPhone の両方を意味します。
- 本書で使用されている記号

  使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

  知っておくと便利な補足情報が記載されています。

本機の特長

本機でできること

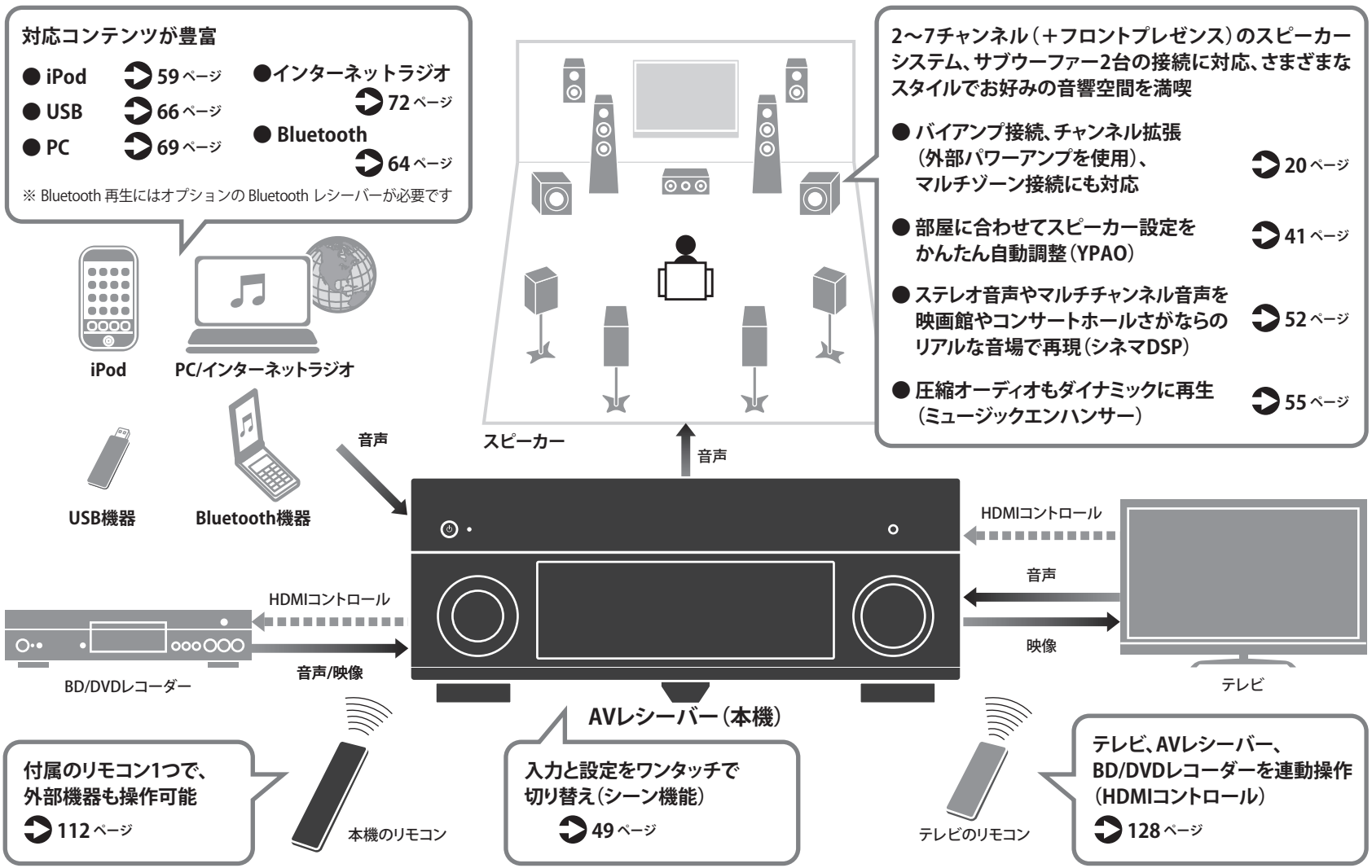
対応コンテンツが豊富

- iPod 59 ページ
- USB 66 ページ
- PC 69 ページ
- インターネットラジオ 72 ページ
- Bluetooth 64 ページ

※ Bluetooth 再生にはオプションの Bluetooth レシーバーが必要です

2〜7チャンネル（＋フロントプレゼンス）のスピーカーシステム、サブウーファー2台の接続に対応、さまざまなスタイルでお好みの音響空間を満喫

- バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプを使用）、マルチゾーン接続にも対応 20 ページ
- 部屋に合わせてスピーカー設定をかんたん自動調整（YPAO） 41 ページ
- ステレオ音声やマルチチャンネル音声を映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場で再現（シネマDSP） 52 ページ
- 圧縮オーディオもダイナミックに再生（ミュージックエンハンサー） 55 ページ



付属のリモコン1つで、外部機器も操作可能 112 ページ

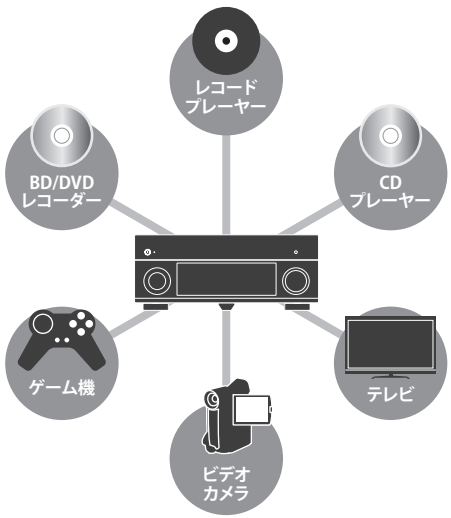
入力と設定をワンタッチで切り替え（シーン機能） 49 ページ

テレビ、AVレシーバー、BD/DVDレコーダーを連動操作（HDMIコントロール） 128 ページ

便利な機能が満載!

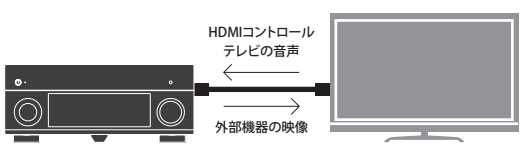
●さまざまな外部機器を接続（31 ページ）

本機には、複数の HDMI 端子に加えて各種の入力 / 出力端子が装備されているので、BD/DVD レコーダーなどのビデオ機器、CD プレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機やビデオカメラなどさまざまな外部機器を接続できます。



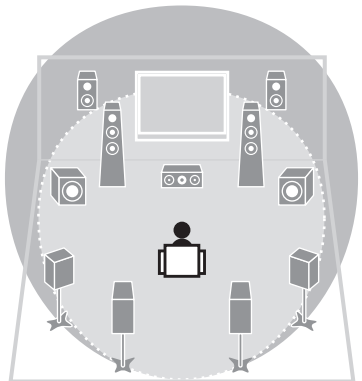
●HDMI ケーブル 1 本でテレビ音声もサラウンド再生（オーディオリターンチャンネル：ARC）（26 ページ）

ARC 対応のテレビをお使いの場合は、HDMI ケーブル 1 本でテレビへの映像出力、テレビからの音声入力、HDMI コントロール信号の伝送がすべて可能です。



●立体的な音の空間を再現（54 ページ）

シネマ DSP 3D により、自然で立体的な視聴空間を創り出します。フロントプレゼンススピーカーなしでも、VPS（バーチャル・プレゼンス・スピーカー）により、3D サラウンドを実現します。



●FM/AM ラジオを聴く（56 ページ）

FM/AM チューナーを内蔵。最大 40 局のラジオ局を自動または手動でプリセット（登録）できます。

●原音に忠実な音質で再生（55 ページ）

ピュアダイレクトを使えば、入力音声を最小限の回路だけで出力。原音の音質を存分に堪能できます。

●テレビ画面を見ながら簡単操作

聴きたいコンテンツの選択（iPod、USB 機器、PC の曲など）、各種情報の確認、本機の設定など、オンスクリーンメニューを使って簡単に操作できます。

こんな場合はどうするの!?

映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する再生機器を接続したい…

「オプションメニュー」の「音声入力選択」で、使用する音声入力端子の種類を入力ごとに選べます（85 ページ）。

テレビの映像とスピーカーの音声がずれている…

「設定メニュー」の「リップシンク」で、映像と音声の出力タイミングを調整できます（99 ページ）。

テレビのスピーカーから音声を出力したい…

「設定メニュー」の「音声出力」で、本機に入力された音声の出力先を設定できます（102 ページ）。

長時間使っていないときに自動で電源を切りたい…

「設定メニュー」の「オートパワーダウン」で、スタンバイに切り替わるまでの時間を設定できます（105 ページ）。

オンスクリーンメニューの表示言語を変更したい…

「設定メニュー」の「表示言語」で、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語のいずれかを選べます（107 ページ）。

ファームウェアを更新したい…

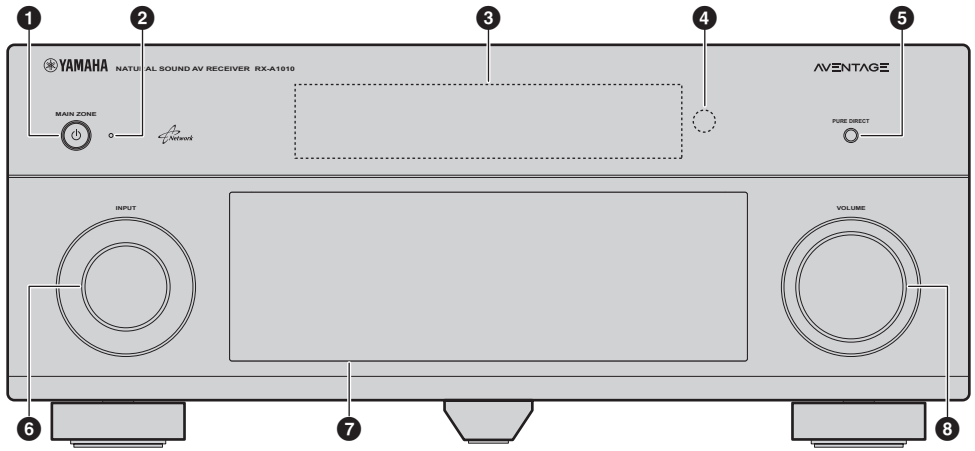
「アドバンスドセットアップメニュー」の「UPDATE」で、本機のファームウェアを更新できます（111 ページ）。本機がインターネットに接続されている場合は、ファームウェアの更新が可能になるとテレビ画面にメッセージが表示されます（116 ページ）。

ほかにも本機をカスタマイズする設定がたくさんあります。詳しくは以下のページをご覧ください。

- 入力の設定（87 ページ）
- シーン機能の設定（89 ページ）
- 音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定（91 ページ）
- 各種機能の設定（94 ページ）
- 各種情報（音声信号、映像信号など）の確認（108 ページ）
- システム設定（109 ページ）

各部の名称

前面



❶ MAIN ZONE ⏻（メインゾーン電源）キー
電源を入 / 切（スタンバイ）します。

❷ スタンバイ表示
本機がスタンバイ時、以下のいずれかの状態で点灯します。
– HDMI コントロールが有効（101 ページ）
– スタンバイスルーが有効（102 ページ）
– ネットワークスタンバイが有効（103 ページ）
– iPod を充電中（87 ページ）
– ヤマハ製 iPod ワイヤレスシステムを接続中（60 ページ）

❸ 前面ディスプレイ
各種情報が表示されます（13 ページ）。

❹ リモコン信号受光部
リモコンの信号を受信します（5 ページ）。

❺ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）キー
ピュアダイレクトを有効 / 無効にします（55 ページ）。

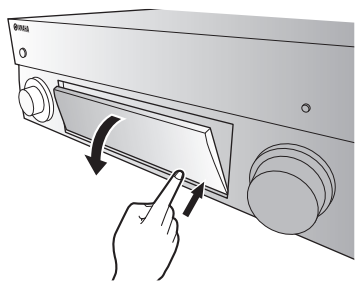
❻ INPUT（インプット）つまみ
入力を切り替えます。

❼ 前面カバー
キーや端子を保護します。

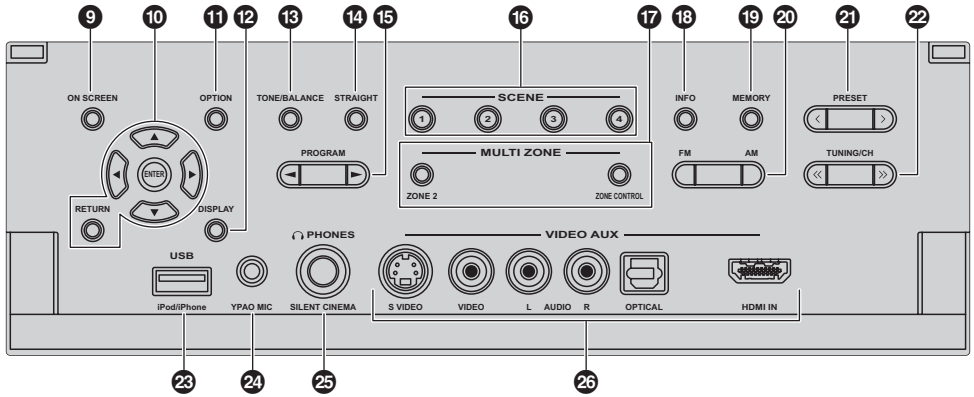
❽ VOLUME（ボリューム）つまみ
音量を調節します。

前面カバーを開閉する

• カバー内部のキーや端子を使うときは、カバーの下側をそっと押してカバーを開いてください。使わないときは閉じてください。



前面カバー内部



❾ ON SCREEN（オンスクリーン）キー
テレビ画面にオンスクリーンメニューを表示します。

❿ メニュー操作キー

カーソルキー
メニューや設定値を選びます。

ENTER キー
選択項目を決定します。

RETURN キー
メニュー操作中に、1 つ前の表示に戻します。

⓫ OPTION（オプション）キー
オプションメニューを表示します (83 ページ)。

⓬ DISPLAY（ディスプレイ）キー
テレビ画面にステータス情報を表示します（82 ページ）。

⓭ TONE/BALANCE（トーン / バランス）キー
スピーカー出力の高音域と低音域のバランスを調節します。ヘッドホン接続時は、ヘッドホン出力の高音域と低音域のバランスを調節します。(84 ページ)
ゾーン 2 スピーカーの左 / 右チャンネルの音量バランスを調節します（78 ページ）。

⓮ STRAIGHT（ストレート）キー
ストレートデコードを有効 / 無効にします（54 ページ）。

⓯ PROGRAM（プログラム）キー
音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます (51 ページ)。

⓰ SCENE（シーン）キー
入力、音場プログラム、HDMI 出力端子など、登録した内容をワンタッチで選びます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。(49 ページ)

⓱ MULTI ZONE（マルチゾーン）キー

ZONE 2 キー
ゾーン 2 出力を有効 / 無効にします（77 ページ）。

ZONE CONTROL キー
ゾーン 2 出力が有効なときに、前面のキーやつまみで操作するゾーン（メインゾーン、ゾーン 2）を切り替えます（77 ページ）。

⓲ INFO（インフォ）キー
前面ディスプレイの表示を切り替えます（82 ページ）。

⓳ MEMORY（メモリー）キー
FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します（56 ページ）。
USB 機器の曲やネットワークコンテンツをショートカットに登録します（79 ページ）。

⓴ FM/AM キー
FM/AM を切り替えます（56 ページ）。

㉑ PRESET（プリセット）キー
プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（57 ページ）。
ショートカットに登録した USB 機器の曲やネットワークコンテンツを選びます（79 ページ）。

㉒ TUNING/CH（チューニング / チャンネル）キー
ラジオ周波数を切り替えます（56 ページ）。

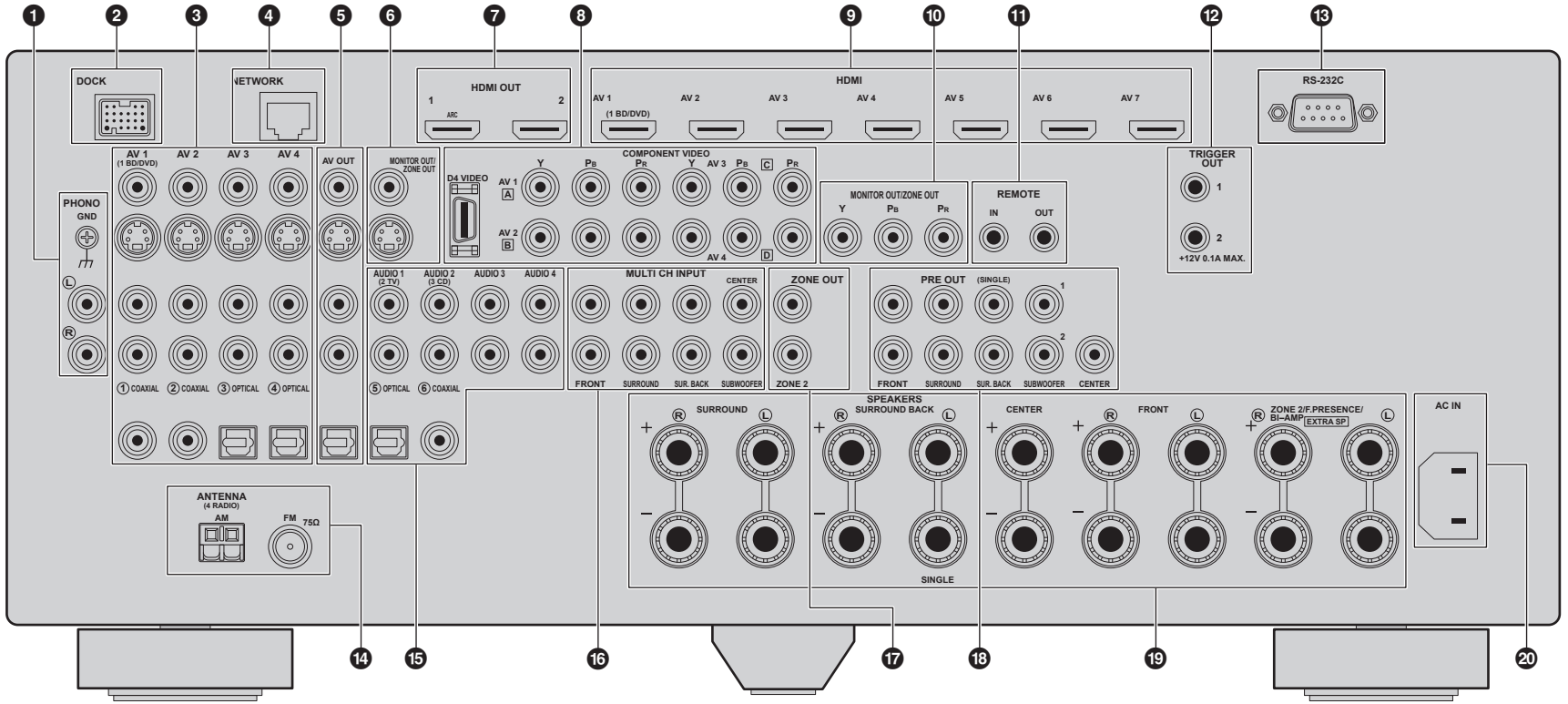
㉓ USB 端子
USB 機器 (66 ページ) や、iPod に付属の USB ケーブル (59 ページ) を接続します。

㉔ YPAO MIC（YPAO マイク）端子
付属の YPAO 用マイクを接続します（41 ページ）。

㉕ PHONES（フォーンズ）端子
ヘッドホンを接続します。

㉖ VIDEO AUX（ビデオ AUX）端子
ビデオカメラやゲーム機などの機器を接続します（35 ページ）。

背面



• 実際の製品では、映像 / 音声出力端子の周辺が白色でマークされています。

❶ **PHONO（フォノ）端子**
レコードプレーヤーを接続します（34 ページ）。

❷ **DOCK（ドック）端子**
オプションのヤマハ製 iPod ドック（60 ページ）、iPod 用ワイヤレスシステム（60 ページ）、Bluetooth レシーバー（64 ページ）を接続します。

❸ **AV1 ～ 4 端子**
映像 / 音声出力を持つ再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（32 ページ）。

❹ **NETWORK（ネットワーク）端子**
本機をネットワークに接続します（37 ページ）。

❺ **AV OUT（AV アウト）端子**
録画機器（ビデオデッキなど）や録音機器（テープデッキなど）を接続します（38 ページ）。

❻ **MONITOR OUT/ZONE OUT（モニターアウト / ゾーンアウト）端子（コンポジット /S ビデオ）**
コンポジットビデオまたは S ビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（30 ページ）。
別の部屋のテレビを接続します（76 ページ）。

❼ **HDMI OUT1 ～ 2（HDMI アウト 1 ～ 2）端子**
HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します（26 ページ）。ARC 使用時は、HDMI OUT1 端子でテレビ音声の入力も可能です。

❽ **COMPONENT VIDEO（コンポーネントビデオ）端子（AV1 ～ 4）**
コンポーネントビデオまたは D 端子出力対応の再生機器を接続し、映像を入力します（32 ページ）。

❾ **HDMI 端子（AV1 ～ 7）**
HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（31 ページ）。

❿ **MONITOR OUT/ZONE OUT（モニターアウト / ゾーンアウト）端子（コンポーネントビデオ）**
コンポーネントビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（29 ページ）。
別の部屋のテレビを接続します（76 ページ）。

⓫ **REMOTE IN/OUT（リモートイン / アウト）端子**
シーン連動再生対応のヤマハ製機器を接続します（39 ページ）。また、赤外線受信機 / 送信機を接続して、別の部屋から本機や外部機器を操作することができます（76 ページ）。

⓬ **TRIGGER OUT1 ～ 2（トリガーアウト 1 ～ 2）端子**
トリガー機能対応の機器を接続します（39 ページ）。

⓭ **RS-232C 端子**
サービス用の端子です。通常は使用しません。

⓮ **ANTENNA（アンテナ）端子**
FM アンテナと AM アンテナを接続します（36 ページ）。

⓯ **AUDIO1 ～ 4（オーディオ 1 ～ 4）端子**
音声出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します（34 ページ）。

⓰ **MULTI CH INPUT（マルチチャンネルインプット）端子**
マルチチャンネル出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します（38 ページ）。

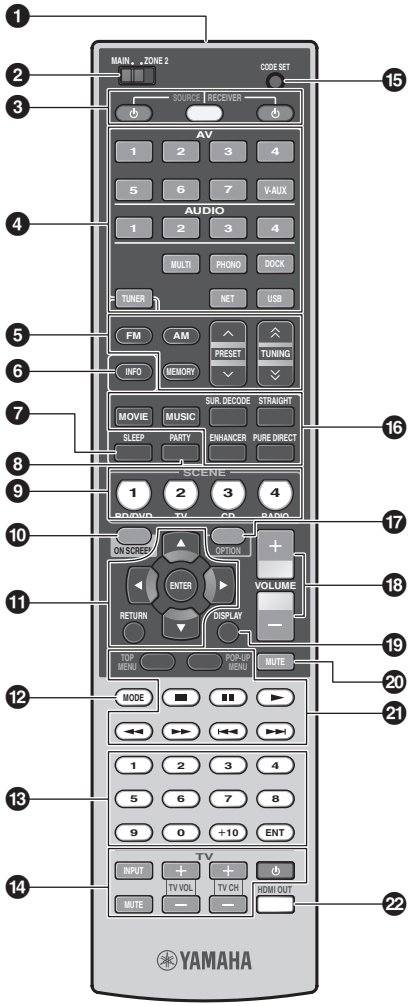
⓱ **ZONE OUT（ゾーンアウト）端子**
別の部屋に設置した外部パワーアンプに音声を出力します（75 ページ）。

⓲ **PRE OUT（プリアウト）端子**
アンプ内蔵のサブウーファー（15 ページ）や、外部パワーアンプを接続します（24 ページ）。

⓳ **SPEAKERS（スピーカー）端子**
スピーカーを接続します（15 ページ）。

⓴ **AC IN（AC イン）端子**
電源コードを接続します（40 ページ）。

リモコン



❶ リモコン信号送信部
赤外線を送信します。

❷ MAIN/ZONE2（メイン / ゾーン 2）スイッチ
リモコンで操作するゾーン（メインゾーン、ゾーン 2）を切り替えます。

❸ SOURCE ⏻（ソース電源）キー
外部機器の電源を入 / 切します。

SOURCE/RECEIVER（ソース / レシーバー）キー
リモコンで操作する機器（本機、外部機器）を切り替えます（113 ページ）。本機を選んでいるときはオレンジ色、外部機器を選んでいるときは緑色に点灯します。

RECEIVER ⏻（レシーバー電源）キー
本機の電源を入 / 切（スタンバイ）します。

❹ 入力選択キー
再生する入力を選びます。

AV1 ～ 7 キー	AV1 ～ 7 端子
V-AUX キー	前面の VIDEO AUX 端子
AUDIO1 ～ 4 キー	AUDIO1 ～ 4 端子
MULTI キー	MULTI CH INPUT 端子
PHONO キー	PHONO 端子
DOCK キー	DOCK 端子
TUNER キー	FM/AM ラジオ
NET キー	NETWORK 端子（繰り返し押して「PC」と「NET RADIO」を切り替えます）
USB キー	前面の USB 端子

❺ ラジオキー
入力中の FM/AM ラジオを操作します。

FM キー	FM ラジオに切り替えます。
AM キー	AM ラジオに切り替えます。
MEMORY キー	FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します。
PRESET キー	プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます。
TUNING キー	ラジオ周波数を切り替えます。

❻ INFO（インフォ）キー
前面ディスプレイの表示を切り替えます（82 ページ）。

❼ SLEEP（スリープ）キー
繰り返し押してスリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定します。スリープタイマー設定中は前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると本機がスタンバイになります。

❽ PARTY（パーティー）キー
パーティーモードを入 / 切します（78 ページ）。

❾ SCENE（シーン）キー
入力、音場プログラム、HDMI 出力端子など、登録した内容をワンタッチで選びます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。（49 ページ）

❿ ON SCREEN（オンスクリーン）キー
テレビ画面にオンスクリーンメニューを表示します。

⓫ メニュー操作キー

カーソルキー	メニューや設定値を選びます。
ENTER キー	選択項目を決定します。
RETURN キー	メニュー操作中に、1 つ前の表示に戻します。

⓬ MODE（モード）キー
FM ラジオのステレオ / モノラルを切り替えます。
iPod の操作モードを切り替えます（62 ページ）。

⓭ 数字キー
ラジオ局の周波数を指定する場合など、数値を入力します。

⓮ TV 操作キー
テレビの入力、音量などを操作します（112 ページ）。

⓯ CODE SET（コードセット）ボタン
リモコンに外部機器のリモコンコードを登録します（112 ページ）。

⓰ サウンド選択キー
音場プログラムを選びます（51 ページ）。

⓱ OPTION（オプション）キー
オプションメニューを表示します（83 ページ）。

⓲ VOLUME（ボリューム）キー
音量を調節します。

⓳ DISPLAY（ディスプレイ）キー
テレビ画面にステータス情報を表示します（82 ページ）。

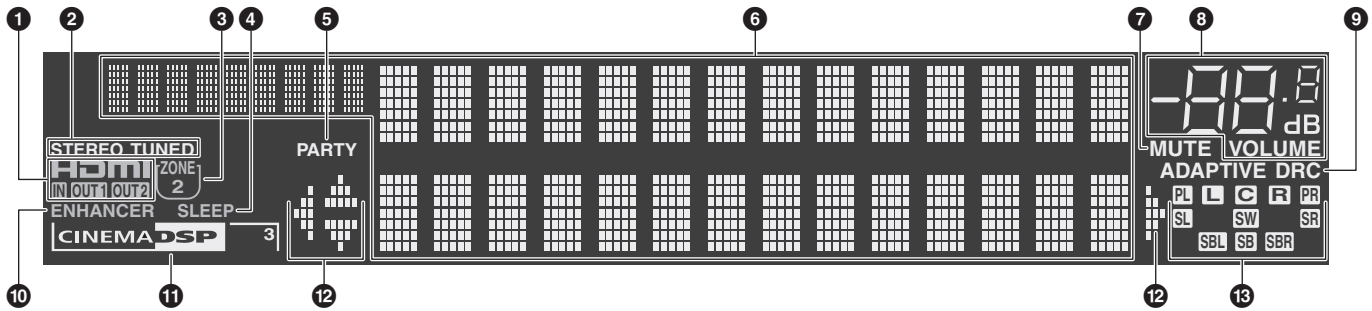
⓴ MUTE（ミュート）キー
消音します。

㉑ 外部機器操作キー
外部機器の再生、メニュー表示などを操作します（113 ページ）。

㉒ HDMI OUT（HDMI アウト）キー
信号を出力する HDMI 出力端子を切り替えます（48 ページ）。

- 本機のリモコンで外部機器を操作するには、あらかじめリモコンコードを登録する必要があります（112 ページ）。

前面ディスプレイ（インジケーター）



❶ HDMI
HDMI 信号入力 / 出力時に点灯します。

IN
HDMI 信号入力時に点灯します。

OUT1/OUT2
HDMI 信号を出力中の HDMI OUT 端子を表示します。

❷ STEREO（ステレオ）
ステレオ放送受信時に点灯します。

TUNED（チューンド）
FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

❸ ZONE 2（ゾーン 2）
ゾーン 2 出力が有効なときに点灯します。

❹ SLEEP（スリープ）
スリープタイマー設定時に点灯します。

❺ PARTY（パーティー）
パーティーモード中（78 ページ）に点灯します。

❻ 情報ディスプレイ
選択中の入力や音場プログラムなど、ステータス情報が表示されます。
INFO キーで表示する情報を選べます（82 ページ）。

❼ MUTE（ミュート）
消音中に点滅します。

❽ 音量表示
音量を表示します。

❾ ADAPTIVE DRC（アダプティブ DRC）
Adaptive DRC（84 ページ）が機能しているときに点灯します。

❿ ENHANCER（エンハンサー）
ミュージックエンハンサー（55 ページ）が機能しているときに点灯します。

⓫ CINEMA DSP（シネマ DSP）
シネマ DSP（52 ページ）が機能しているときに点灯します。

CINEMA DSP 3（シネマ DSP 3D）
シネマ DSP 3D（54 ページ）が機能しているときに点灯します。

⓬ カーソル表示
操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

⓭ スピーカー表示
音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

- L フロントスピーカー（左）
- R フロントスピーカー（右）
- C センタースピーカー
- SL サラウンドスピーカー（左）
- SR サラウンドスピーカー（右）
- SBL サラウンドバックスピーカー（左）
- SBR サラウンドバックスピーカー（右）
- SB サラウンドバックスピーカー
- PL フロントプレゼンススピーカー（左）
- PR フロントプレゼンスピーカー（右）
- SW サブウーファー

準備する

使用までの基本的な流れ

1	スピーカーを接続する（15 ページ）	**スピーカーシステム（基本編）（16 ページ）** スピーカーの配置を決定し、本機に接続します。 **スピーカーシステム（応用編）（20 ページ）** バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）、マルチゾーン接続を使ったスピーカーシステムを構築します。
2	テレビを接続する（26 ページ）	テレビを本機に接続します。
3	再生機器を接続する（31 ページ）	ビデオ機器（BD/DVD レコーダーなど）やオーディオ機器（CD プレーヤーなど）を本機に接続します。
4	FM/AM アンテナを接続する（36 ページ）	付属の FM アンテナと AM アンテナを本機に接続します。
5	ネットワークに接続する（37 ページ）	本機をネットワークに接続します。
6	その他の機器を接続する（38 ページ）	録画 / 録音機器などの外部機器を本機に接続します。
7	電源コードを接続する（40 ページ）	すべての接続が完了したら、付属の電源コードを本機に接続します。
8	スピーカー設定を自動で調整する（41 ページ）	音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO）。

これで使用前に必要な接続および設定は完了です。映画、音楽、ラジオなど、本機での再生を存分にお楽しみください！

1 スピーカーを接続する

本機は 7 チャンネルのアンプを内蔵しています。ご使用になる環境や楽しみ方に合わせて、2 ～ 9 本のスピーカーと最大 2 台のサブウーファー（アンプ内蔵）を接続できます。
さらに、バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）、マルチゾーン接続を使った応用的なスピーカーシステムにも対応しています（20 ページ）。

注意

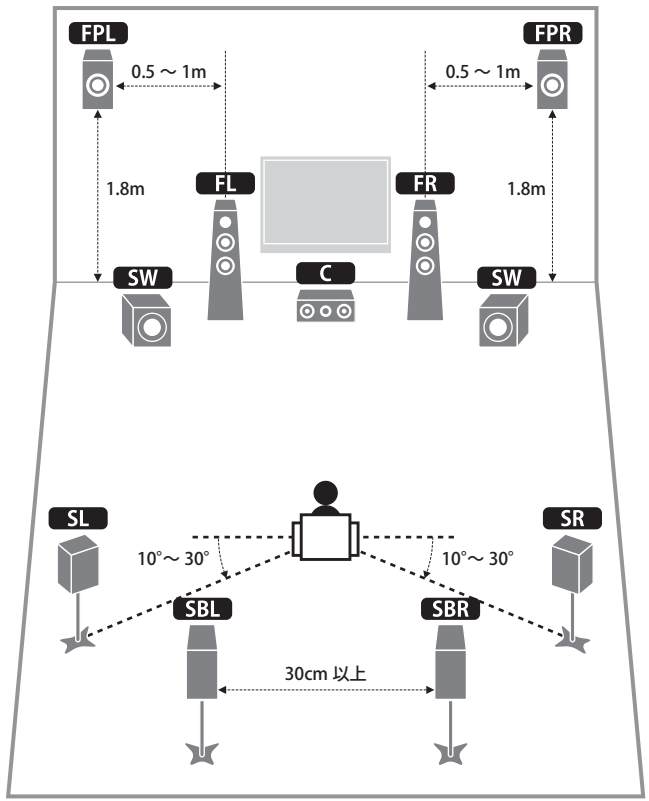
- スピーカーはインピーダンスが 6 Ω以上のものをお使いください。

各スピーカーの役割

スピーカーの種類	略称	機能
フロント（左）	FL	フロント左 / 右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
フロント（右）	FR	
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド（左）	SL	サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。サラウンドバック左 / 右を使用しない場合は、サラウンドバックチャンネルの音声も出力します。
サラウンド（右）	SR	
サラウンドバック（左）	SBL	サラウンドバック左 / 右チャンネルの音声を出力します。サラウンドバック左 / 右を使用しない場合は、サラウンドスピーカーからサラウンドバックチャンネルの音声が出力されます。
サラウンドバック（右）	SBR	
フロントプレゼンス（左）	FPL	シネマ DSP の効果音を出力します。シネマ DSP 3D（54 ページ）と組み合わせることで、自然で立体的な視聴空間を創り出します。
フロントプレゼンス（右）	FPR	
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。 サブウーファーのチャンネル数は「0.1」と表します。本機には最大2台のサブウーファー（アンプ内蔵）を接続できます。サブウーファーを2台使用する場合は、お好みで部屋の前後または左右に設置します。

- フロントプレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使って VPS（バーチャル・プレゼンス・スピーカー）を創り出し、立体的な視聴空間を実現します。ただし、立体的な音場効果を十分に得るにはフロントプレゼンススピーカーの使用をおすすめします。
- 「理想的なスピーカー配置」（右図）を参考にスピーカーを配置してください。図に正確に合わせる必要はありません。自動測定（YPAO）を実行することで、配置に合わせてスピーカー設定（距離など）を補正できます。
- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、視聴位置の後方（右図の「SBL」と「SBR」の中間）に設置してください。

理想的なスピーカー配置

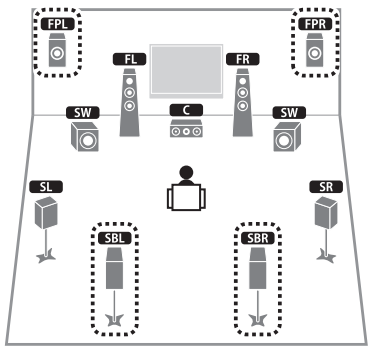


スピーカーシステム（基本編）

■ スピーカーを配置する

使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファー（アンプ内蔵）を部屋に配置します。本書では例として、代表的な配置方法を説明します。

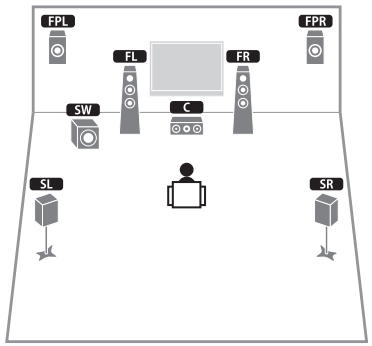
□ 7.1+2 チャンネルシステム（サラウンドバックおよびフロントプレゼンス使用時）



本機の性能をフルに活用できるシステムです。ごく自然で立体的な視聴空間であらゆるコンテンツをお楽しみいただけます。

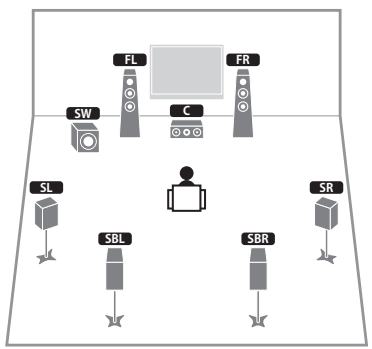
- サラウンドバックスピーカーとフロントプレゼンススピーカーから同時に音声を出力することはできません。選択したシネマ DSP（52 ページ）により、音声を出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

□ 7.1 チャンネルシステム（フロントプレゼンス使用時）



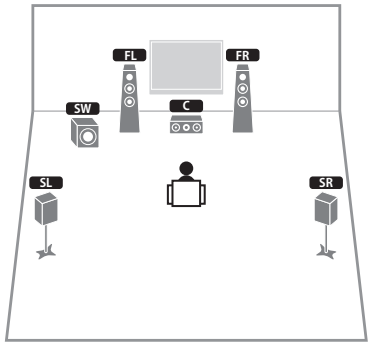
フロントプレゼンススピーカーを使って、ごく自然で立体的な視聴空間を実現します。5.1 チャンネルのコンテンツを楽しむのに適したシステムです。

□ 7.1 チャンネルシステム（サラウンドバック使用時）



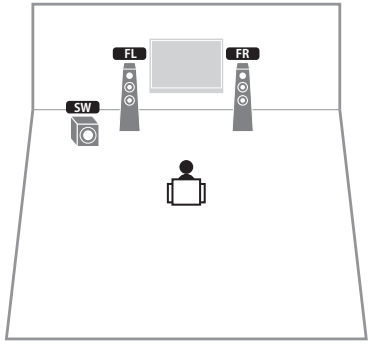
フロント、センター、サラウンドスピーカーを使って VPS（バーチャル・プレゼンス・スピーカー）を創り出し、立体的な視聴空間を実現します。また、サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。

□ 5.1 チャンネルシステム



フロント、センター、サラウンドスピーカーを使って VPS（バーチャル・プレゼンス・スピーカー）を創り出し、立体的な視聴空間を実現します。5.1 チャンネルのコンテンツを楽しむのに適したシステムです。

□ 2.1 チャンネルシステム



サラウンドスピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロントスピーカーを使ってバーチャル・サラウンド・スピーカーを創り出します（バーチャルシネマ DSP）。したがって最小構成の 2 チャンネルシステム（フロントスピーカーのみ）でもマルチチャンネルサラウンドをお楽しみいただけます。

- センタースピーカーを使用した 3.1 チャンネルシステムも可能です。

■ スピーカーを接続する

部屋に配置したスピーカーを本機に接続します。

注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、サブウーファーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。

接続するスピーカー

部屋	スピーカーの種類	略称	スピーカーシステム（チャンネル数）				パワーアンプ割り当て（96 ページ）
			7+2	7	5	2	
メインゾーン	フロント（左）	FL	●	●	●	●	Basic（初期値）
	フロント（右）	FR	●	●	●	●	
	センター	C	●	●	●		
	サラウンド（左）	SL	●	●	●		
	サラウンド（右）	SR	●	●	●		
	サラウンドバック（左）	SBL	●	○ *1			
	サラウンドバック（右）	SBR	●	○ *1			
	フロントプレゼンス（左）	FPL	●	○ *2			
	フロントプレゼンス（右）	FPR	●	○ *2			

7 本のスピーカーを使う場合は、そのうち 2 本をサラウンドバックスピーカー（*1）またはフロントプレゼンススピーカー（*2）として使用します。

- 上記以外に、最大 2 台のサブウーファーを接続できます。
- スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ（ハイファイアンプなど）を使う場合は、「外部パワーアンプを接続する」（24 ページ）をご覧ください。

必要なケーブル（市販品）

□ スピーカーケーブル（スピーカーの本数分）

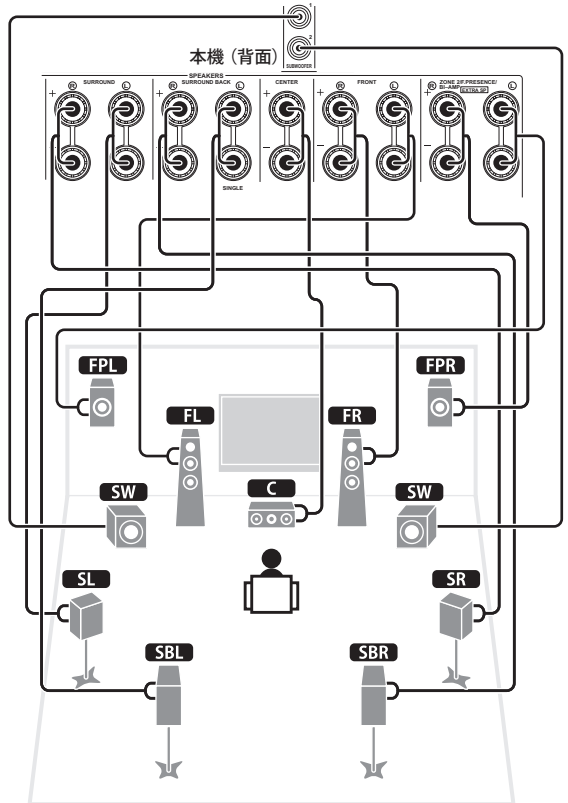


□ モノラルピンケーブル（サブウーファー 2 台接続時は 2 本）



接続図

下図を参考に、スピーカーを本機に接続してください。



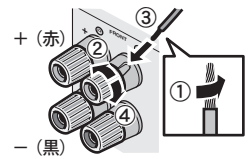
- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ接続する場合は、SINGLE 端子（L 側）に接続してください。

1 スピーカーの接続 2 3 4 5 6 7 8

□ スピーカーケーブルを接続する

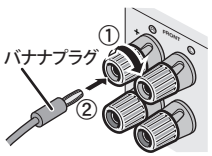
通常スピーカーケーブルは 2 芯（＋と－）で 1 本になっています。片方で本機とスピーカーの－（マイナス）端子どうし、もう一方で＋（プラス）端子どうしを接続してください。色で区別されている場合、黒を－（マイナス）側、もう一方を＋（プラス）側と決めておくと間違わずに接続できます。

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。
② スピーカー端子をゆるめる。
③ 端子側面（右上または左下）のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
④ 端子を締め付ける。



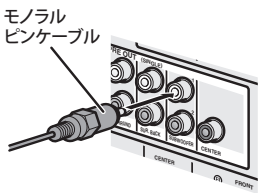
バナナプラグを使用する場合

① スピーカー端子を締め付ける。
② 端子にバナナプラグを差し込む。



□ サブウーファーを接続する

サブウーファーの接続には、モノラルピンケーブルを使います。



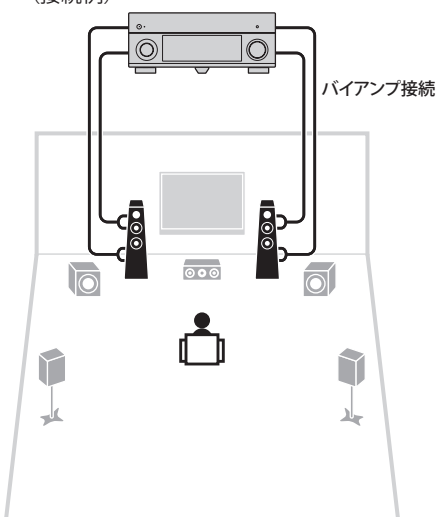
スピーカーシステム（応用編）

本機は、「スピーカーシステム（基本編）」（16 ページ）で紹介したシステム以外に、以下のシステムにも対応しています。

フロントスピーカーに 4 つの内蔵アンプを適用してさらに音質を高める

バイアンプ接続

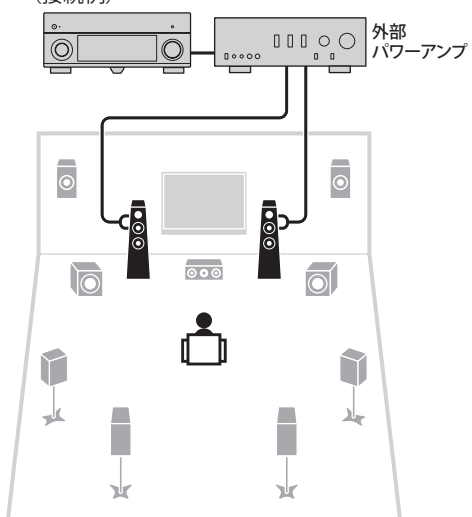
（接続例）



外部パワーアンプ（ハイファイアンプなど）と組み合わせてシステムを拡張する

チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）

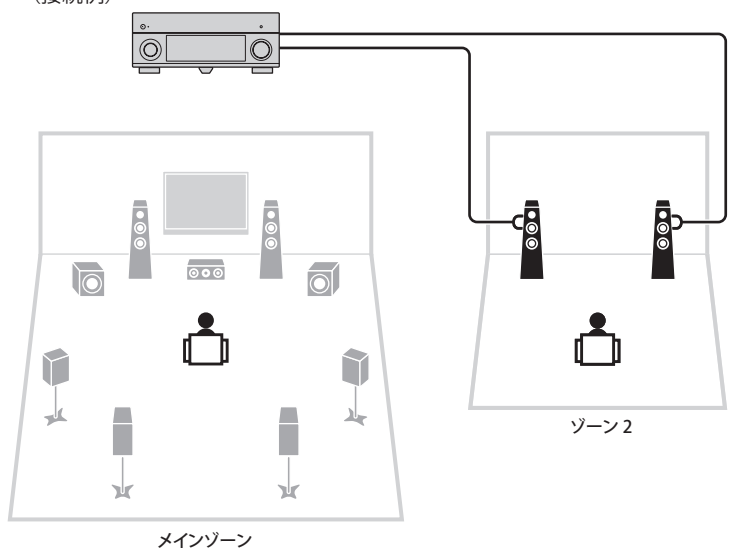
（接続例）



余った内蔵アンプを利用して他の部屋でステレオ音声を楽しむ

マルチゾーン接続

（接続例）

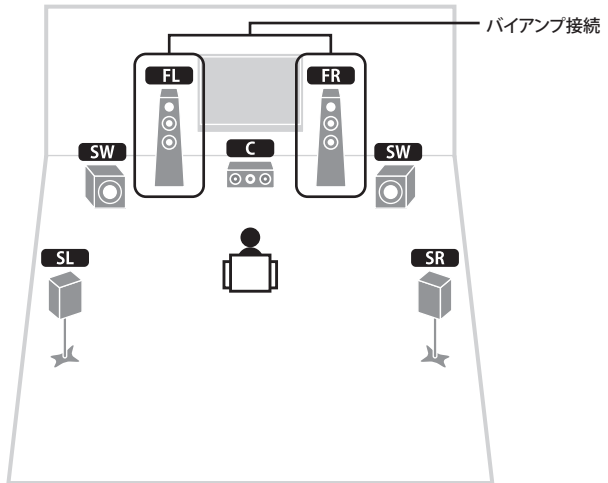


■ 構成パターン一覧

メインゾーン			マルチゾーン	パワーアンプ割り当て（96 ページ）	ページ
最大チャンネル数	バイアンプ接続	チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）			
5	○			5ch BI-AMP	21
7	○	サラウンドバック		5ch BI-AMP +SB	22
7			+1（ゾーン 2）	7ch +1ZONE	22

- これらのシステムを適用するには、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」（96 ページ）で正しい設定を選んでください。

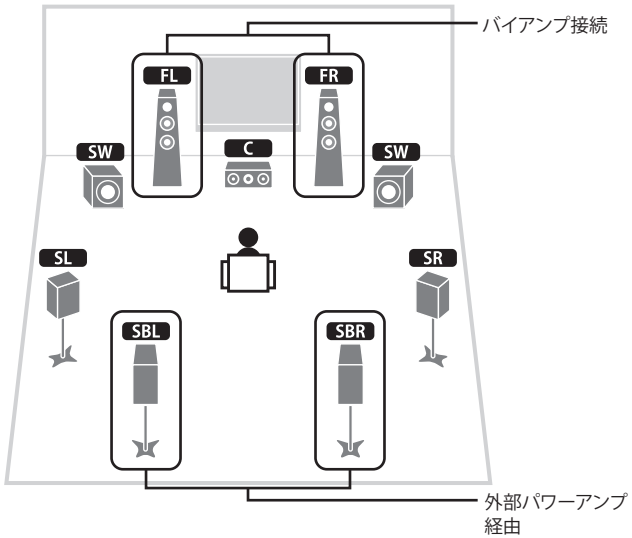
□ 5ch BI-AMP



スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP（バイアンプ接続）
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	（使用しない）
FPL FPR	（使用しない）
SW	SUBWOOFER 1 ～ 2

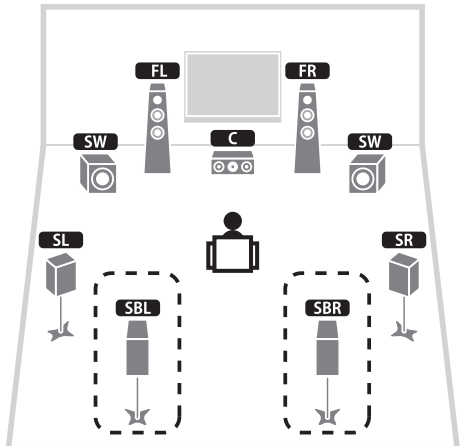
1 スピーカーの接続 2 3 4 5 6 7 8

□ 5ch BI-AMP +SB

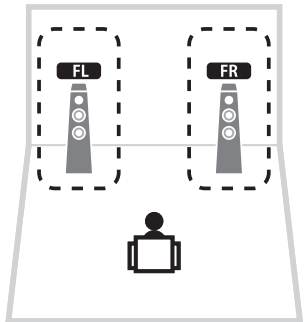


スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP（バイアンプ接続）
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SUR.BACK（PRE OUT）（外部パワーアンプ経由）
FPL FPR	（使用しない）
SW	SUBWOOFER 1 ～ 2

□ 7ch +1ZONE



メインゾーン



ゾーン 2

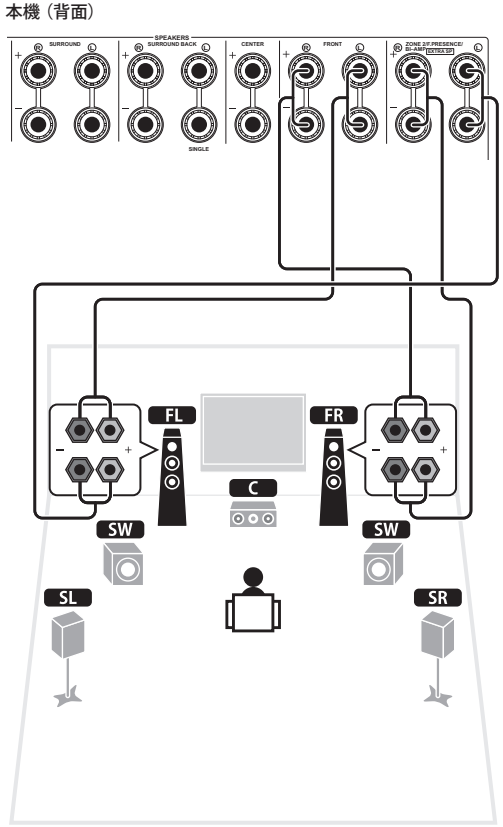
スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	（使用しない）
SW	SUBWOOFER 1 ～ 2
ゾーン 2 スピーカー	EXTRA SP

- ゾーン 2 出力が有効なとき（77 ページ）は、メインゾーンのサラウンドバックスピーカーから音が出ません。

■ バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを接続する

バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを使う場合は、スピーカーを FRONT 端子および EXTRA SP 端子に接続します。
バイアンプ機能を有効にするには、電源コードを接続後、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」（96 ページ）で正しい設定を選んでください。

本機（背面）



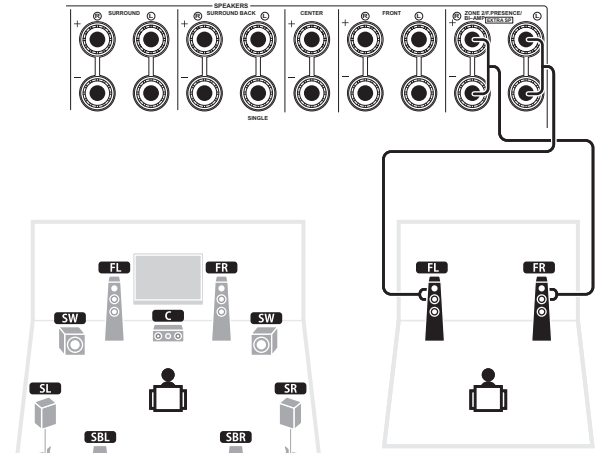
注意

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具（またはケーブル）を取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ ゾーン 2 スピーカーを接続する

ゾーン 2 スピーカーを使う場合は、スピーカーを EXTRA SP 端子に接続します。
EXTRA SP 端子をゾーン 2 スピーカーに割り当てるには、電源コードを接続後、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」（96 ページ）で正しい設定を選んでください。

本機（背面）



- 外部パワーアンプを使ってゾーン 2 スピーカーを接続することもできます（75 ページ）。

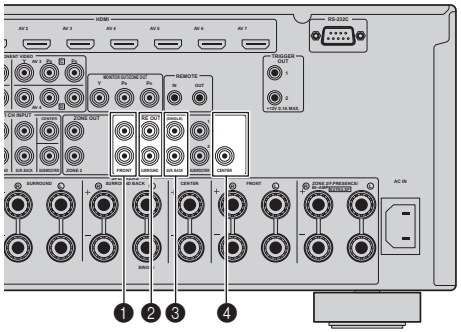
■ 外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプを使う場合は、外部パワーアンプの入力端子を本機の PRE OUT 端子に接続します。
PRE OUT 端子からは、SPEAKERS 端子と同様に各チャンネルの音声が出力されます。

注意

- 大音量や異音の発生を防ぐため、以下の点を必ず守ってください。
  - 外部パワーアンプを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、外部パワーアンプの電源を切ってください。
  - PRE OUT 端子を使う場合は、該当するチャンネルのスピーカーを SPEAKERS 端子に接続しないでください。
  - 音量調整バイパス機能に対応していない外部パワーアンプを使う場合は、本機以外の機器を外部パワーアンプに接続しないでください。

本機（背面）



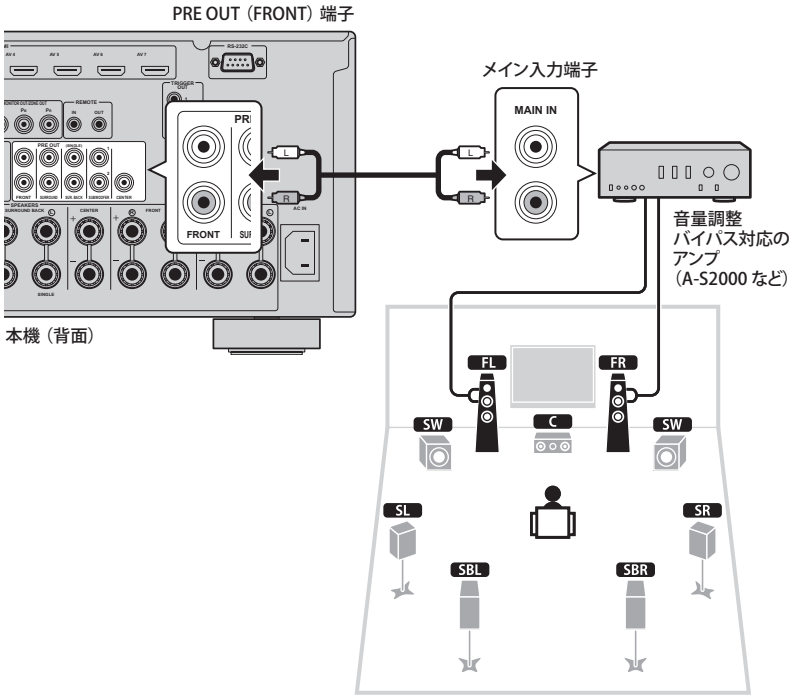
❶ FRONT 端子
フロント左 / 右チャンネルの音声を出力します。

❷ SURROUND 端子
サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。

❸ SUR.BACK 端子
サラウンドバック左 / 右チャンネルの音声を出力します。外部パワーアンプを 1 つだけ接続する場合は、SINGLE 端子（L 側）を使ってください。

❹ CENTER 端子
センターチャンネルの音声を出力します。

（接続例）
フロントスピーカーを外部パワーアンプ経由で接続する場合



推奨する外部パワーアンプ

以下の仕様に合ったパワーアンプの使用をおすすめします。
- アンバランス入力を装備
- 音量調整バイパス機能に対応（または音量調整回路がない）
- 出力：100W（8 Ω）以上

- 音量調整バイパス機能に対応していない外部パワーアンプを使う場合は、外部パワーアンプの音量を十分に上げて、固定してください。

入出力端子とケーブル

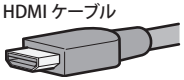
本機は以下の入出力端子を装備しています。接続する外部機器側の端子に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

■ 映像 / 音声を入出力する端子

□ HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。





- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 外部機器の DVI 端子と接続する場合は、HDMI ⇔ DVI-D ケーブルをお使いください。

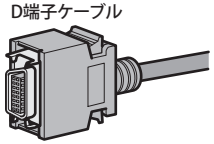
- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル（ARC）、3D 映像の伝送（スルー出力）に対応しています。

■ 映像を入出力する端子

□ D4 VIDEO 端子

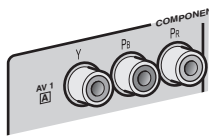
映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離し、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を含めて伝送します。接続には、D 端子ケーブルを使います。

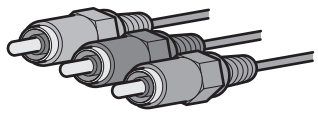




□ COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離して伝送します。接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントケーブルを使います。

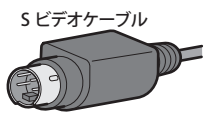




□ S VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、色信号（C）に分離して転送します。接続には、S ビデオケーブルを使用します。





□ VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



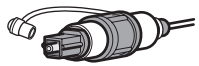


■ 音声を入出力する端子

□ OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。

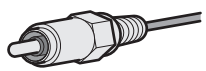




□ COAXIAL 端子

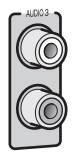
デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。

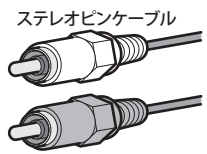




□ AUDIO 端子

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオピンケーブルを使います。

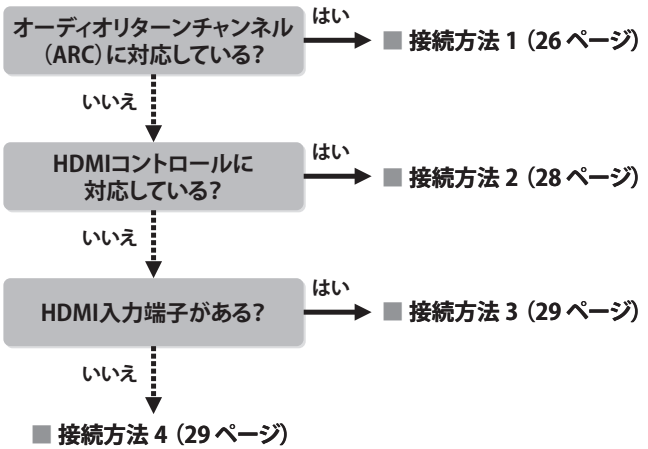




2 テレビを接続する

テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。
また、テレビ番組の音声を本機で楽しむことができます。
テレビに備わっている映像入力端子や機能により、推奨する接続方法が異なります。
テレビの取扱説明書をご確認のうえ、接続方法を選んでください。

お使いのテレビは



● HDMI コントロールとは…

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど）も操作できます。詳しくは「HDMI コントロール」（128 ページ）をご覧ください。

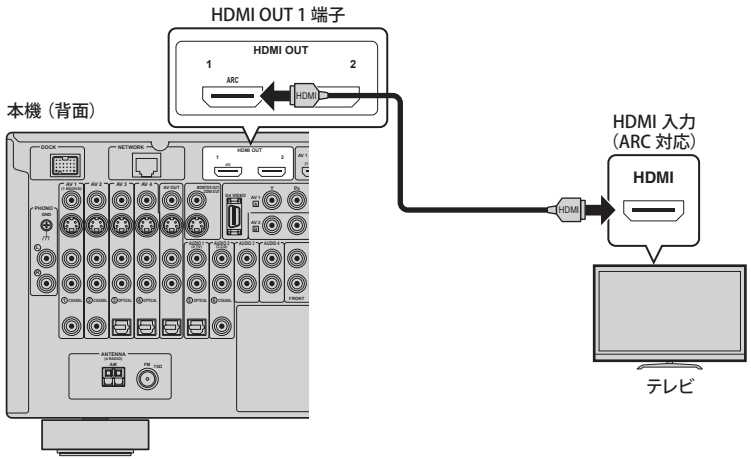
● オーディオリターンチャンネル（ARC）とは…

HDMI コントロールの制御のもと、1 本の HDMI ケーブルで音声信号の送受信を可能にします。テレビが HDMI コントロールおよび ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

■ 接続方法 1（HDMI コントロール / ARC 対応のテレビ）

HDMI ケーブルを使って、テレビを本機に接続します。

- 以下の接続および設定手順は、設定メニューの「HDMI 設定」（101 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。
- HDMI コントロールを使うには、テレビを HDMI OUT1 端子に接続してください。



- HDMI でテレビを本機に接続した場合、ビデオ機器の接続方法に関係なくすべての映像をテレビに出力できます。詳しくは「映像信号の流れ」（127 ページ）をご覧ください。
- HDMI OUT2 端子を使って、テレビやプロジェクターなどをもう 1 台接続できます（30 ページ）。

□ 必要な設定

HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。
テレビの設定や操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

1 外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。

2 HDMI コントロールを使うための設定をする。

① テレビ、および HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。

② テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。

③ 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

④ テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

⑤ 以下の点を確認する。

本機：再生機器からの HDMI 入力（「AV1~7」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

⑥ テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。
連動しない場合は、設定メニューの「HDMI コントロール」（128 ページ）が「オン」になっているかを確認してください。

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。

3 テレビの ARC 機能が有効になっていることを確認する。

これで設定は完了です。

テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶと、本機の入力が自動的に「AUDIO1」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されます。
テレビの音声が出力されない場合は、設定メニューの「ARC」（102 ページ）が「オン」になっているか確認してください。

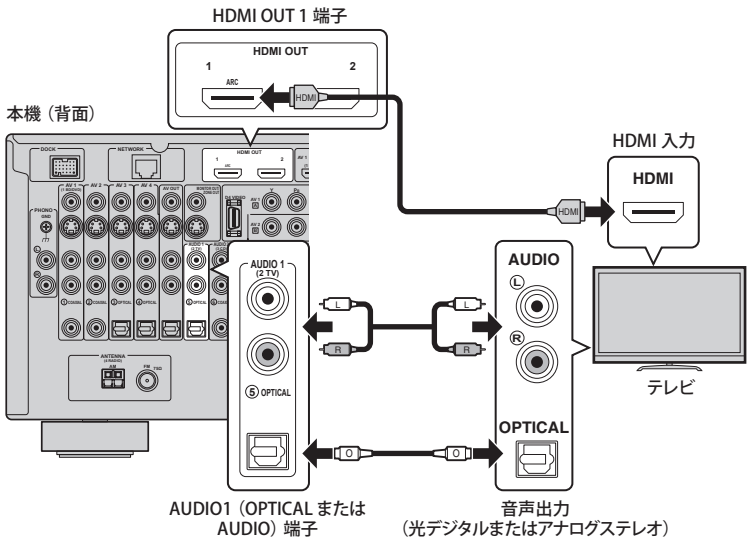
- ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」（102 ページ）を「オフ」に設定し、音声ケーブル（光デジタルまたはステレオピンケーブル）で本機とテレビを接続してください（28 ページ）。

- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」（101 ページ）でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能（49 ページ）を使う場合は、SCENE（TV）キーの入力設定もあわせて変更してください。

■ 接続方法 2（HDMI コントロール対応のテレビ）

HDMI ケーブルと音声ケーブル（光デジタルまたはステレオピンケーブル）を使って、テレビを本機に接続します。

- 以下の接続および設定手順は、設定メニューの「HDMI 設定」（101 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。
- HDMI コントロールを使うには、テレビを HDMI OUT1 端子に接続してください。



- HDMI でテレビを本機に接続した場合、ビデオ機器の接続方法に関係なくすべての映像をテレビに出力できます。詳しくは「映像信号の流れ」（127 ページ）をご覧ください。
- HDMI OUT2 端子を使って、テレビやプロジェクターなどをもう 1 台接続できます（30 ページ）。

□ 必要な設定

HDMI コントロールを使うには、あらかじめ設定が必要です。
テレビの設定や操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

1 **外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。**

2 **HDMI コントロールを使うための設定をする。**

① テレビ、および HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。

② テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。

③ 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

④ テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

⑤ 以下の点を確認する。

本機：再生機器からの HDMI 入力（「AV1~7」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

⑥ テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。
連動しない場合は、設定メニューの「HDMI コントロール」（101 ページ）が「オン」になっているかを確認してください。

これで設定は完了です。

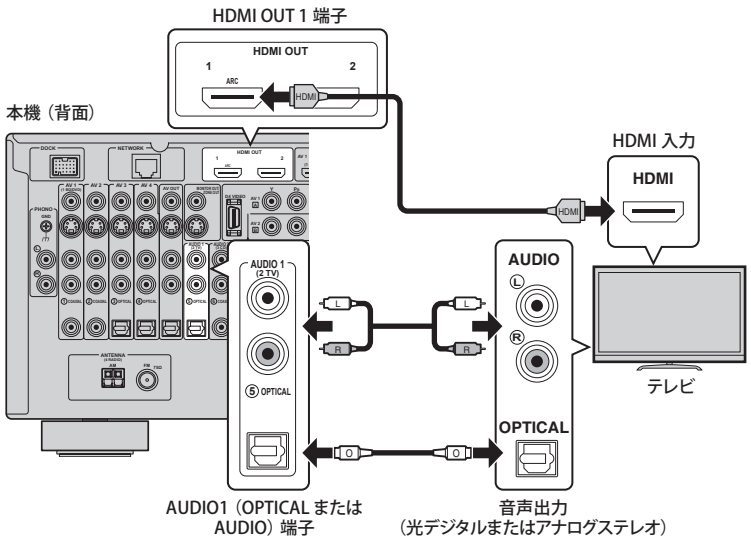
テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶと、本機の入力が自動的に「AUDIO1」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されます。

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。

- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」（101 ページ）**でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能（49 ページ）を使う場合は、SCENE（TV）キーの入力設定もあわせて変更してください。**

■ 接続方法 3（HDMI 入力端子があるテレビ）

HDMI ケーブルと音声ケーブル（光デジタルまたはステレオピンケーブル）を使って、テレビを本機に接続します。



AUDIO1 キーまたは SCENE（TV）キーで入力を「AUDIO1」に切り替えると、テレビの音声が本機から出力されます。

- HDMI でテレビを本機に接続した場合、ビデオ機器の接続方法に関係なくすべての映像をテレビに出力できます。詳しくは「映像信号の流れ」（127 ページ）をご覧ください。
- HDMI OUT2 端子を使って、テレビやプロジェクターなどをもう 1 台接続できます（30 ページ）。
- AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、ほかの音声入力端子（AUDIO2 ～ 4 のいずれか）に接続してください。また、SCENE（TV）キーの入力設定をあわせて変更してください（49 ページ）。

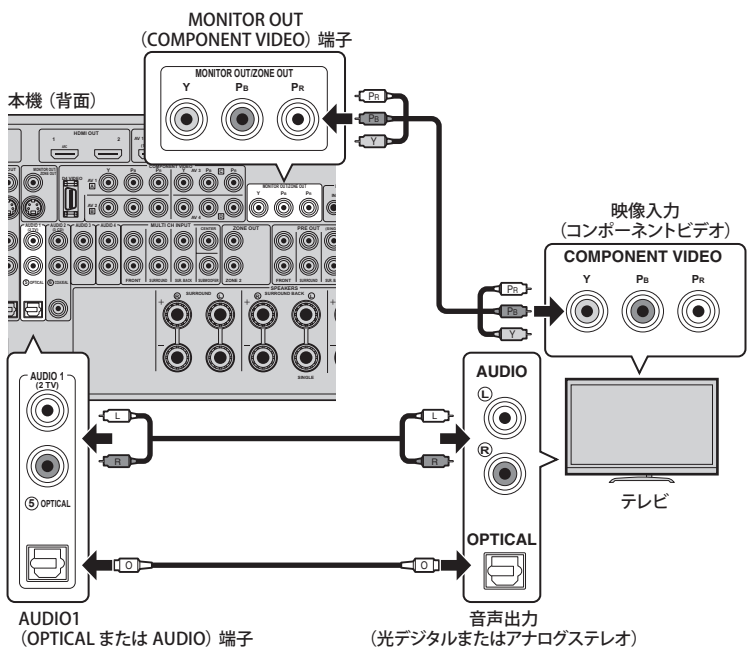
■ 接続方法 4（HDMI 入力端子がないテレビ）

テレビの映像入力端子に合わせて、以下のいずれかの方法で本機と接続します。
AUDIO1 キーまたは SCENE（TV）キーで入力を「AUDIO1」に切り替えると、テレビの音声が本機から出力されます。

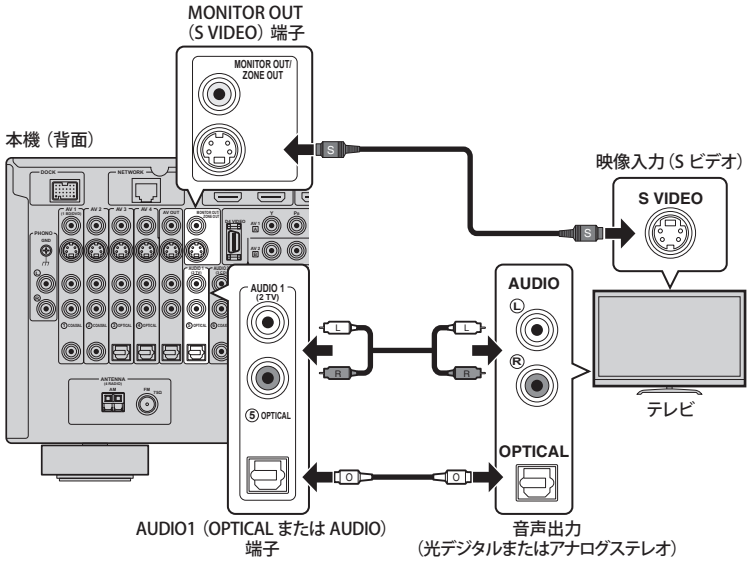
- HDMI で接続したビデオ機器の映像は、HDMI 以外で接続したテレビには出力できません。また、設定メニューの「アナログ端子間変換」の設定により、テレビに出力できる映像が異なります。詳しくは「映像信号の流れ」（127 ページ）をご覧ください。

- AV4 端子に別の機器を接続している場合は、ほかの音声入力端子（AUDIO2 ～ 4 のいずれか）に接続してください。また、SCENE（TV）キーの入力設定をあわせて変更してください（49 ページ）。
- テレビの映像入力端子が D 端子の場合は、D 端子 / コンポーネント変換ケーブルを使って、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続してください。

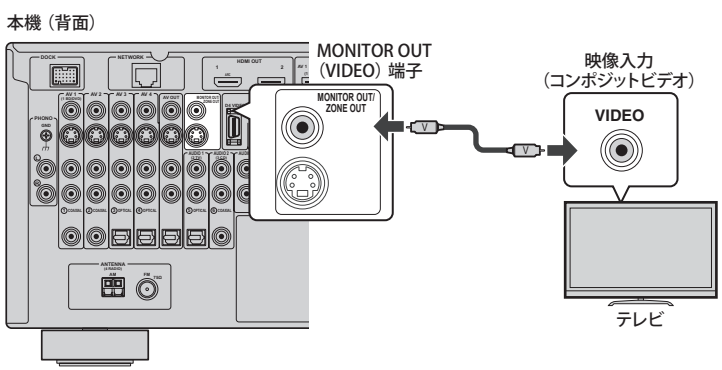
コンポーネントビデオ接続（コンポーネントケーブルを使用）



S ビデオ接続（S ビデオケーブルを使用）

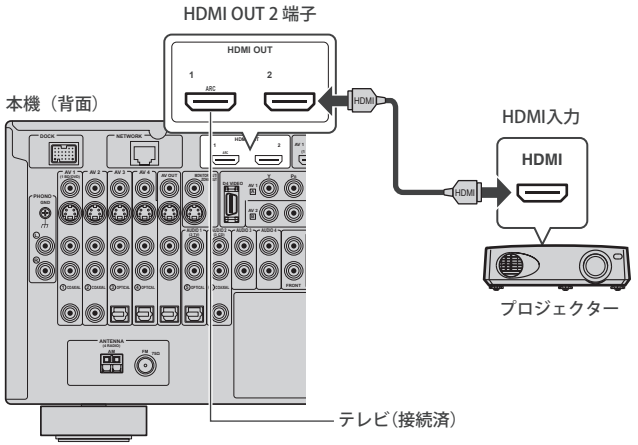


ビデオ（コンポジット）接続（映像用ピンケーブルを使用）



■ 複数のテレビやプロジェクターを接続する

本機には 2 つの HDMI 出力端子があります。HDMI ケーブルを使って、2 台目のテレビやプロジェクターを本機に接続しておけば、使用するテレビ / プロジェクターをリモコンで選べます（48 ページ）。



- HDMI OUT2 端子は HDMI コントロールには対応していません。

3 再生機器を接続する

本機は HDMI 端子をはじめとする各種の入力端子を装備しています。接続する再生機器の出力端子により、接続方法を選んでください。
iPod、Bluetooth 機器、USB 機器の接続については、以下のページをご覧ください。
- iPod を接続する（59 ページ）
- Bluetooth レシーバーを接続する（64 ページ）
- USB 機器を接続する（66 ページ）

ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）

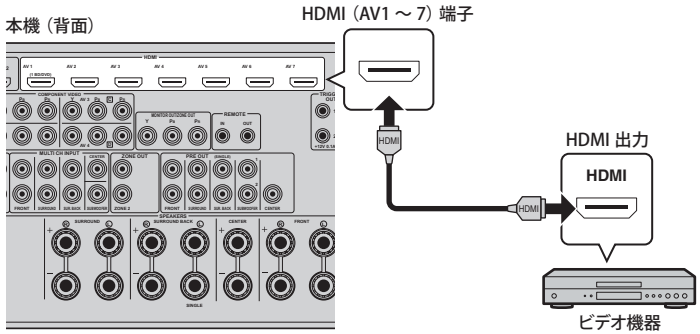
BD/DVD レコーダー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

- HDMI で接続したビデオ機器の映像は、HDMI 以外で接続したテレビには出力できません。
- 以下の接続は、設定メニューの「入力端子割り当て」（105 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。必要に応じて、COMPONENT VIDEO（A、B、C、D）端子、COAXIAL（①、②、⑥）端子、OPTICAL（③、④、⑤）端子を別の入力に割り当てることができます。

- 1 つの入力に対して 2 種類以上の音声ケーブルを接続した場合、本機で再生される音声信号はオプションメニューの「音声入力選択」（85 ページ）の設定にしたがいます。

■ HDMI 接続

HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。



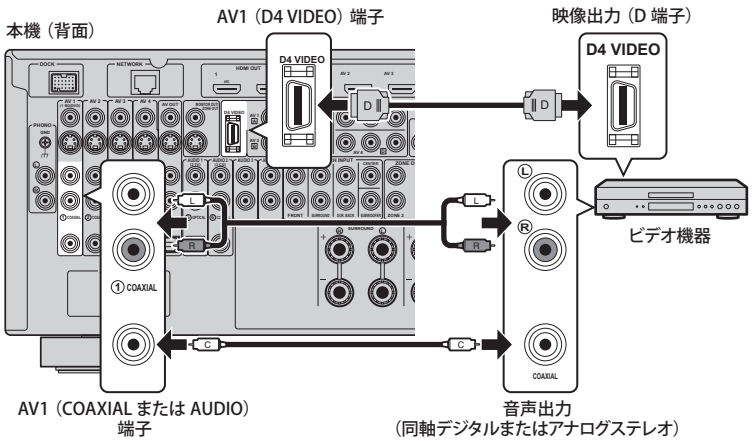
AV1 ～ 7 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

■ D 端子接続

D 端子ケーブルと音声ケーブル（同軸デジタルまたはステレオピンケーブル）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。

!

- AV1 端子の D4 VIDEO 端子と COMPONENT VIDEO 端子には、同時に機器を接続しないでください。



AV1 キーで入力を「AV1」に切り替えると、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

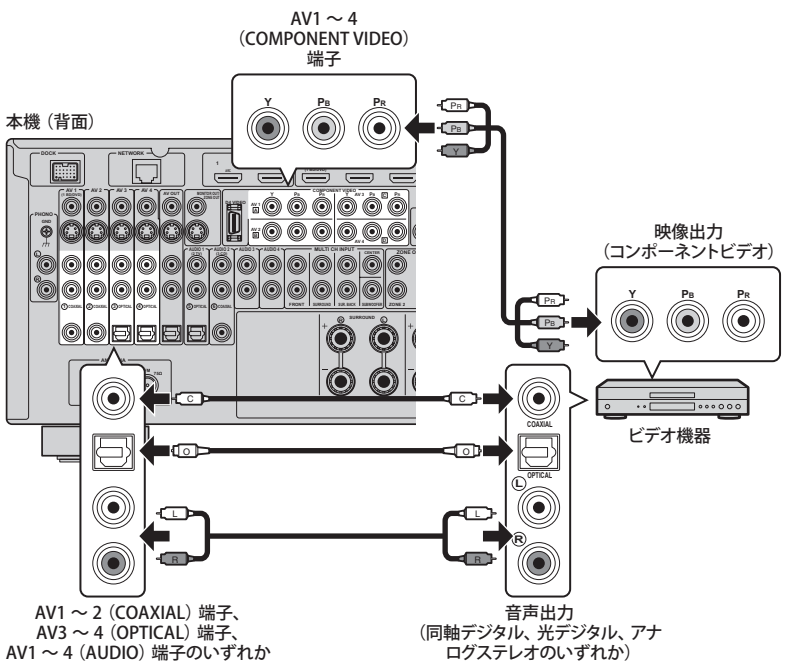
■ コンポーネントビデオ接続

コンポーネントケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル、光デジタル、ステレオピンケーブルのいずれか）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1 ～ 4）が異なります。

!

- AV1 端子の D4 VIDEO 端子と COMPONENT VIDEO 端子には、同時に機器を接続しないでください。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポーネントビデオ	同軸デジタル	AV1 ～ 2（COMPONENT VIDEO ＋ COAXIAL）
	光デジタル	AV3 ～ 4（COMPONENT VIDEO ＋ OPTICAL）
	アナログステレオ	AV1 ～ 4（COMPONENT VIDEO ＋ AUDIO）

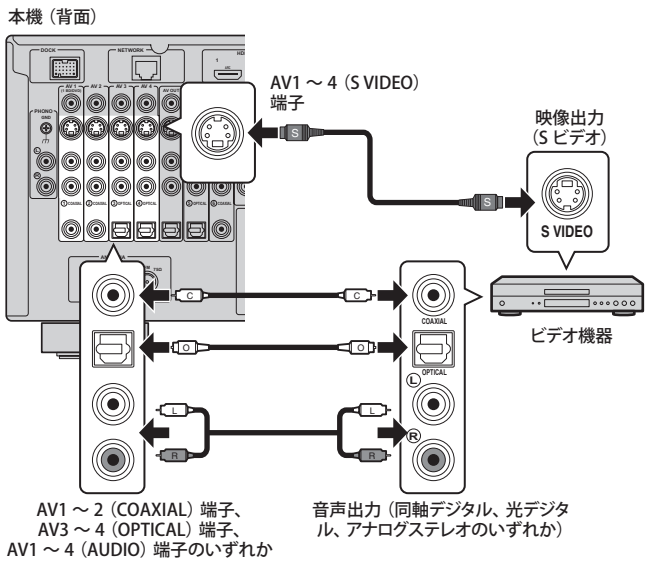


AV1 ～ 4 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

■ S ビデオ接続

S ビデオケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル、光デジタル、ステレオピンケーブルのいずれか）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1 ～ 4）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
S ビデオ	同軸デジタル	AV1 ～ 2（S VIDEO ＋ COAXIAL）
	光デジタル	AV3 ～ 4（S VIDEO ＋ OPTICAL）
	アナログステレオ	AV1 ～ 4（S VIDEO ＋ AUDIO）

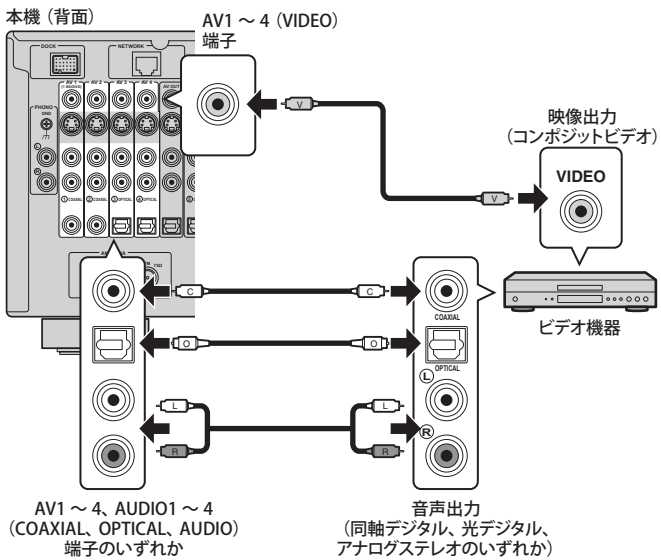


AV1 ～ 4 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

■ ビデオ（コンポジット）接続

映像用ピンケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル、光デジタル、ステレオピンケーブルのいずれか）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1 ～ 4）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポジットビデオ	同軸デジタル	AV1 ～ 2（VIDEO ＋ COAXIAL）
	光デジタル	AV3 ～ 4（VIDEO ＋ OPTICAL）
	アナログステレオ	AV1 ～ 4（VIDEO ＋ AUDIO）



AV1 ～ 4 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

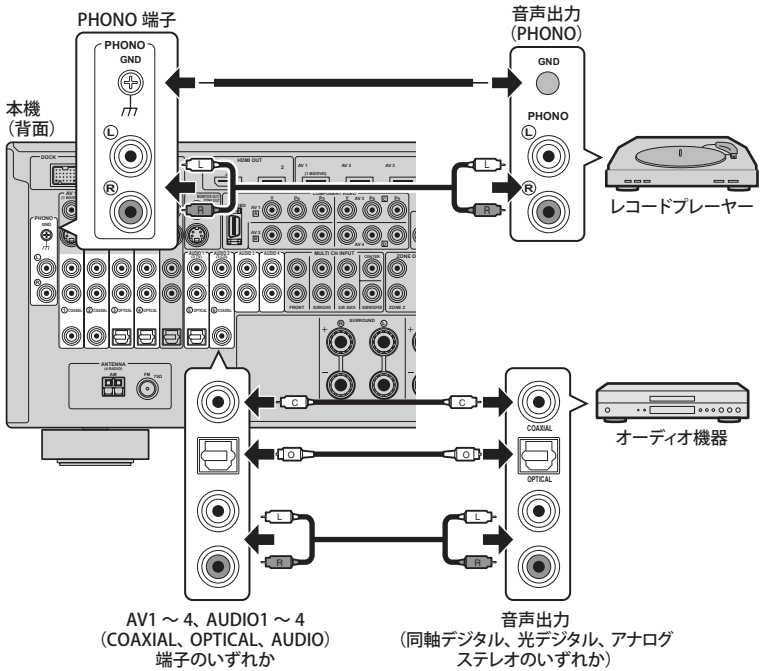
オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど）

CD プレーヤー、MD プレーヤー、レコードプレーヤーなどのオーディオ機器を本機に接続します。
接続するオーディオ機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

- 以下の接続は、設定メニューの「入力端子割り当て」（105 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。必要に応じて、COAXIAL（①、②、⑥）端子、OPTICAL（③、④、⑤）端子を別の入力に割り当てることができます。

- 1 つの入力に対して 2 種類以上の音声ケーブルを接続した場合、本機で再生される音声信号はオプションメニューの「音声入力選択」（85 ページ）の設定にしたがいます。

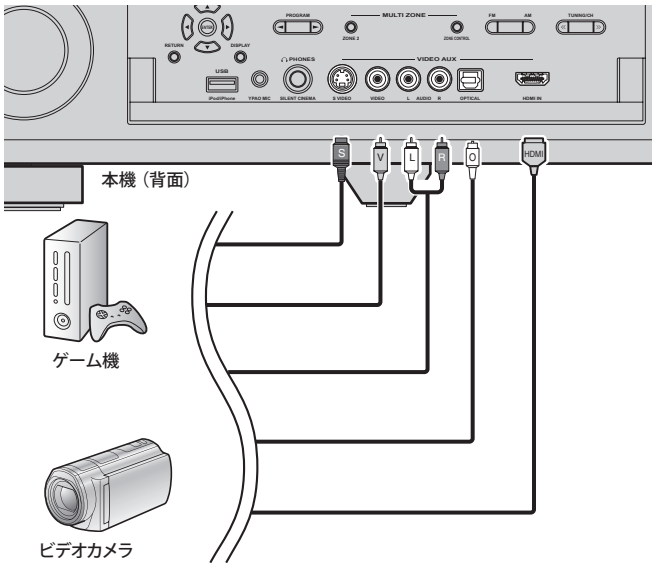
オーディオ機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
同軸デジタル	AV1 ～ 2（COAXIAL） AUDIO2（COAXIAL）
光デジタル	AV3 ～ 4（OPTICAL） AUDIO1（OPTICAL）
アナログステレオ	AV1 ～ 4（AUDIO） AUDIO1 ～ 4（AUDIO）
レコードプレーヤー（PHONO）	PHONO



AV1 ～ 4 キー、AUDIO1 ～ 4 キー、または PHONO キーで入力を選ぶと、オーディオ機器の音声が本機から出力されます。

本体前面の端子に接続する

ビデオカメラやゲーム機などの機器を一時的に接続する場合は、前面の VIDEO AUX 端子を利用すると便利です。
接続する前に、再生機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。

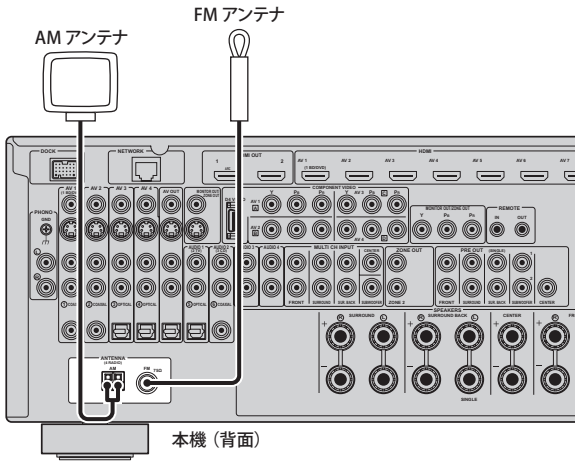


V-AUX キーで入力を「V-AUX」に切り替えると、接続した機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

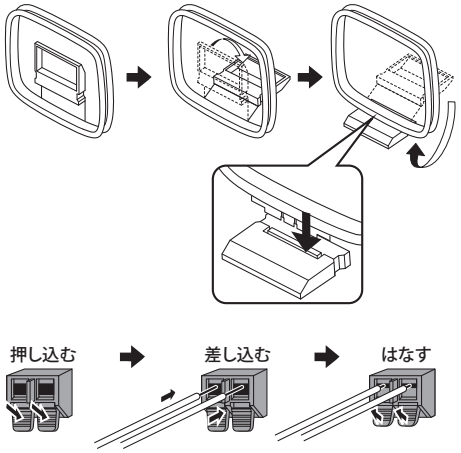
- **HDMI IN 端子とアナログ映像 / 音声端子の両方に機器を接続した場合、HDMI IN 端子の映像 / 音声が再生されます。**

4 FM/AM アンテナを接続する

付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。



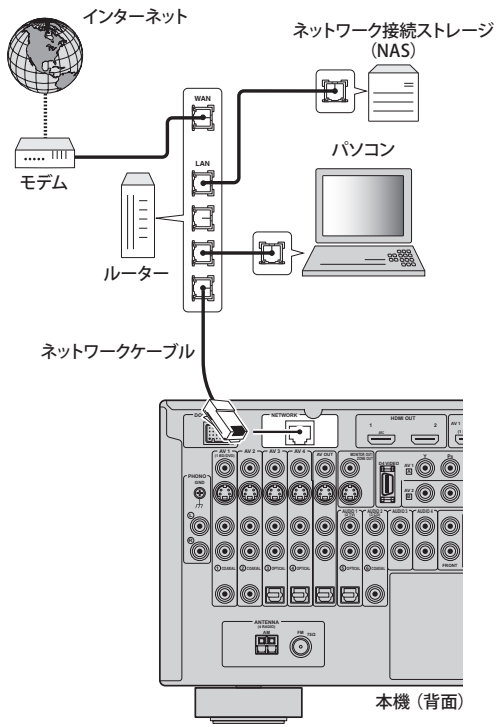
AM アンテナの組立と接続



- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。
- 市販の FM アンテナを使用する場合は、ねじ切りのないタイプをお使いください。

5 ネットワークに接続する

市販の STP ネットワークケーブル（CAT-5 以上のストレートケーブル）を使って、本機をルーターに接続します。
これによりインターネットラジオやパソコン、ネットワーク接続ストレージ（NAS）などの DLNA サーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。



- DHCP サーバー対応のルーターをお使いの場合は、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。ネットワーク情報（IP アドレスなど）が自動で割り当てられます。ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定（103 ページ）が必要になります。
- 情報メニューの「ネットワーク」（109 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。

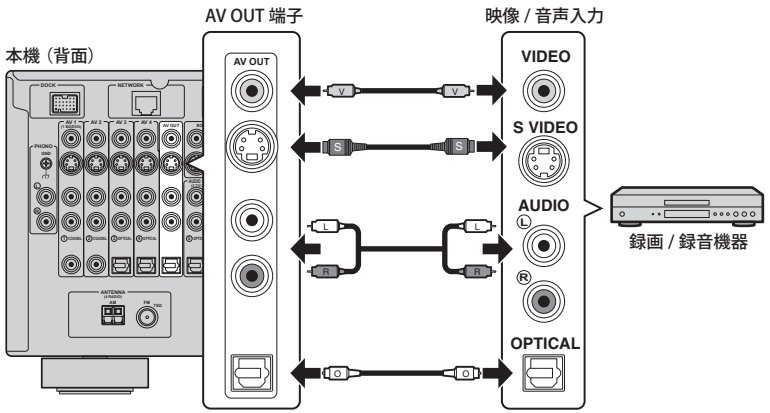
- セキュリティソフトや、ネットワーク機器の設定（ファイアウォールなど）により、本機がパソコンやインターネットラジオにアクセスできないことがあります。その場合はセキュリティソフトやネットワーク機器の設定を変更してください。
- 本機は 16 台のパソコンに接続することができます。サブネットを手動で設定する際は、すべて本機と同じサブネットに設定してください。
- インターネットサービスは、ブロードバンド回線の使用をおすすめします。

6 その他の機器を接続する

録画 / 録音機器を接続する

録画 / 録音機器を本機に接続するには、AV OUT 端子を使います。これらの端子からは、本機で選択している入力の映像 / 音声が出力されます。

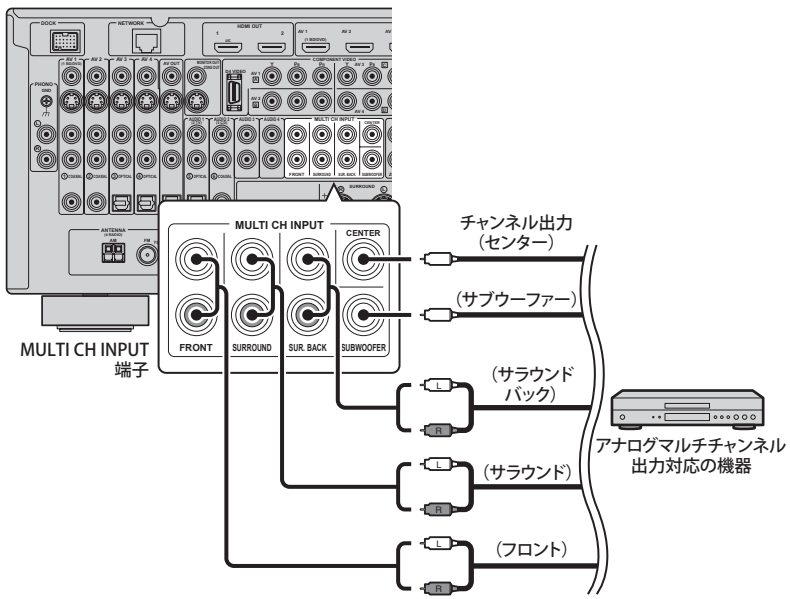
- HDMI 端子、D4 VIDEO 端子、COMPONENT VIDEO 端子に入力された映像 / 音声信号は、AV OUT 端子から出力できません。



アナログのマルチチャンネル出力を持つ機器を接続する

DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、アナログのマルチチャンネル音声出力に対応している機器を本機に接続するには、MULTI CH INPUT 端子を使います。

本機（背面）

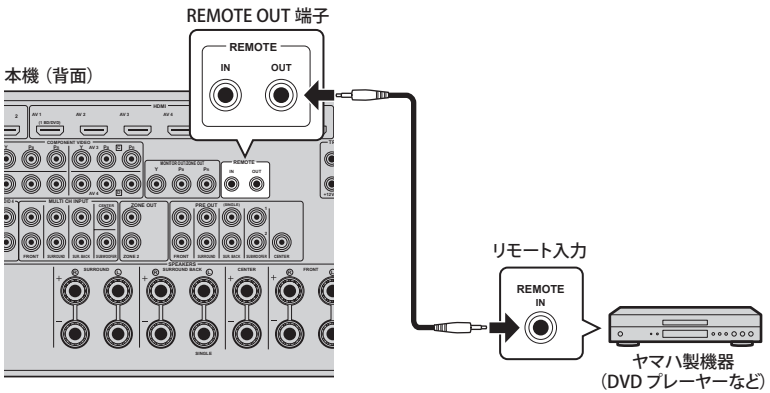


MULTI キーで入力を「MULTI CH」に切り替えると、接続した機器の音声が本機から出力されます。

- 入力選択メニューの「映像選択」（88 ページ）で、「MULTI CH」選択時に表示する映像を設定できます。ビデオ機器（DVD プレーヤーなど）を MULTI CH INPUT 端子に接続する場合、映像は別の入力端子に接続して、「映像選択」で映像入力端子を指定してください。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声は出力されません。使用するスピーカーシステムに合わせて、接続した機器（DVD プレーヤーなど）の出力設定を変更してください。
- 音場プログラムやデコーダーの選択、高音域 / 低音域の調整はできません。

シーン連動再生対応の機器を接続する（リモート接続）

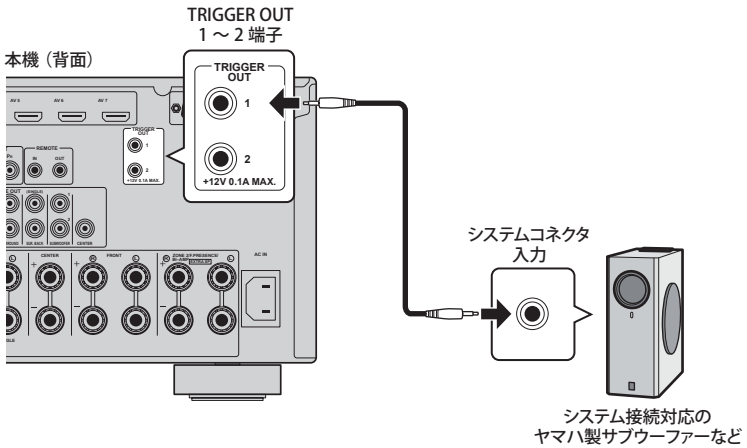
シーンコントロール信号の送受信に対応しているヤマハ製機器をお使いの場合は、モノラルミニプラグケーブルを使って本機のREMOTE OUT端子に接続すれば、シーン機能（49 ページ）に連動して接続した機器を操作できます。



- REMOTE OUT 端子にシーン連動再生対応のヤマハ製機器を接続すれば、シーンの選択（49 ページ）と連動して再生を開始できます。シーン連動再生を有効にするには、シーン選択メニューの「機器連携」（89 ページ）で機器の種類を指定してください。
- 赤外線受信機 / 送信機を接続すれば、別の部屋から本機や外部機器を操作することができます（76 ページ）。

トリガー機能対応の機器を接続する

トリガー機能とは、本機の操作（電源入 / 切、入力選択など）に連動して外部機器を制御できる機能です。システム接続に対応しているヤマハ製サブウーファーや、トリガー入力端子がある機器をお使いの場合は、モノラルミニプラグケーブルを使って本機の TRIGGER OUT1 端子または TRIGGER OUT2 端子に接続すれば、トリガー機能を利用できます。

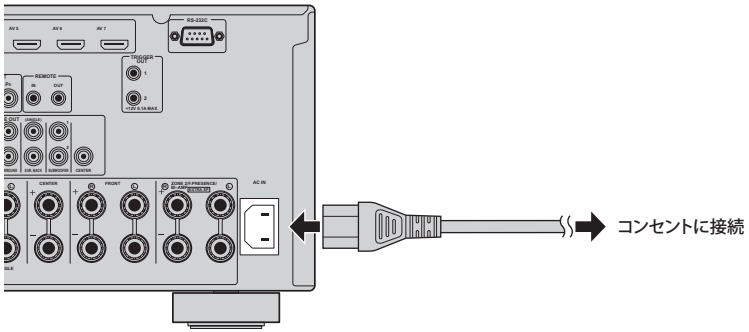


- 設定メニューの「トリガー出力 1」および「トリガー出力 2」（106 ページ）で、トリガー機能使用時の外部機器の制御について設定できます。

7 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、付属の電源コードを本機に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

本機（背面）





8 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO：Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）。

YPAO 使用時は次のことにご注意ください。

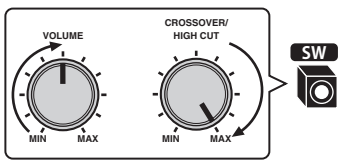
- テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
- 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。また、ご近所への迷惑とならないよう夜間の使用は控えてください。
- 測定中は音量を調節できません。
- 測定中は部屋を静かに保ってください。
- ヘッドホンは接続しないでください。
- オートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）対応のサブウーファーをお使いの場合は、該当機能を無効にしてください。

測定前の準備

1 RECEIVER ⏻ キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機からの映像に切り替える。

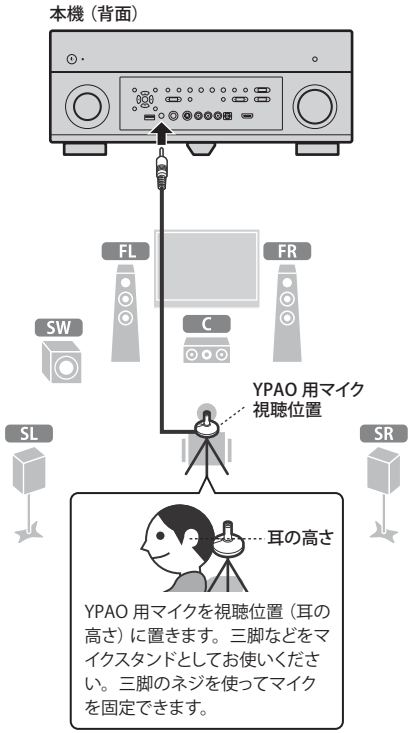
3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。

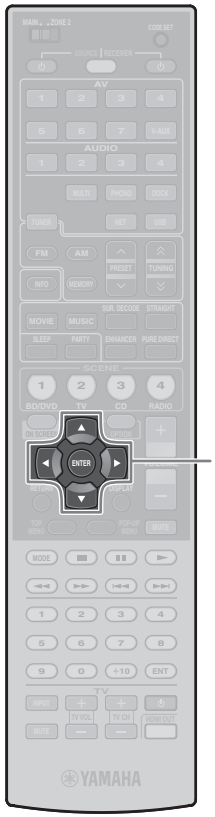


4 使用するスピーカーシステムに応じて、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」（96 ページ）を設定する。

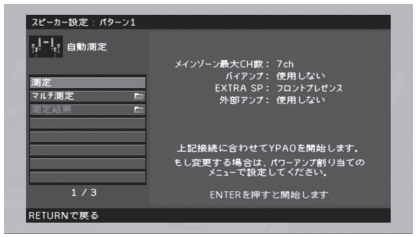
「スピーカーシステム（基本編）」（16 ページ）のシステム：「Basic」（初期値）に設定する。
「スピーカーシステム（応用編）」（20 ページ）のシステム：該当する設定値を選ぶ。

5 付属の YPAO 用マイクを視聴位置（耳の高さ）に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。





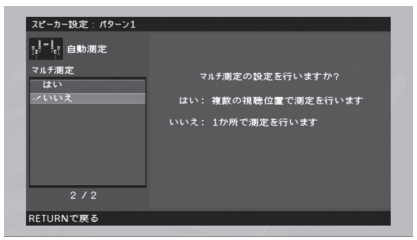
テレビに次の画面が表示されます。



- 操作を中止するには、測定前に YPAO 用マイクを取り外します。

6 必要に応じて、測定方法（マルチ / シングル測定）を変更する。

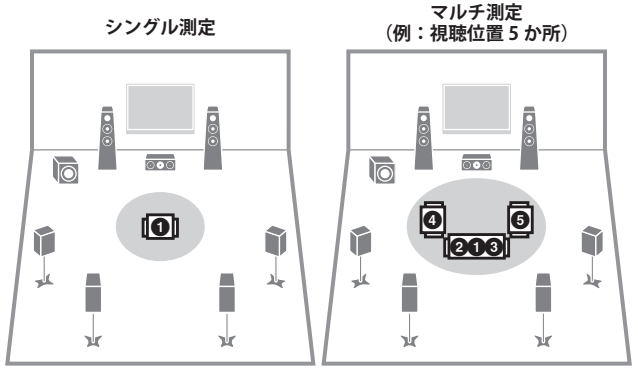
① カーソルキーで「マルチ測定」を選び、ENTER キーを押す。
② カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

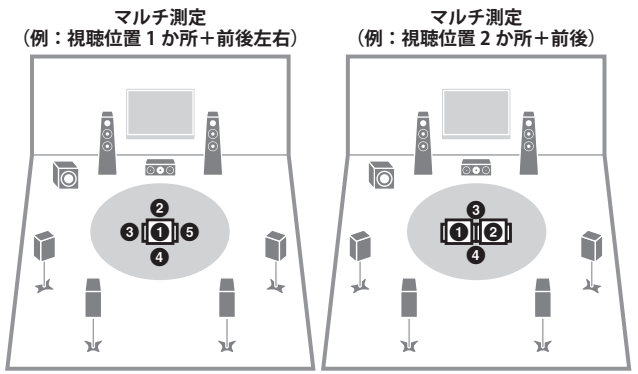


設定値

はい	視聴位置が複数ある場合に選択する。 最大 8 か所で測定を行い、そのエリアに対して最適なスピーカー設定を適用します（マルチ測定）。
いいえ（初期値）	常に同じ位置で視聴する場合に選択する。 1 か所だけで測定を行い、その位置に対して最適なスピーカー設定を適用します（シングル測定）。

- 視聴位置が複数ある場合、マルチ測定を実行すれば最適に補正されたサラウンド音を広いエリアでお楽しみいただけます。

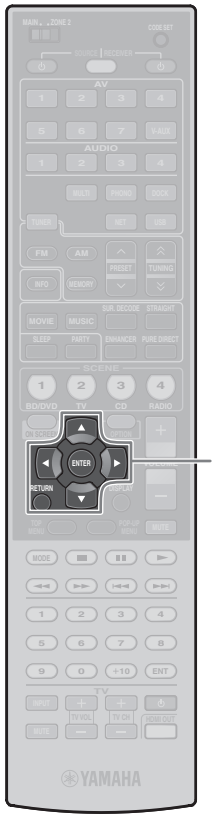




これで準備は完了です。以下の手順で測定を始めてください。

「はい」を選択時：
「複数の視聴位置で測定する（マルチ測定）」（44 ページ）

「いいえ」を選択時：
「1 か所で測定する（シングル測定）」（43 ページ）



1 か所で測定する（シングル測定）

「マルチ測定」を「いいえ」に設定時は、以下の手順で測定を行います。

- 測定中は部屋の隅に移動するか退出して、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。所要時間は約 3 分です。

1 測定を始めるには、カーソルキーで「測定」を選び、ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、再度 ENTER キーを押します。

- 測定を中止するには、RETURN キーを押します。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（46 ページ）または「警告メッセージ」（47 ページ）をご覧ください。

- 測定結果を確認するには、「測定結果」を選びます。詳しくは「測定結果を確認する」（45 ページ）をご覧ください。

2 カーソルキーで「保存 / キャンセル」を選び、ENTER キーを押す。

3 測定結果を保存するには、カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。



補正されたスピーカー設定が反映されます。

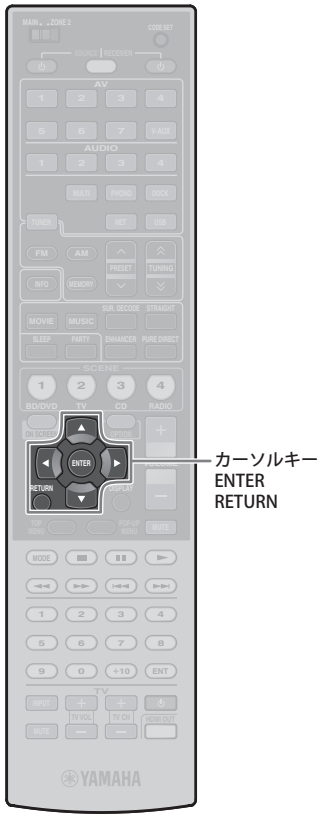
- 測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

4 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注意

- YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。



複数の視聴位置で測定する（マルチ測定）

「マルチ測定」を「はい」に設定時は、以下の手順で測定を行います。

- 測定中は部屋の隅に移動して、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。所要時間は約 10 分です（8 か所で測定する場合）。
- エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（46 ページ）または「警告メッセージ」（47 ページ）をご覧ください。

1 測定を始めるには、カーソルキーで「測定」を選び、ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、再度 ENTER キーを押します。

- 測定を中止するには、RETURN キーを押します。

最初の位置での測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



2 YPAO 用マイクを次の視聴位置に移動し、ENTER キーを押す。

すべての視聴位置（最大 8 か所）で測定するまで手順 2 を繰り返します。

3 すべての視聴位置で測定したら、カーソルキーで「キャンセル」を選び、ENTER キーを押す。

8 か所で測定した場合は、自動的に次の画面が表示されます。



- 測定結果を確認するには、「測定結果」を選びます。詳しくは「測定結果を確認する」（45 ページ）をご覧ください。

4 カーソルキーで「保存 / キャンセル」を選び、ENTER キーを押す。

5 測定結果を保存するには、カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。



補正されたスピーカー設定が反映されます。

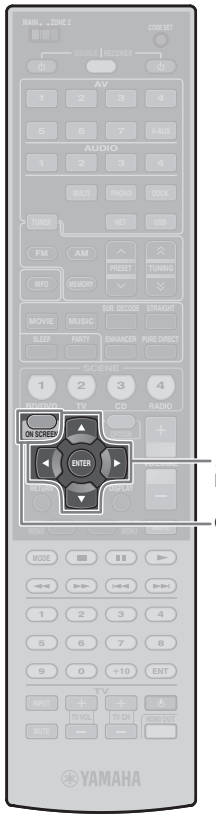
- 測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

6 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注意

- YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。



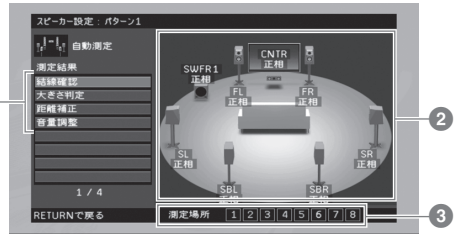
測定結果を確認する

YPAO による測定結果を確認します。

1 測定終了後に、カーソルキーで「測定結果」を選び、ENTER キーを押す。

- 設定メニューの「自動測定」(94 ページ) からも、「測定結果」を選べます。この場合は、前回 YPAO を実行した際の測定結果が表示されます。

次の画面が表示されます。



❶ **測定結果項目**

❷ **測定結果の詳細**

❸ **測定場所の数**

2 カーソルキーで項目を選ぶ。

結線確認	スピーカーの有無と極性 **正相：**スピーカーケーブルが正しい極性（+と−）で接続されている。 **逆相:**極性（+と−）が逆に接続されている可能性がある。
大きさ判定	スピーカーのサイズ（サブウーファーのクロスオーバー周波数） **大：**低音域を効果的に出力できるスピーカーが接続されている。 **小：**低音域を効果的に出力できないスピーカーが接続されている。
距離補正	視聴位置とスピーカーの距離
音量調整	スピーカーの音量補正値

- 警告メッセージ（47 ページ）**の対象になっているスピーカーは、測定結果が赤色**の枠で表示されます。

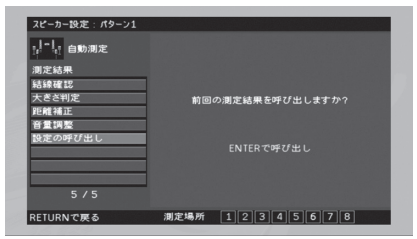
3 確認後に前の画面に戻るには、RETURN キーを押す。

最後に保存した YPAO 補正値に戻す

スピーカー設定を手動で調整して音のバランスが悪くなった場合など、手動設定を破棄して、最後に保存した YPAO 補正値に戻すことができます。

1 設定メニューで「スピーカー設定」、「自動測定」、「測定結果」の順に選ぶ (93 ページ)。

2 カーソルキーで「設定の呼び出し」を選び、ENTER キーを押す。



3 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

エラーメッセージ

測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから YPAO を再度実行してください。



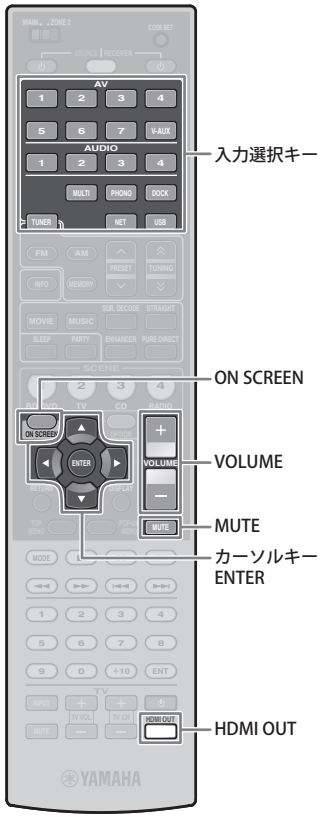
エラーメッセージ	原因	対策
E-1：フロント SP	フロントスピーカーを検出できない。	画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
E-2：サラウンド SP	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	
E-3：F プレゼンス SP	フロントプレゼンススピーカーの片側を検出できない。	
E-4：SBR → SBL	サラウンドバックスピーカーが R 端子だけに接続されている。	サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ接続する場合は、SINGLE 端子（L 側）に接続します。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
E-5：雑音大	雑音が大きいため測定できない。	部屋が静かになってから、画面表示にしたがって再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
E-6：サラウンド確認	サラウンドスピーカーが未接続なのに、サラウンドバックスピーカーが接続されている。	サラウンドバックスピーカーを使うには、サラウンドスピーカーが接続されている必要があります。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
E-7：マイク未接続	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、画面にしたがって再測定してください。
E-8：信号入力無し	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、画面にしたがって再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9：測定キャンセル	測定が中断された。	画面にしたがって再測定してください。測定を中止する場合は「終了」を選んでください。
E-10：内部エラー	内部エラーが発生した。	画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

警告メッセージ

測定後に警告メッセージが表示されていても、画面表示にしたがって測定結果を保存できます。
ただし、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから YPAO を再度実行することをおすすめします。



警告メッセージ	原因	対策
W-1：SP 接続逆相	スピーカーの極性（+と−）が逆に接続されている可能性がある。	「測定結果」(45 ページ) の「結線確認」で、「逆相」と表示されているスピーカーのケーブル接続（+と−）を確認してください。正しく接続されていない場合は、本機の電源を切ってから、スピーカーケーブルを接続し直してください。スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。
W-2：距離補正限界	スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	「測定結果」(45 ページ) の「距離補正」で、「>24.0m (>80.0ft)」と表示されているスピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
W-3：音量補正限界	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	各スピーカー間の使用環境やケーブル接続（+と−）、サブウーファーの音量が適切かどうか確認してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。



再生する

再生の基本操作

1 本機に接続した外部機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）の電源を入れる。

2 入力選択キーで入力を選ぶ。

3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。

- FM/AM ラジオを聴く（56 ページ）
- iPod の曲 / 映像を再生する（59 ページ）
- Bluetooth 機器の曲を再生する（64 ページ）
- USB 機器の曲を再生する（66 ページ）
- パソコンの曲を再生する（69 ページ）
- インターネットラジオを聴く（72 ページ）

4 VOLUME キーで音量を調節する。

- MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- オプションメニュー、または本体前面の TONE/BALANCE キーで高音域と低音域のバランスを調整できます（84 ページ）。

テレビ画面でも入力を選べます

① ON SCREEN キーを押す。
② カーソルキーで「入力選択」を選び、ENTER キーを押す。
③ カーソルキーで入力を選び、ENTER キーを押す。

HDMI 出力端子を切り替える

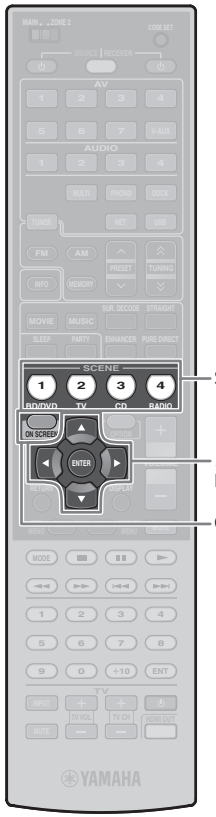
1 HDMI OUT キーで HDMI OUT 端子を選ぶ。

キーを押すたびに、信号を出力する HDMI OUT 端子が切り替わります。



HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1 ～ 2 端子の両方から同じ信号を出力する。
HDMI OUT 1	選択した HDMI OUT 端子からのみ信号を出力する。
HDMI OUT 2	
HDMI OUT Off	HDMI OUT 端子から信号を出力しない。

- シーン機能（49 ページ）**でも、HDMI 出力端子を切り替えることができます。**
- 「HDMI OUT 1+2」を選んだ場合、出力先の 2 台のテレビ（またはプロジェクター）の両方が対応しているもっとも高い解像度で信号が出力されます。（例：HDMI OUT1 端子に 1080p 対応のテレビ、HDMI OUT2 端子に 720p 対応のテレビを接続している場合、720p 信号が出力されます。）



入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容（音場プログラム、HDMI 出力端子など）をワンタッチで選ぶことができます。シーンは最大 12 個まで登録できます。各シーンにお好みの設定を登録することで、再生する音声に応じて簡単にシーンを切り替えることができます。

1 SCENE キーを押す。

該当 SCENE キーに登録されている内容が呼び出されます。
本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

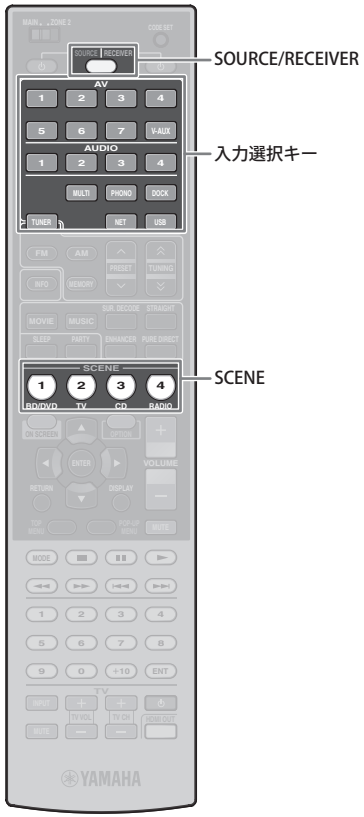
各 SCENE キーの登録内容（初期値）は以下のとおりです。

シーン（SCENE キー）		1（BD/DVD）	2（TV）	3（CD）	4（RADIO）
入力設定	入力（48 ページ）	AV1	AUDIO1	AUDIO2	TUNER
	音声入力選択（85 ページ）	自動判別	自動判別	自動判別	—
HDMI 出力端子	HDMI 出力端子（48 ページ）	OUT1+2	OUT1+2	OUT1+2	OUT1+2
再生モード	サウンドプログラム（51 ページ）	ドラマ	ストレートデコード	ストレートデコード	7ch ステレオ
	ピュアダイレクトモード（100 ページ）	自動	自動	自動	自動
音声設定	トーンコントロール（84 ページ）：SP（スピーカー）、HP（ヘッドホン）	高音 / 低音：0.0dB	高音 / 低音：0.0dB	高音 / 低音：0.0dB	高音 / 低音：0.0dB
	Adaptive DRC（84 ページ）	オフ	オン	オフ	オフ
	エンハンサー（85 ページ）	オフ	オン	オフ	オン

- リモコンの SCENE キーでは SCENE1 ～ 4 を選択できます。シーン選択メニュー（89 ページ）では、さらに 8 つのシーン（SCENE5 ～ 12）を登録して、各シーンを選択できます。
- シーンに登録する設定項目（音場設定、映像設定など）を追加できます（90 ページ）。

テレビ画面でもシーンを選べます

① ON SCREEN キーを押す。
② カーソルキーで「シーン選択」を選び、ENTER キーを押す。
③ カーソルキーでシーンを選び、ENTER キーを押す。



シーンに好みの設定を登録する

各シーンに好みの設定（入力、音場プログラムなど）を登録します。必要に応じて、シーンに登録する設定項目を選択することもできます（90 ページ）。

1 **本機をシーンに登録したい状態（入力、音場プログラムなど）にする。**

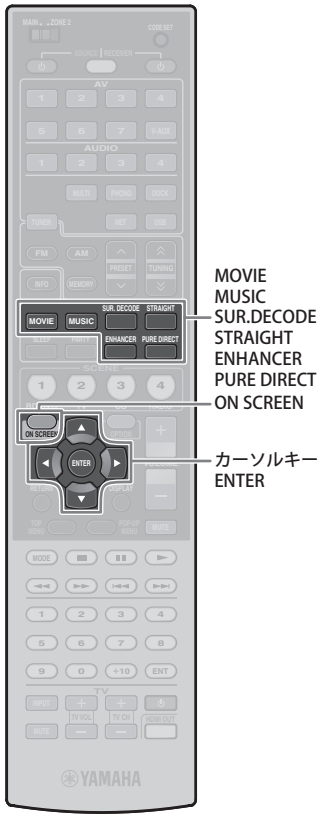
2 **前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先の SCENE キーを押し続ける。**



3 **シーン選択時にリモコンで操作する再生機器を切り替えたい場合は、該当の SCENE キーを押しながら、入力選択キーを 3 秒以上押す。**

登録が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。

- 再生機器のリモコンコードを登録していない場合は、「再生機器のリモコンコードを登録する」（113 ページ）をご覧ください。
- シーン選択と連動して、HDMI で本機に接続した外部機器や、REMOTE OUT 端子に接続したヤマハ製機器の再生を開始できます（シーン連動再生）。シーン連動再生を有効にするには、シーン選択メニューの「機器連携」（89 ページ）で機器の種類を指定してください。



好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ（52 ページ）

MOVIE キーを繰り返し押す。

音楽に適した音場プログラムまたはステレオ再生を選ぶ（52 ページ）

MUSIC キーを繰り返し押す。

サラウンドデコーダーを選ぶ（54 ページ）

SUR. DECODE キーを繰り返し押す。

ストレートデコードに切り替える（54 ページ）

STRAIGHT キーを押す。

ピュアダイレクトに切り替える（55 ページ）

PURE DIRECT キーを押す。

ミュージックエンハンサーを有効にする（55 ページ）

ENHANCER キーを押す。

テレビ画面でも音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べます

① ON SCREEN キーを押す。
② カーソルキーで「サウンドプログラム」を選び、ENTER キーを押す。
③ カーソルキーで音場プログラムやサラウンドデコーダーを選び、ENTER キーを押す。

- オンスクリーンメニューの「サウンドプログラム」（91 ページ）で、音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定を変更できます。
- 音場プログラムやサラウンドデコーダーは入力ごとに記憶されます。
- サンプリング周波数が 96kHz を超える音声や、DTS Express の再生時は、自動的にストレートデコード（54 ページ）に切り替わります。
- 本体前面のスピーカー表示（13 ページ）または情報メニューの「音声信号」（108 ページ）で、音声出力中のスピーカー端子を確認できます。

音場効果を楽しむ（シネマ DSP）

CINEMA DSP

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現できます。

音場プログラムの種類



「CINEMA DSP」が点灯　　音場プログラム

- DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio の音声再生時は、通常の DTS フォーマットでデコードされます。

■ 映像コンテンツに適した音場プログラム（MOVIE）

映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

□ ムービーシアター

Standard（スタンダード）	Dolby Digital、DTS、AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle（スペクタクル）	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi（サイファイ）	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure（アドベンチャー）	アクション＆アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama（ドラマ）	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie（モノムービー）	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。広がりと適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。

□ エンターテイメント

Sports（スポーツ）	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。
Action Game（アクションゲーム）	カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game（ロールプレイングゲーム）	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。
Music Video（ミュージックビデオ）	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

■ 音楽に適した音場プログラム / ステレオ再生（MUSIC）

音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。
ステレオ再生も選べます。

□ クラシカル

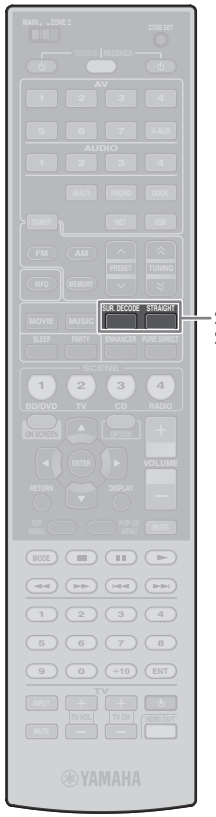
Hall in Munich（ミュンヘン）	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna（ウィーン）	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber（チェンバー）	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。

□ ライブ / クラブ

Cellar Club（セラークラブ）	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre（ロキシーシアター）	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line（ボトムライン）	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。

□ ステレオ

2ch Stereo **（2ch ステレオ）**	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます（シネマ DSP は使用しません）。
7ch Stereo **（7ch ステレオ）**	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 7 つのスピーカーから音が出力され、ホームパーティーの BGM に最適です。



■ 立体的な音場を楽しむ（シネマ DSP 3D）

CINEMA DSP 3D DIGITAL

シネマ DSP 3D を使うと、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。
シネマ DSP 3D は以下の状態で機能します。

- 音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）が選ばれている（52 ページ）。
- オプションメニューの「シネマ DSP 3D モード」が「オン」に設定されている（84 ページ）。



「CINEMA DSP ∃」が点灯

- フロントプレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使って VPS（バーチャル・プレゼンス・スピーカー）を創り出し、立体的な視聴空間を実現します。ただし、立体的な音場効果を十分に得るにはフロントプレゼンススピーカーの使用をおすすめします。

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）を選ぶと、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創り出します。

音場効果をかけずに再生する

■ オリジナルチャンネルでの再生を楽しむ（ストレートデコード）

ストレートデコードを使うと、入力ソースに含まれている各チャンネルの音声が該当スピーカーからそのまま出力されます。CD などの 2 チャンネルソースの場合は、フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 **STRAIGHT キーを押す。**

キーを押すたびに、ストレートデコードが有効 / 無効になります。



■ マルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）

サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースをマルチチャンネル音声で再生します。マルチチャンネルソースが入力されている場合は、ストレートデコードと同様に機能します。
各デコーダーについて詳しくは、「用語 / 技術解説」（124 ページ）をご覧ください。

1 **SUR.DECODE キーでサラウンドデコーダーを選ぶ。**

キーを押すたびにデコーダーが切り替わります。



DD Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
DD PLIIx Movie DD PLII Movie	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
DD PLIIx Music DD PLII Music	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。



PLIIx Game	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。ゲームに適しています。
PLII Game	
Neo：6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS デコーダーです。
Neo：6 Music	音楽鑑賞に適した DTS デコーダーです。

- ヘッドホン接続時または設定メニューの「サラウンドバック」を「無」に設定時は、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選べません。
- サラウンドバックスピーカー使用時に、5.1 チャンネルソースを 6.1/7.1 チャンネルで再生するには、オプションメニューの「拡張サラウンド」（85 ページ）を「PLIIx ムービー」、「PLIIx ミュージック」、または「EX/ES」に設定してください。

原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトを使うと、最低限再生に必要な機能を除き、各種の回路（前面ディスプレイなど）が停止されます。これによりノイズの混入を防ぎ、原音により忠実な音質で再生できます。

1 PURE DIRECT キーを押す。

キーを押すたびに、ピュアダイレクトが有効 / 無効になります。



- ピュアダイレクト使用時は、以下の機能は使用できません。
  - 音場プログラムの選択
  - トーンコントロールの調整
  - オプションメニュー、オンスクリーンメニューの操作
  - 前面ディスプレイの表示（操作がない場合）

圧縮音源をダイナミックに再生する（ミュージックエンハンサー）

compressed music ENHANCER

ミュージックエンハンサーを使うと、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

1 ENHANCER キーを押す。

キーを押すたびに、ミュージックエンハンサーが有効 / 無効になります。



「ENHANCER」が点灯

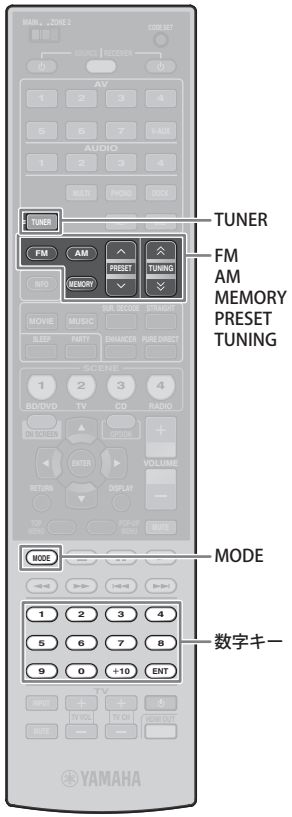
- ミュージックエンハンサーは、以下の音源には機能しません。
  - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
  - HD オーディオなど高解像度のストリーム音声

- オプションメニューの「エンハンサー」（85 ページ）でも、ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にできます。

ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ）

SILENT CINEMA

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べば、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しむことができます。



FM/AM ラジオを聴く

ラジオの選局をするには、周波数を指定するか、登録したラジオ局を呼び出します。

- ラジオの受信感度が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。

周波数を指定して選局する

1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 FM キーまたは AM キーで FM/AM を切り替える。



3 以下のキーで選局する。

TUNING キー　周波数を切り替えます。
約 1 秒押し続けると、自動で選局します。

数字キー　周波数を直接入力します（例：82.5MHzを選ぶ場合は「8」「2」「5」と入力します）。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

- 受信範囲外の周波数を入力した場合は、「Wrong Station!」と表示されます。

- FM ラジオのステレオ（Stereo）/ モノラル（Mono）を切り替えるには、MODE キーを押します。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送を選ぶと改善される場合があります。

お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット）

最大 40 局のラジオ局を登録できます。登録したラジオ局は、プリセット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

■ ラジオ局を登録する

ラジオ局を手動で選んでプリセット番号に登録します。

- 「オートプリセット」（58 ページ）を使うと、信号の強い FM ラジオ局を自動で登録できます。

1 「周波数を指定して選局する」（56 ページ）の手順で、登録したいラジオ局を受信する。

2 MEMORY キーを 2 秒以上押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号に登録されます。

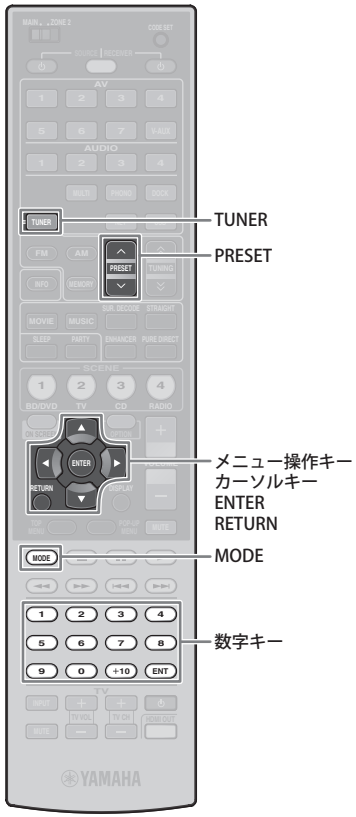
登録先のプリセット番号



- 登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーまたは数字キーでプリセット番号を選び、もう一度 MEMORY キーを押します。

「Empty」（空き）または現在登録されている周波数





■ 登録したラジオ局を呼び出す

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選びます。

1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 PRESET キーでプリセット局を選ぶ。

PRESET キーを一度押したあと、数字キーでプリセット番号（01 ～ 40）を直接入力することもできます。



- ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。
- 無効なプリセット番号を入力した場合は、「Wrong Num.」と表示されます。
- 未登録のプリセット番号を入力した場合は、「Empty」と表示されます。

- 登録内容を消去するには、「クリアプリセット」または「クリアオールプリセット」（58 ページ）を実行してください。

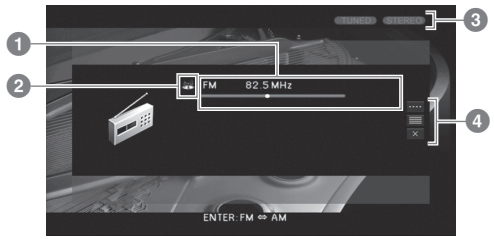
テレビ画面でラジオを操作する

テレビ画面で、受信中のラジオ局の情報を確認したり聴きたいラジオ局を選んだりします。

1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

テレビに再生画面が表示されます。

■ 再生画面



❶ ラジオ局情報

FM/AM、周波数など、受信中のラジオ局の情報が表示されます。

❷ バンドアイコン

アイコン選択時に ENTER キーを押すと、FM/AM が切り替わります。

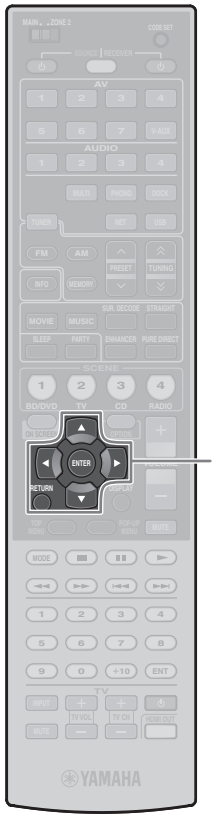
❸ TUNED/STEREO 表示

ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

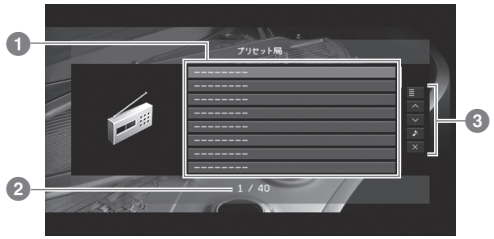
❹ 操作メニュー

カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。
サブメニューを閉じるには、RETURN キーを押します。

メニュー	サブメニュー	説明
マニュアルチューニング	チューニング（＋ / －）	周波数を切り替えます。
	オート（＋ / －）	自動で選局します。
	メモリー	受信中のラジオ局をプリセット番号に登録します。
	ダイレクト	周波数を直接入力します。
ブラウズ画面へ		ブラウズ画面（プリセット局リスト）を表示します。
スクリーンを閉じる		画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。



■ ブラウズ画面



❶ プリセット局リスト

プリセット局の一覧が表示されます。カーソルキーでプリセット局を選び、ENTER キーで呼び出します。

❷ プリセット番号

❸ 操作メニュー

カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。
サブメニューを閉じるには、RETURN キーを押します。

メニュー	サブメニュー	説明
ユーティリティ	メモリー	受信中のラジオ局をリストで選択しているプリセット番号に登録します。
	オート プリセット	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します（最大 40 局）。
	クリア プリセット	リストで選択しているプリセット局を消去します。
	クリアオール プリセット	プリセット局をすべて消去します。
1 ページ上へ		リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ		
再生画面へ		再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる		画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

iPod の曲 / 映像を再生する

iPod 付属の USB ケーブル、オプションのヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（YDS-12 など）、iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）を使って、iPod の曲 / 映像を本機で再生します。

- 本書は iPod と iPhone を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod と iPhone の両方を意味します。
- iPod の種類やソフトウェアのバージョン、または iPod ドックの種類により、一部の機能が使えない場合があります。

接続方法による機能の違い

	iPod 付属の USB ケーブル	ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（YDS-12 など）	ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）
音声出力	○	○	○
映像出力	※	○	×
本機リモコンでの操作	○	○	×
iPod 本体での操作	○	○	○
テレビ画面での操作	○	○	×
充電	○	○	○
スタンバイ時充電	×	○	○
対応 iPod（2011 年 4 月現在）	iPod touch iPod nano（第 2 ～ 6 世代） iPod classic iPhone 4 iPhone 3GS iPhone 3G iPhone	iPod touch iPod nano iPod classic iPod with video iPod with color display iPod with click wheel iPod mini iPhone 4 iPhone 3GS iPhone 3G iPhone	iPod nano iPod classic iPod with video iPhone 4 iPhone 3GS iPhone 3G iPhone

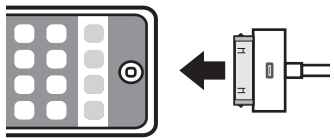
※ Apple コンポジット AV ケーブル（別売）が必要です。ケーブルの USB およびコンポジットビデオプラグを、本機の USB 端子および VIDEO AUX（VIDEO）端子に接続し、入力選択メニューで「USB」の「映像選択」を「V-AUX」に設定してください（88 ページ）。

iPod を接続する

■ USB ケーブルを使う

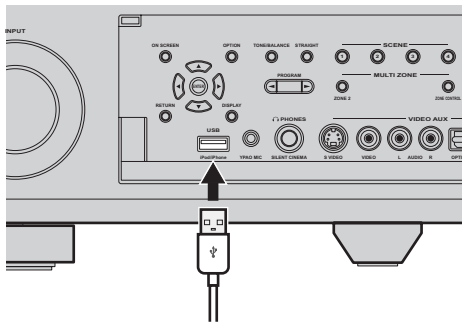
iPod 付属の USB ケーブルを使って、iPod を本機に接続します。

1 USB ケーブルを iPod に接続する。



2 USB ケーブルを USB 端子に接続する。

本機（前面）





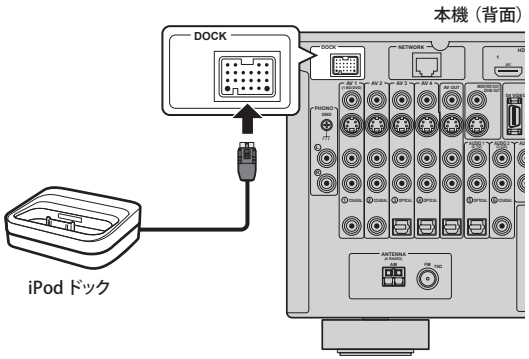
- 本機の電源が入っているときは iPod が充電されます。

■ iPod ドックを使う

iPod ドックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 **本機の電源がスタンバイの状態で、iPod ドックを DOCK 端子に接続する。**

iPod ドックはなるべく本機から離して配置してください。



2 **iPod を iPod ドックに接続し、本機の電源を入れる。**

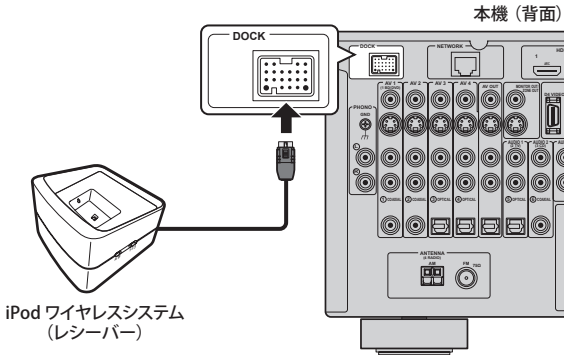
- iPod を iPod ドックに接続すると、iPod が充電されます。入力選択メニューの「スタンバイ時充電」（87 ページ）で、本機がスタンバイ時でも iPod を充電するかどうかを設定できます。

■ iPod ワイヤレスシステムを使う

iPod ワイヤレスシステムをお使いの場合、本機との接続が完了すると iPod 側で再生操作ができるようになります。iPod ワイヤレスシステムの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 **電源コードをコンセントから抜いた状態で、iPod ワイヤレスシステム（レシーバー）を DOCK 端子に接続する。**

iPod ワイヤレスシステム（レシーバー）はなるべく本機から離して配置してください。



2 **電源コードをコンセントに接続する。**

3 **iPod を iPod ワイヤレスシステム（トランスミッター）に接続する。**

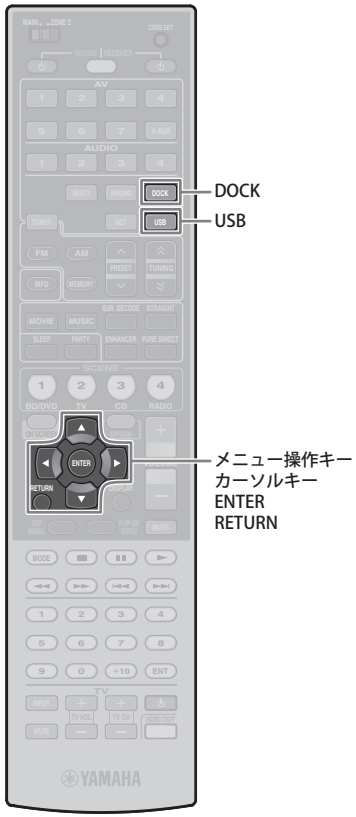
4 **iPod でコンテンツを選び、再生を始める。**

自動的に本機の電源が入り、入力が「DOCK」に切り替わります。

- 入力選択メニューの「iPod の操作連動」（88 ページ）で、iPod の操作と本機（電源の入 / 切、入力選択、音量調節）を連動させるかどうかを設定できます。連動機能を無効にしている場合は、手動で本機の電源や入力を切り替えてください。
- iPod を接続したトランスミッターをレシーバーに置くと、iPod が充電されます。入力選択メニューの「スタンバイ時充電」（87 ページ）で、本機がスタンバイ時でも iPod を充電するかどうかを設定できます。

注意

iPod 側で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iPod を iPod ワイヤレスシステム（トランスミッター）から外してください。設定メニューの「音量の上限」（100 ページ）で音量の上限値を設定しておくと、不慮の大音量を防止できます。



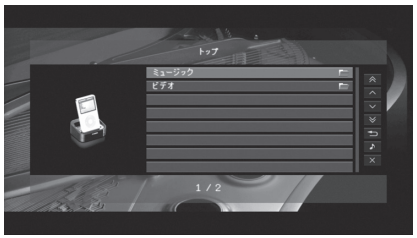
iPod の曲を選ぶ

USB ケーブルまたは iPod ドック使用時は、テレビ画面を見ながら iPod を操作できます。

- iPod ワイヤレスシステム使用時は、テレビ画面での操作はできません。iPod 自身の画面を見ながら操作してください。

1 USB ケーブル使用時：USB キーで入力を「USB」に切り替える。
iPod ドック使用時：DOCK キーで入力を「DOCK」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。



※ iPod ドック使用時の表示例

- iPod 側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

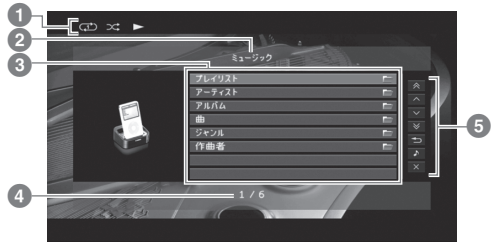
2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

曲 / 映像を選ぶと再生が始まります。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- iPod を使って操作するには、シンプル再生（62 ページ）**に切り替えます。**

■ ブラウズ画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（63 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

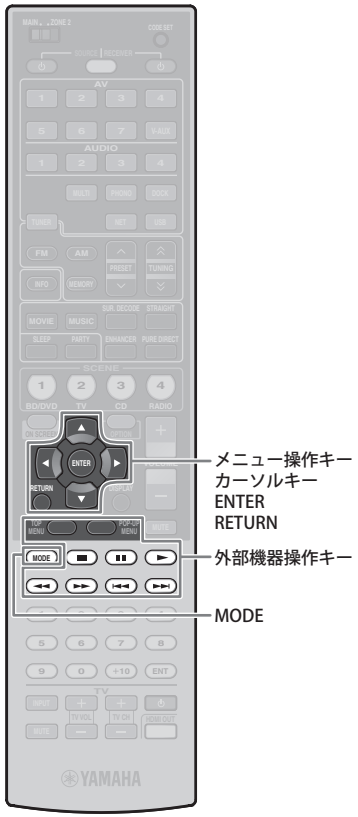
❷ リスト名

❸ コンテンツリスト
iPod のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ コンテンツ番号 / 総数

❺ 操作メニュー
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。



■ 再生画面



❶ ステータス表示

シャッフル再生 / リピート再生の設定（63 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

❷ 再生情報

アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間 / 残り時間が表示されます。
カーソルキーでスクロールさせる情報を選べます。

❸ アルバムイメージ

❹ 操作メニュー

カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。
サブメニューを閉じるには、RETURN キーを押します。

メニュー	サブメニュー	説明
再生操作	►	一時停止を解除して、再生を始めます。
	■	再生を停止します。
	❚❚	再生を一時停止します。
	⏮ / ⏭	再生中の曲の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲にスキップします。
	◄◄ / ►►	押し続けている間、曲を巻き戻し / 早送りします。
ブラウズ画面へ		ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる		画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

• リモコンの外部機器操作キーでも再生を操作できます。

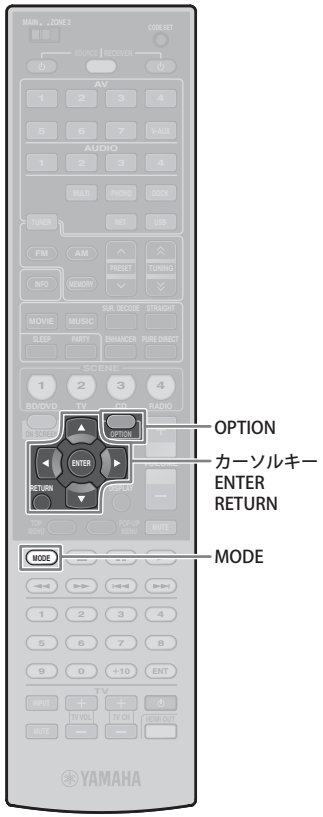
■ iPod 本体またはリモコンで操作する（シンプル再生）

1 MODE キーでシンプル再生に切り替える。

テレビの表示が消えて、iPod で操作可能になります。
テレビの表示（ブラウズ画面 / 再生画面）に戻すには、もう一度 MODE キーを押します。

2 iPod 本体またはリモコンでコンテンツを選び、再生を始める。

使用できるリモコンキー		説明
カーソルキー		コンテンツを選びます。
ENTER キー		選択を確定します。
RETURN キー		1 つ前の画面に戻ります。
外部機器操作キー	► / ❚❚	再生を始めます、または一時停止します。
	■	再生を停止します。
	⏮ / ⏭	再生中の曲の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲にスキップします。
	◄◄ / ►►	押し続けている間、曲を巻き戻し / 早送りします。



■ シャッフル再生 / リピート再生

iPod のシャッフル再生およびリピート再生を設定します。

- iPod ワイヤレスシステム使用時は、iPod 側で直接設定してください。
- シンプル再生で操作中は、iPod 側で直接設定するか、MODE キーを押してテレビの表示に戻してから以下の手順を行ってください。

1 入力に「USB」または「DOCK」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。

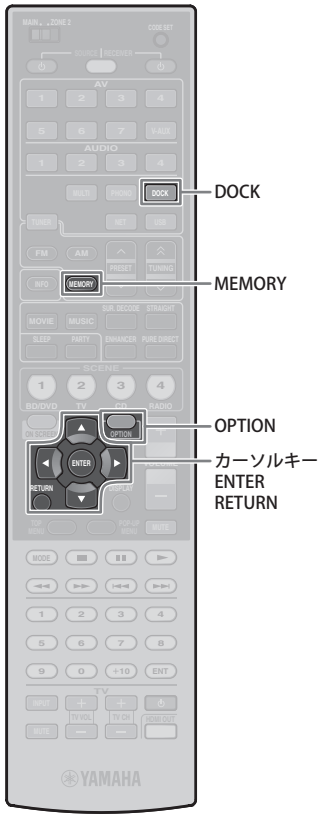
2 カーソルキーで「シャッフル」(Shuffle) または「リピート」(Repeat) を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

3 カーソルキー (◁ / ▷) で設定値を選び、ENTER キーを押す。

項目	設定値	説明
シャッフル (Shuffle)	オフ (Off)	シャッフル再生を無効にする。
	曲 (Songs)	曲をランダムに再生する。テレビ画面に「 」が表示されます。
	アルバム (Albums)	アルバム単位でランダムに再生する。テレビ画面に「 」が表示されます。
リピート (Repeat)	オフ (Off)	リピート再生を無効にする。
	1 曲 (One)	現在の曲を繰り返し再生する。テレビ画面に「 」が表示されます。
	すべて (All)	現在のアルバムを繰り返し再生する。テレビ画面に「 」が表示されます。

4 終了するには、OPTION キーを押す。



Bluetooth 機器の曲を再生する

オプションのヤマハ製 Bluetooth オーディオレシーバー（YBA-10）を使って、Bluetooth 機器の曲を本機で再生します。Bluetooth レシーバーやお使いの Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

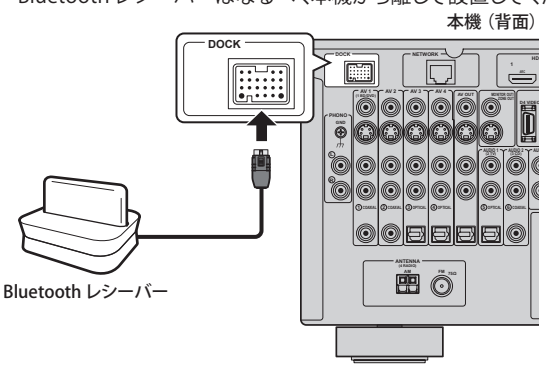
本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。

- お使いの Bluetooth 機器を初めて Bluetooth レシーバーに接続する場合は、ペアリング（2 つの Bluetooth 機器を組み合わせるための認証）が必要になります。一度ペアリングが完了すると、以降は接続操作を行うだけで、Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバー間の通信が確立されます。ペアリングは Bluetooth 機器ごとに必要になります。したがって、複数の Bluetooth 機器を使う場合は、Bluetooth レシーバーとのペアリングがそれぞれ必要になります。

Bluetooth レシーバーを接続する

1 本機の電源がスタンバイの状態で、Bluetooth レシーバーを DOCK 端子に接続する。

Bluetooth レシーバーはなるべく本機から離して設置してください。



2 本機の電源を入れる。

Bluetooth 機器とペアリングする

お使いの Bluetooth 機器を初めて Bluetooth レシーバーに接続する場合やペアリング設定が消去された場合は、ペアリングが必要になります。

- ヤマハ製 Bluetooth レシーバー（YBA-10）は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の機器をペアリングすると、もっとも長く使用されていない機器のペアリング設定が消去されます。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

1 DOCK キーで入力を「DOCK」に切り替える。

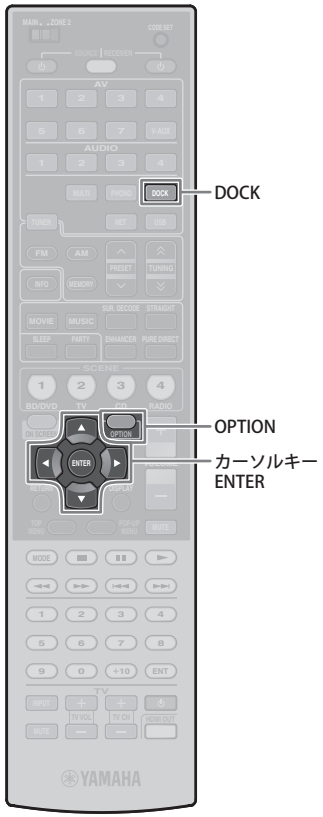
2 Bluetooth 機器の電源を入れ、ペアリングモードにする。

3 OPTION キーを押し、カーソルキーで「ペアリング」（Pairing）を選び ENTER キーを押す。

機器の検索が始まります。Bluetooth 機器が Bluetooth レシーバーを認識すると、Bluetooth 機器のデバイスリストに機器名（「YBA-10 YAMAHA」など）が表示されます。



- 検索を中止するには、RETURN キーを押します。
- 手順 3 の代わりに、MEMORY キーを押し続けて検索を始めることもできます。（検索を中止するには、もう一度 MEMORY キーを押します。）



4 デバイスリストからBluetoothレシーバーを選び、パスキー「0000」を入力する。

ペアリングが終わると、「Completed」と表示されます。



- Bluetooth 機器によっては、「BT connected」と表示されます。この場合、ペアリングと同時に無線接続も完了しているため、Bluetooth 機器で再生を始めるだけで、本機から音声が出力されます。

5 終了するには、OPTION キーを押す。

Bluetooth 機器と接続して再生する

ペアリングが完了したら、Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーの無線接続を行います。接続中は、Bluetooth 機器で再生を始めると本機から音声が出力されます。

- Bluetooth 機器によっては、Bluetooth 機器側の操作や自動で接続できる場合があります。この場合、以下の手順 2 ～ 3 は必要ありません。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

1 DOCK キーで入力を「DOCK」に切り替える。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキーで「接続」（Connect）を選び、ENTER キーを押す。

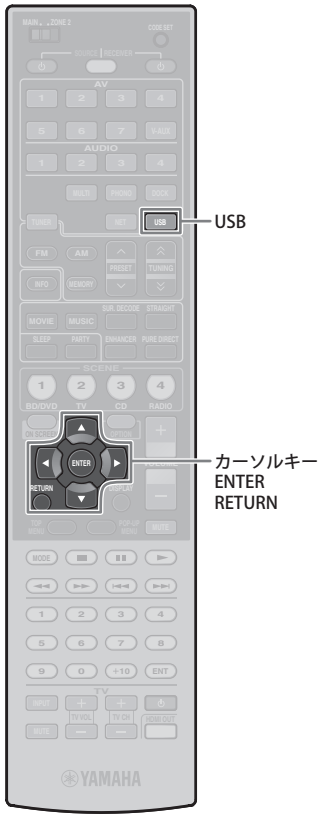
無線接続が確立されると、「BT connected」と表示されます。



- Bluetooth レシーバーとペアリングされている機器が複数ある場合、もっとも最近接続した機器と自動的に接続されます。別の機器に接続されてしまう場合は、再度ペアリングをするか、Bluetooth 機器側で接続操作を行ってください。
- 「Not found」と表示された場合、接続が確立されていません。以下の点を確認し、再度接続してください。
  - Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーがペアリングされている。
  - Bluetooth 機器の電源が入っていて、Bluetooth 機能が有効になっている。
  - Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーが 10 メートル以内に置かれている。

4 Bluetooth 機器で曲を再生する。

- 無線接続を切断するには、手順 3 で「切断」（Disconnect）を選びます。



USB 機器の曲を再生する

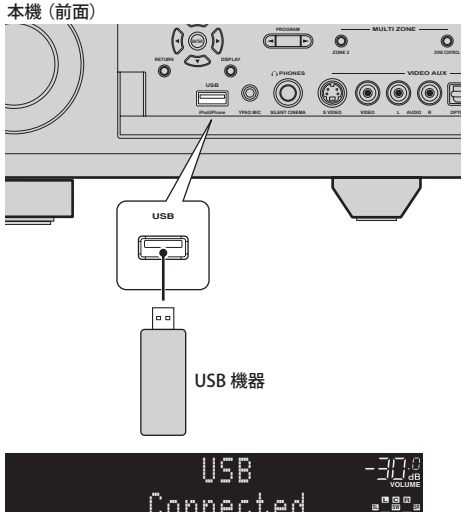
USB 機器に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。お使いの USB 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器に対応しています（USB ハードディスクを除く）。

- WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC、FLAC ファイルの再生に対応しています。
- WAV および FLAC ファイルは 96kHz まで、その他のファイルは 48kHz までのサンプリング周波数に対応しています。

USB 機器を接続する

1 USB 機器を USB 端子に接続する。

本機（前面）



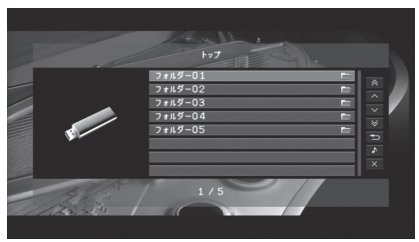
- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。この場合、前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。

USB 機器の曲を選ぶ

USB 機器の曲を選んで、再生を始めます。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。



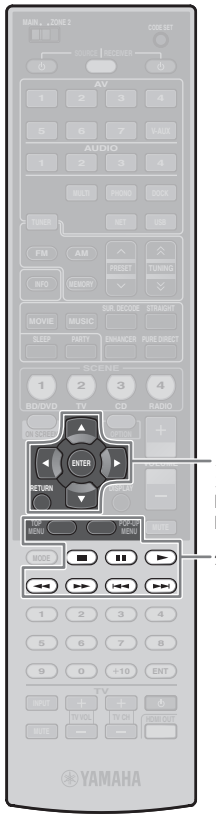
- USB 機器側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- 本機が対応していない形式のファイルは表示されません。
- ショートカット機能（79 ページ）**を使うと、お好みの曲を登録することができます。**
  登録した曲は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



■ ブラウズ画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（68 ページ）、および再生状態が表示されます。

❷ リスト名

❸ コンテンツリスト
USB 機器のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ コンテンツ番号 / 総数

❺ 操作メニュー
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

■ 再生画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（68 ページ）、および再生状態が表示されます。

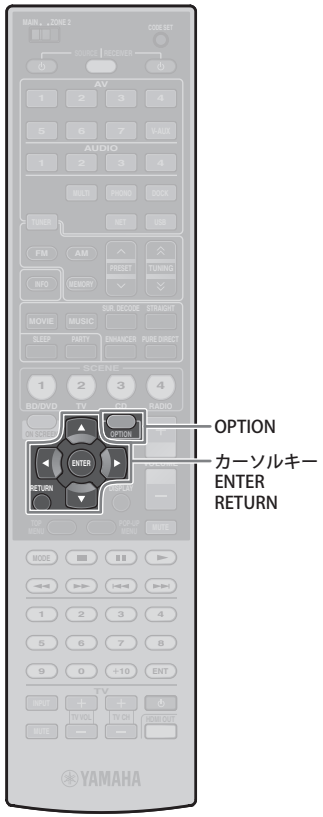
❷ 再生情報
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。
カーソルキーでスクロールさせる情報を選べます。

❸ アルバムイメージ

❹ 操作メニュー
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。
サブメニューを閉じるには、RETURN キーを押します。

メニュー	サブメニュー	説明
再生操作	■	再生を停止します。
	⏮	再生中の曲の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲にスキップします。
	⏭	
ブラウズ画面へ		ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる		画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- リモコンの外部機器操作キー（►、■、⏮、⏭）でも再生を操作できます。



■ シャッフル再生 / リピート再生

USB 機器のシャッフル再生およびリピート再生を設定します。

- シャッフル再生およびリピート再生の設定は、「USB」と「PC」で共通になります。どちらかで設定を変更すると、もう一方の設定も同時に変更されます。

1 入力に「USB」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。

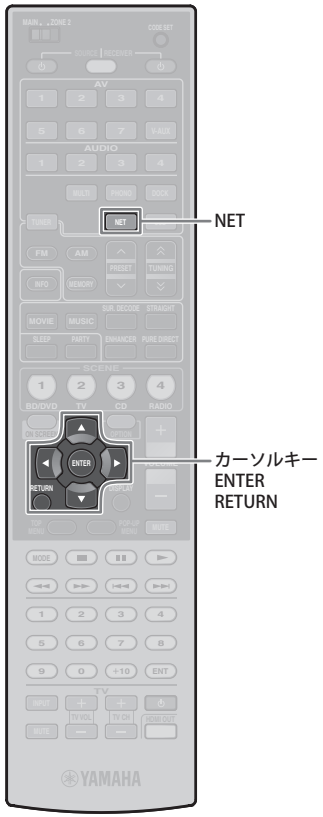
2 カーソルキーで「シャッフル」（Shuffle）または「リピート」（Repeat）を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

3 カーソルキー（◁ / ▷）で設定値を選び、ENTER キーを押す。

項目	設定値	説明
シャッフル（Shuffle）	オフ（Off）	シャッフル再生を無効にする
	オン（On）	アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生する。テレビ画面に「 ⤮ 」が表示されます。
リピート（Repeat）	オフ（Off）	リピート再生を無効にする。
	1 曲（Single）	現在の曲を繰り返し再生する。テレビ画面に「 🔂 」が表示されます。
	すべて（All）	アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生する。テレビ画面に「 🔁 」が表示されます。

4 終了するには、OPTION キーを押す。



パソコンの曲を再生する

パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ（NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。

- この機能を使用するには、本機とパソコンが正しくネットワークに接続されている必要があります（37 ページ）。情報メニューの「ネットワーク」（109 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC、FLAC ファイルの再生に対応しています。
- WAV および FLAC ファイルは 96kHz まで、その他のファイルは 48kHz までのサンプリング周波数に対応しています。
- FLAC ファイルを再生するには、パソコン /NAS にインストールされているサーバーソフトが、DLNA を使った FLAC ファイルの共有に対応している必要があります。

メディアの共有設定を行う

パソコン /NAS に保存されている音楽ファイルを本機で再生するには、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。

■ Windows Media Player がインストールされているパソコン

1 Windows Media Player 11 以降がインストールされていることを確認する。

2 メディア共有設定で、メディア共有を有効にして、本機との共有を許可する。

■ Windows Media Player 以外の DLNA サーバーソフトがインストールされているパソコン /NAS

各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照してメディアの共有設定を行ってください。

パソコンの曲を選ぶ

パソコンの曲を選んで、再生を始めます。

1 NET キーを繰り返し押して、入力を「PC」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。



- 本機から操作したパソコンの再生が続いている場合は、再生画面が表示されます。（入力選択メニューの「DMC からの操作」（88 ページ）を「無効」に設定時のみ）

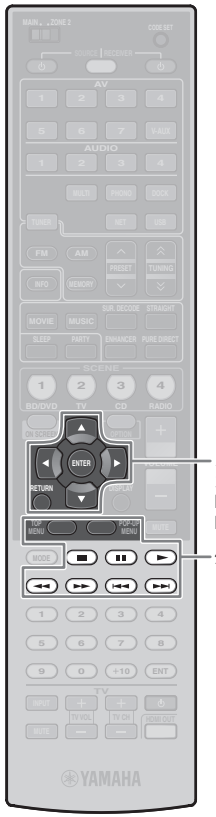
2 カーソルキーでサーバーを選び、ENTER キーで確定する。

3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- 本機が対応していない形式のファイルは表示されません（または選択不可）。
- ショートカット機能（79 ページ）を使うと、お好みの曲を登録することができます。登録した曲は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



■ ブラウズ画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（71 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

❷ リスト名

❸ コンテンツリスト
パソコンのコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ アルバムイメージ

❺ コンテンツ番号 / 総数

❻ 操作メニュー
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

■ 再生画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（71 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

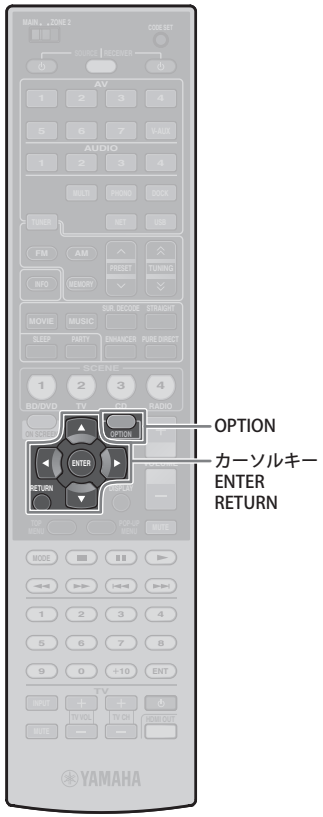
❷ 再生情報
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。
カーソルキーでスクロールさせる情報を選べます。

❸ アルバムイメージ

❹ 操作メニュー
カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。
サブメニューを閉じるには、RETURN キーを押します。

メニュー	サブメニュー	説明
再生操作	►	一時停止を解除して、再生を始めます。
	■	再生を停止します。
	❚❚	再生を一時停止します。
	⏮	再生中の曲の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲にスキップします。
	⏭	
ブラウズ画面へ		ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる		画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- リモコンの外部機器操作キー（►、■、❚❚、⏮、⏭）でも再生を操作できます。
- DLNA 対応のデジタルメディアコントローラー（DMC）からも再生を操作できます。詳しくは「DMC からの操作」（88 ページ）をご覧ください。



■ シャッフル再生 / リピート再生

パソコンのシャッフル再生およびリピート再生を設定します。

- シャッフル再生およびリピート再生の設定は、「USB」と「PC」で共通になります。どちらかで設定を変更すると、もう一方の設定も同時に変更されます。

1 入力に「PC」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。

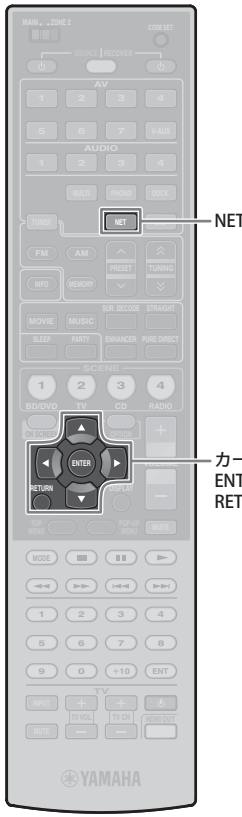
2 カーソルキーで「シャッフル」（Shuffle）または「リピート」（Repeat）を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

3 カーソルキー（◁ / ▷）で設定値を選び、ENTER キーを押す。

項目	設定値	説明
シャッフル（Shuffle）	オフ（Off）	シャッフル再生を無効にする
	オン（On）	アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生する。テレビ画面に「 ⤮ 」が表示されます。
リピート（Repeat）	オフ（Off）	リピート再生を無効にする。
	1 曲（Single）	現在の曲を繰り返し再生する。テレビ画面に「 🔁 」が表示されます。
	すべて（All）	アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生する。テレビ画面に「 🔁 」が表示されます。

4 終了するには、OPTION キーを押す。



インターネットラジオを聴く

本機用に編集された vTuner ラジオ局データベースサービスを利用して、世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。

- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります（37 ページ）。情報メニューの「ネットワーク」（109 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。

1 NET キーを繰り返し押して、入力を「NET RADIO」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

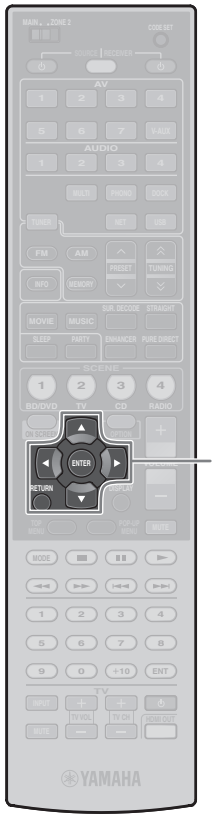


2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

インターネットラジオ局を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- ショートカット機能（79 ページ）を使うと、お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録したラジオ局は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



■ ブラウズ画面



❶ 再生表示

❷ リスト名

❸ コンテンツリスト

インターネットラジオのコンテンツー覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ ステーションアート

❺ コンテンツ番号 / 総数

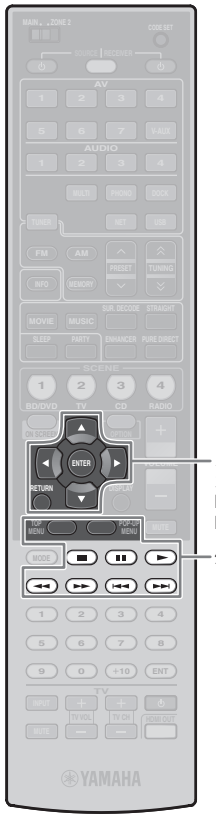
❻ 操作メニュー

カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

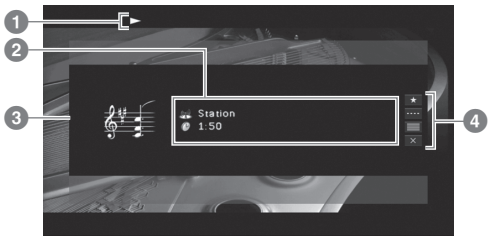
メニュー	説明
ブックマーク オン	リストで選択されているラジオ局をブックマークに登録します。
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- ブックマークに登録したラジオ局は、「ブックマーク」から簡単に呼び出せます。ブックマーク登録を解除するには、「ブックマーク」内のリストでラジオ局を選び、「ブックマークオフ」を実行します。
- ネットワーク経由でお気に入りのインターネットラジオ局を本機に登録できます。パソコンから以下のウェブサイトにアクセスしてアカウントを取得してください。アカウントの取得には、vTuner ID とメールアドレスが必要になります。vTuner ID（本機の MAC アドレス）は、情報メニューの「ネットワーク」（109 ページ）で確認できます。

  http://yradio.vtuner.com/



■ 再生画面



❶ 再生表示

❷ 再生情報

ラジオ局名、再生時間が表示されます。

❸ ステーションアート

❹ 操作メニュー

カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

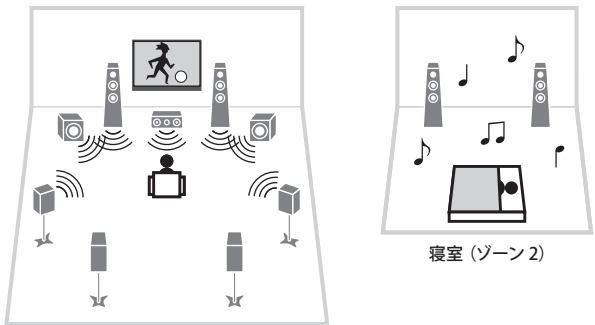
サブメニューを閉じるには、RETURN キーを押します。

メニュー	サブメニュー	説明
ブックマークオン		再生中のラジオ局をブックマークに登録します。
再生操作	■	再生を停止します。
ブラウズ画面へ		ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる		画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

• リモコンの外部機器操作キー（►、■）でも再生を操作できます。

複数の部屋で音楽を楽しむ（マルチゾーン）

マルチゾーン機能を使えば、本機を設置した部屋（メインゾーン）と別の部屋（ゾーン 2）で、それぞれ入力を選んで再生できます。
たとえば、居間（メインゾーン）でテレビを視聴しているときに、寝室（ゾーン 2）でラジオを聴くことができます。



- ゾーン 2 に出力できる音声は、アナログ音声および FM/AM ラジオ、USB 機器、パソコン、インターネットラジオの音声のみです。再生機器の音声をゾーン 2 に出力する場合は、ステレオピンケーブルを使って再生機器を本機の AUDIO 端子に接続してください。パーティーモード（78 ページ）を使うと、音声入力端子の種類に関係なく、メインゾーンと同じ音声をゾーン 2 にも出力できます。

ゾーン 2 を準備する

ゾーン 2 で使用する機器を本機に接続します。使用するアンプ（本機または外部パワーアンプ）により接続方法が異なります。

注意

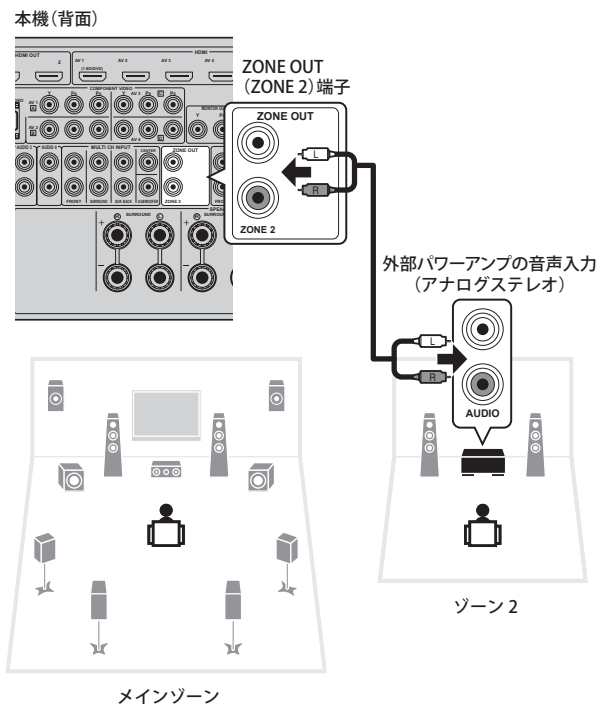
- スピーカーや外部パワーアンプを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。

■ 本機の内蔵アンプを使う

スピーカーケーブルを使って、ゾーン 2 に設置したスピーカーを本機に接続します。詳しくは「ゾーン 2 スピーカーを接続する」（23 ページ）をご覧ください。

■ 外部パワーアンプを使う

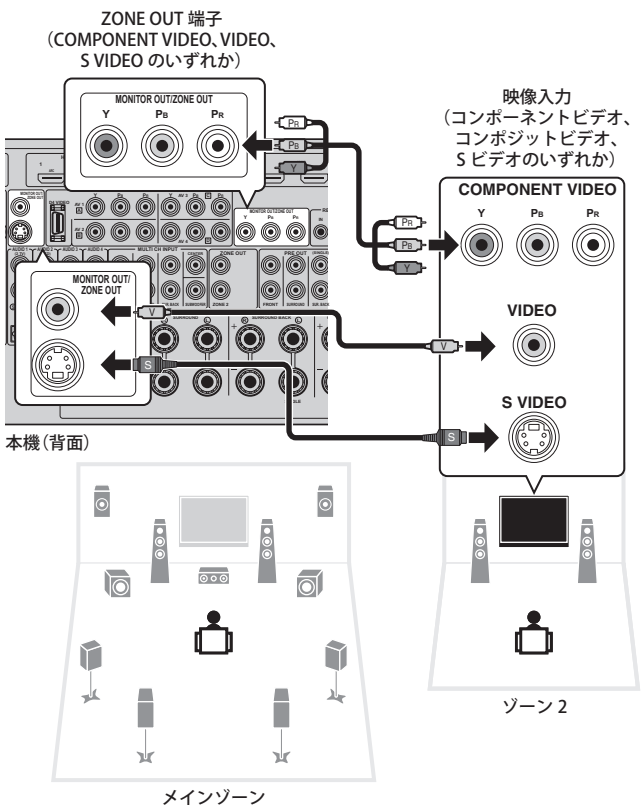
ステレオピンケーブルを使って、ゾーン 2 に設置したアンプを本機に接続します。



■ 別の部屋のテレビを接続する

別の部屋（ゾーン 2）のテレビを本機に接続すれば、別の部屋で映像もお楽しみいただけます。
接続するテレビの映像入力端子により、いずれかの接続方法を選んでください。

- アナログ端子間の映像信号変換は機能しません。ビデオ機器の映像をゾーン 2 で楽しむには、ビデオ機器およびゾーン 2 のテレビを同じ方法で本機に接続してください。

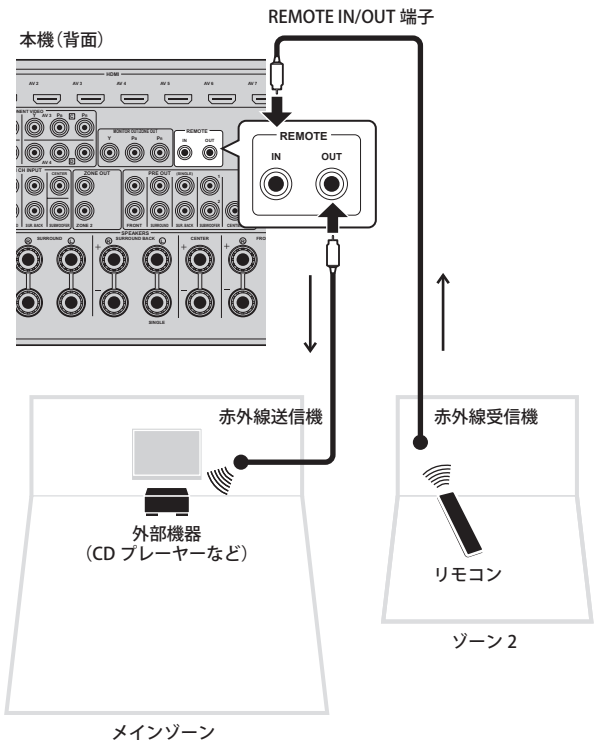


MONITOR OUT/ZONE OUT 端子をゾーン 2 に割り当てるには、設定メニューの「モニター出力割り当て」（104 ページ）を「ゾーン 2」に設定してください。

■ 別の部屋から本機を操作する（リモート接続）

赤外線受信機 / 送信機を本機の REMOTE IN/OUT 端子に接続すれば、付属のリモコンで別の部屋から本機や外部機器を操作できます。

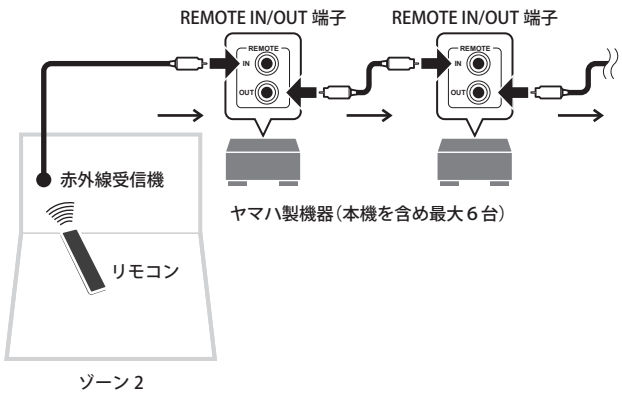
- 付属のリモコンで外部機器を操作するには、あらかじめリモコンコードを登録する必要があります（112 ページ）。





□ ヤマハ製機器間のリモート接続

本機のようにリモート接続に対応している別のヤマハ製機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。赤外線受信機とモノラルミニプラグケーブルを使って、REMOTE IN/OUT 端子を接続するだけで、リモコン信号を転送できます。



ゾーン 2 を操作する

1 MAIN/ZONE2 スイッチを「ZONE2」に切り替える。

2 RECEIVER ⏻ キーを押す。

キーを押すたびに、ゾーン 2 出力が有効 / 無効になります。
有効なときは、前面ディスプレイに「ZONE2」が点灯します。

3 以下のキーで入力を選ぶ。

AV1 ～ 4 キー：AV1 ～ 4（AUDIO）端子
V-AUX キー：前面の VIDEO AUX（AUDIO）端子
AUDIO1 ～ 4 キー：AUDIO1 ～ 4（AUDIO）端子
PHONO キー：PHONO 端子
DOCK キー：DOCK 端子
TUNER キー：FM/AM ラジオ
NET キー：NETWORK 端子（繰り返し押して「PC」と「NET RADIO」を切り替えます）
USB キー：前面の USB 端子

!

- 「PC」、「NET RADIO」、「USB」は、すべてのゾーンでいずれか 1 つしか選べません。例えばメインゾーンの入力が「USB」のときに、ゾーン 2 で「PC」を選ぶと、メインゾーンも「PC」に切り替わります。

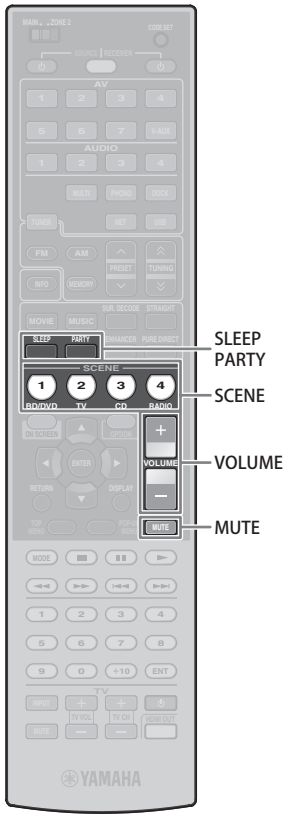
4 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。

- FM/AM ラジオを聴く（56 ページ）
- iPod の曲を再生する（59 ページ）
- Bluetooth 機器の曲を再生する（64 ページ）
- USB 機器の曲を再生する（66 ページ）
- パソコンの曲を再生する（69 ページ）
- インターネットラジオを聴く（72 ページ）

!

- テレビ画面上での操作には対応していません。前面ディスプレイを見ながら操作するか、ウェブコントロール（80 ページ）をご利用ください。



注意

- DTS-CD をゾーン 2 で再生しないでください。大きな雑音が出力される恐れがあります。

■ その他の操作

ゾーン 2 出力が有効なときは、以下の操作も可能です。

音量を調節する

VOLUME キーを押す。（MUTE キーで消音します。）

入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）

SCENE キーを押す。

- シーンに設定（入力、音量、トーンコントロール）を登録するには、前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先の SCENE キーを押し続けます。

スリープタイマーを設定する

SLEEP キーを繰り返し押して、スリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定する。

音声の高音域 / 低音域を調整する

① 本体前面の ZONE CONTROL キーを押す。
② TONE/BALANCE キーを繰り返し押して、「Treble」（高音域）または「Bass」（低音域）を選ぶ。
③ PROGRAM キーで調整する。

設定値

－ 10.0dB ～＋ 10.0dB（2.0dB 単位）

初期値

0.0dB

ゾーン 2 スピーカー（左 / 右）の音量バランスを調整する

① 本体前面の ZONE CONTROL キーを押す。
② TONE/BALANCE キーを繰り返し押して、「Balance」を選ぶ。
③ PROGRAM キーで調整する。

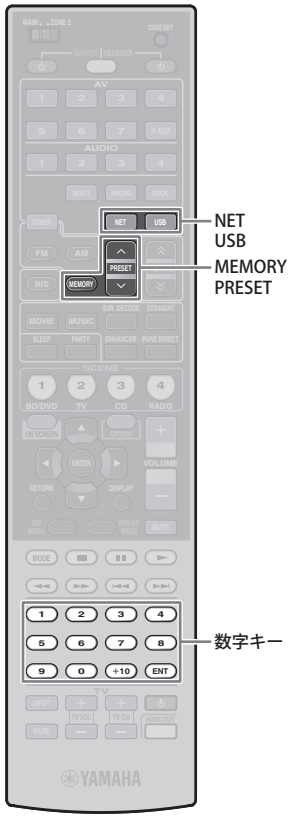
メインゾーンと同じ音楽を聴く（パーティーモード）

メインゾーンで再生中の音楽を同時にゾーン 2 でも楽しむことができます。パーティーモード中は、すべてのゾーンでステレオ音声が出力されます。ホームパーティーの BGM などにご利用ください。

1 PARTY キーを押す。

キーを押すたびに、パーティーモードが入 / 切します。
パーティーモード中は、前面ディスプレイに「PARTY」が点灯します。

- パーティーモードが機能しない場合は、設定メニューの「パーティーモード設定」（104 ページ）を「有効」（初期値）に設定してください。



お気に入りのコンテンツを登録する（ショートカット）

最大 40 種類のコンテンツ（パソコンや USB 機器の曲、インターネットラジオ局）を登録できます。登録したコンテンツは、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

• インターネットラジオ局の登録は、「ブックマーク」（73 ページ）もご利用いただけます。

■ コンテンツを登録する

お気に入りのコンテンツを選んでショートカット番号に登録します。

1 登録したい曲やインターネットラジオ局を再生する。

2 MEMORY キーを押す。



登録先のショートカット番号（点滅）

• 登録先のショートカット番号を指定するには、手順 2 実行後に PRESET キーまたは数字キーでショートカット番号を選びます。



「Empty」（空き）または現在登録されているコンテンツの入力名

3 登録を確定するには、MEMORY キーを押す。

■ 登録したコンテンツを呼び出す

ショートカット番号に登録されているコンテンツの中から、聴きたいコンテンツを選びます。

1 NET キーまたは USB キーを押す。

2 PRESET キーで聴きたいコンテンツを選ぶ。

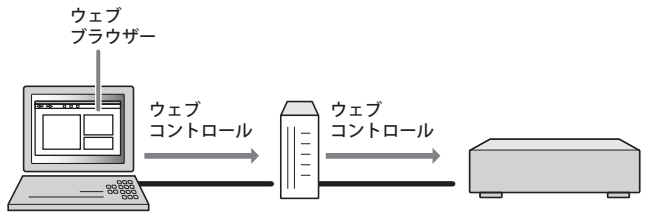
数字キーでショートカット番号（01 ～ 40）を直接入力することもできます。



• ショートカットが 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。
• 未登録のショートカット番号を入力した場合は、「Empty」と表示されます。
• 以下の場合は、ショートカット番号を選んでもコンテンツを再生できません。
  - 登録時と異なる USB 機器を接続している。
  - パソコンの電源が入っていない。またはネットワークに接続されていない。
  - 登録したインターネットラジオ局に一時的に接続できない。またはサービスが終了している。
  - 登録したコンテンツ（ファイル）が別のフォルダーに移動された。
• USB 機器またはパソコンの曲を登録した場合、本機は音楽ファイルのフォルダー内における相対的な位置を記憶します。そのため、フォルダー内の音楽ファイルを追加 / 削除すると、登録したコンテンツが呼び出されないことがあります。その場合は、コンテンツを登録し直してください。

ウェブブラウザーで本機を操作する（ウェブコントロール）

ウェブブラウザーに表示されるウェブコントロール画面を使って、本機を操作することができます。



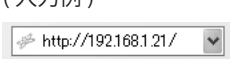
- この機能を使用するには、本機とパソコンが正しくネットワークに接続されている必要があります（37 ページ）。
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。その場合はセキュリティソフトの設定を変更してください。
- ウェブブラウザは、Internet Explorer 7.x または Internet Explorer 8.x を使用することをおすすめします。

- 「Network Standby」（81 ページ）を「On」に設定すると、本機がスタンバイ時でもウェブコントロール画面を表示できます。
- MACアドレスフィルター（81 ページ）を使って、本機にアクセスできるネットワーク機器（パソコンなど）を制限できます。

1 ウェブブラウザーを起動する。

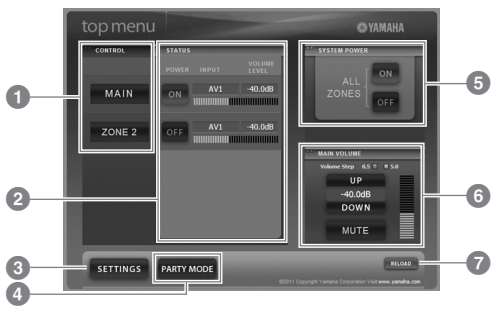
2 ウェブブラウザーのアドレス欄に本機の IP アドレスを入力する。

（入力例）



- IP アドレスは情報メニューの「ネットワーク」（109 ページ）で確認できます。
- ウェブブラウザーのブックマーク機能で本機の IP アドレスを登録しておけば、次回からブックマークを使ってウェブコントロール画面を表示できます。ただし、DHCP サーバーをお使いの場合は、本機の電源を入れ直すと IP アドレスが変わる可能性があります。

■ トップメニュー画面



❶ CONTROL（コントロール）
選択したゾーンのコントロール画面を表示します。

❷ STATUS（ステータス）
各ゾーンの電源を入 / 切します。また各ゾーンの入力と音量を表示します。

❸ SETTINGS（セッティングス）
設定画面を表示します。

❹ PARTY MODE（パーティーモード）
パーティーモード（78 ページ）を入 / 切します。

❺ SYSTEM POWER（システムパワー）
すべてのゾーンの電源を入 / 切します。

❻ MAIN VOLUME（メインボリューム）
メインゾーンの音量調節や、消音をします。音量調節の単位も選べます。

❼ RELOAD（リロード）
ウェブコントロール画面内の情報を本機に合わせて更新します。

■ コントロール画面



❶ PLAY INFO（プレイインフォ）
選択したゾーンの入力や再生に関する操作を行います。

❷ TOP MENU（トップメニュー）
トップ画面を表示します。

❸ SCENE（シーン）
選択したゾーンのシーンを選びます。

❹ POWER（パワー）
選択したゾーンの電源を入 / 切します。

❺ VOLUME（ボリューム）
選択したゾーンの音量調節や、消音をします。音量調節の単位も選べます。

❻ RELOAD（リロード）
ウェブコントロール画面内の情報を本機に合わせて更新します。

■ 設定画面



❶ Rename（リネーム）
フレンドリーネーム（ネットワーク上で使用する本機の名称）と各ゾーンの名称（105 ページ）を変更します。「APPLY」をクリックすると、本機に変更内容が反映されます。

MAC Filter（MAC フィルター）
MACアドレスフィルター（103 ページ）により、本機にアクセスできるネットワーク機器（パソコンなど）を制限します。「APPLY」をクリックすると、本機に変更内容が反映されます。

Auto Reload（オートリロード）
自動更新を有効 / 無効にします。「On」（有効）の場合、ウェブコントロール画面内の情報が本機に合わせて 5 秒ごとに更新されます。

Network Standby（ネットワークスタンバイ）
ネットワークスタンバイ（103 ページ）を有効 / 無効にします。

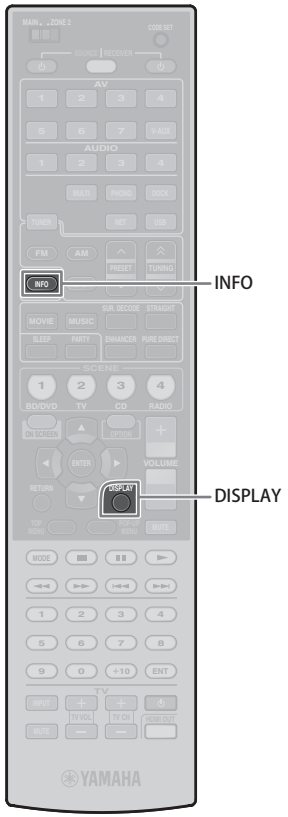
Tips 1/ 2（ティップス 1/2）
ウェブコントロール使用時に役立つ情報を表示します。

Create Link（クリエートリンク）
各コントロール画面へのショートカット（リンク）を作成します。

Backup/Recovery（バックアップ / リカバリー）
バックアップファイルを作成して、本機の各種設定をパソコンに保存します。またバックアップファイルから設定を本機に読み込ませることができます。

❷ BACK（バック）
トップ画面を表示します。

❸ RELOAD（リロード）
ウェブコントロール画面内の情報を本機に合わせて更新します。



注意

- リカバリー（設定の読み込み）実行中は本機を操作しないでください。正しく設定が反映されないことがあります。リカバリーが終了したら、「OK」をクリックして本機をスタンバイに切り替えてください。
- バックアップファイルには、ユーザー情報（アカウント、パスワードなど）や本機特有の情報（MAC アドレス、IP アドレスなど）は含まれません。

現在の状態を確認する

■ 前面ディスプレイの表示を切り替える

1 INFO キーで表示項目を選ぶ。

キーを押すたびに、表示項目が切り替わります。



項目名

約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



情報

- 入力により選択可能な項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。
- 前面ディスプレイには、曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。

入力グループ	項目
AV1 ～ 7 V-AUX AUDIO1 ～ 4 PHONO	DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名）
TUNER	Frequency（周波数）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名）
DOCK	Song（曲名）、Artist（アーティスト）、Album（アルバム名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名） ※ iPod ワイヤレスシステム、Bluetooth レシーバー使用時、またはシンプル再生で操作時：DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名）
PC USB	Song（曲名）、Artist（アーティスト）、Album（アルバム名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名） ※ USB 経由で iPod 接続時は、「DOCK」と同じ項目が表示されます。
NET RADIO	Station（ラジオ局名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名）

■ テレビ画面でステータス情報を確認する

1 DISPLAY キーを押す。

テレビ画面にステータス情報が表示されます。



2 終了するには、DISPLAY キーを押す。

再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

再生中のソースに合わせて、再生関連の機能を設定します。テレビ画面を使わずに、前面ディスプレイだけでも操作できるので、必要なときに簡単に設定を変更できます。

1 OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（◁ / ▷）で設定値を選び、ENTER キーを押す。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

オプションメニューでできること

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

項目	説明	ページ
トーンコントロール（Tone Control）	音声の高音域と低音域のバランスを調整します。	84
Adaptive DRC（Adaptive DRC）	音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。	84
多重モノラル音声（Dual Mono）	多重音声入力時の出力音声を設定します。	84
シネマ DSP 3D モード（CINEMA DSP 3D）	シネマ DSP 3D を有効 / 無効にします。	84
セリフ位置調整（Dialog Lift）	フロントプレゼンススピーカー使用時に中央に定位する音の高さを調節します。	84
拡張サラウンド（EXTD Surround）	サラウンドバックスピーカー使用時の 5.1 ～ 7.1 チャンネル音声の再生方法を設定します。	85
再生レベル補正（Volume Trim）	入力間の音量差を補正します。	85
エンハンサー（Enhancer）	ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にします。	85
音声入力選択（Audio Select）	1 つの入力に対して複数の音声入力端子を使用している場合に、本機で再生する音声信号を選択します。	85
シャッフル（Shuffle）	iPod（63 ページ）、USB 機器（68 ページ）、パソコン（71 ページ）のシャッフル再生を設定します。	—
リピート（Repeat）	iPod（63 ページ）、USB 機器（68 ページ）、パソコン（71 ページ）のリピート再生を設定します。	—
接続 / 切断（Connect/Disconnect）	Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーの無線接続を確立 / 解除します。	65
ペアリング（Pairing）	Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーをペアリングします。	64

■ トーンコントロール（Tone Control）

フロントスピーカーから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを調整します。ヘッドホン接続時は、ヘッドホンから出力される音声の高音域 / 低音域を調整できます。

選択項目

高音（Treble）、低音（Bass）

設定値

－ 6.0dB ～＋ 6.0dB（0.5dB 単位）

初期値

0.0dB

- 極端な設定にすると、音のつながりが悪くなることがあります。

本体前面のキーでも調整できます

① TONE/BALANCE キーで「Treble」または「Bass」を選ぶ。
② PROGRAM キーで調整する。

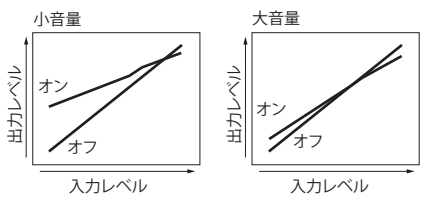
■ Adaptive DRC（Adaptive DRC）

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。「オン」にすると、夜間など小音量でも聴きやすくなります。

設定値

オン（On）	ダイナミックレンジを自動的に調節する。
オフ（Off）（初期値）	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。

「オン」に設定すると、音量が小さいときはダイナミックレンジが狭まり、大きいときは広がります。



■ 多重モノラル音声（Dual Mono）

地上デジタル /BS デジタル放送など、モノラル多重音声入力時の出力音声を設定します。

設定値

主＋副（All）	主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。 PCM 信号の左右振り分けは、BS デジタルチューナーの設定により異なります。
主音声（Main）（初期値）	主音声をフロントスピーカーから出力する。
副音声（Sub）	副音声をフロントスピーカーから出力する。

■ シネマ DSP 3D モード（CINEMA DSP 3D）

シネマ DSP 3D（54 ページ）を有効 / 無効にします。有効にすると、選択している音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）に応じてシネマ DSP 3D が機能します。

設定値

オン（On）（初期値）	シネマ DSP 3D を有効にする。
オフ（Off）	シネマ DSP 3D を無効にする。

■ セリフ位置調整（Dialog Lift）

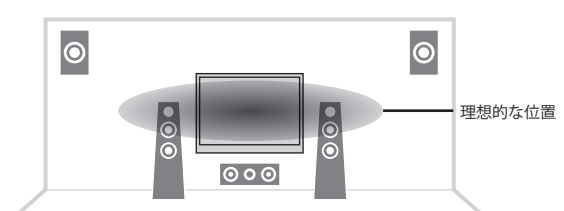
フロントプレゼンススピーカー使用時に中央に定位する音（セリフなど）の高さを調節します。セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合は、設定値を大きくしてください。

設定値

0 ～ 5（値が大きいほど高い）

初期値

0



■ 拡張サラウンド（EXTD Surround）

サラウンドバックスピーカー使用時の 5.1 ～ 7.1 チャンネル音声の再生方法を設定します。

設定値

自動判別（Auto）（初期値）	サラウンドバックチャンネルのフラグを含む音声が入力されたら、最適なデコーダーを自動的に選び、6.1/7.1 チャンネルで再生する。DTS または DTS HD 信号入力時は、サラウンドバックチャンネルのフラグに関係なく、6.1/7.1 チャンネルで再生する。
PLIIx ムービー（PLIIxMo）	Dolby Pro Logic IIx Movie デコーダーを使って、7.1 チャンネルで再生する。（サラウンドバックスピーカーを 2 つ接続時のみ選択可）
PLIIx ミュージック（PLIIxMu）	Dolby Pro Logic IIx Music デコーダーを使って、6.1/7.1 チャンネルで再生する。（サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続時のみ選択可）
EX/ES	最適なデコーダーを自動的に選び、6.1 チャンネルで再生する。
オフ（Off）	常に原音のチャンネル数で再生する。

■ 再生レベル補正（Volume Trim）

入力間の音量差を補正します。入力切替時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って調節してください。

- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

－ 6.0dB ～＋ 6.0dB（0.5dB 単位）

初期値

0.0dB

■ エンハンサー（Enhancer）

ミュージックエンハンサー（55 ページ）を有効 / 無効にします。

- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

オフ（Off）	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン（On）	ミュージックエンハンサーを有効にする。

初期値

TUNER、DOCK、PC、NET RADIO、USB：オン（On）
その他：オフ（Off）

■ 音声入力選択（Audio Select）

1 つの入力に対して複数の音声入力端子を使用している場合に、本機で再生する音声信号を選択します。

- 入力ごとに個別に設定できます。

初期値

自動判別（Auto）（初期値）	以下の優先順位にしたがって、再生する音声信号を自動的に選ぶ。 1　HDMI 音声 2　デジタル音声（COAXIAL または OPTICAL） 3　アナログ音声（AUDIO）
HDMI（HDMI）	常に HDMI 音声を再生する。HDMI 端子から音声信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
同軸 / 光（Coax/Opt）	常にデジタル音声（同軸デジタルまた光デジタル）を再生する。COAXIAL 端子または OPTICAL 端子から音声信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
アナログ（Analog）	常にアナログ音声を再生する。AUDIO 端子から音声信号が入力されていない場合、音声は出力されません。

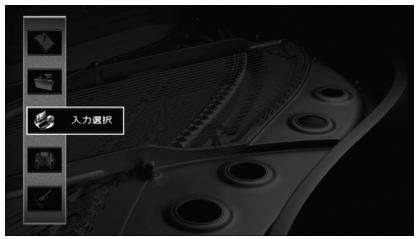
設定する

入力の設定を変更する（入力選択メニュー）

テレビ画面を見ながら、入力の設定を変更します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「入力選択」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁ / ▷）で設定を変更する入力を選び、カーソルキー（△）を押す。



入力も同時に切り替わります。

- 手順 3 実行後もカーソルキー（◁/▷）で入力を切り替えることができます。

4 カーソルキー（△ / ▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

5 カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

6 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

入力選択メニューでできること

• 選択した入力により設定可能な項目が異なります。

項目	説明	ページ
入力名変更 / アイコン選択	入力の名称やアイコンを変更します。	87
デコードモード	再生するデジタル音声のフォーマットを DTS または AAC に固定します。	87
スタンバイ時充電	本機がスタンバイ時に iPod を充電するかどうかを設定します。	87
iPod 操作連動	iPod の操作と本機を連動させるかどうかを設定します。	88
映像選択	選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。	88
DMC からの操作	DLNA 対応のデジタルメディアコントローラー（DMC）からの操作を有効 / 無効にします。	88

■ 入力名変更 / アイコン選択

前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称やアイコンを変更します。

対象の入力

AV1 ～ 7、V-AUX、AUDIO1 ～ 4、PHONO、USB、DOCK、MULTI CH

■ 手順

1 カーソルキー（◁ / ▷）でアイコンを選び、カーソルキー（▽）を押す。
2 ENTER キーを押してから、カーソルキーで名称を変更し、ENTER キーを押す。



3 カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。

• 選択した入力により設定可能な項目が異なります。

4 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

■ デコードモード

再生するデジタル音声のフォーマットを DTS または AAC に固定します。
たとえば、DTS-CD 再生中にノイズが生じることがある場合は、DTS に固定します。

対象の入力

AV1 ～ 7、V-AUX、AUDIO1 ～ 4（デジタル音声入力端子が割り当てられている場合のみ設定可）

設定値

自動判別（初期値）	入力中の音声フォーマットに合わせる。
DTS 固定	DTS に固定する（DTS 信号以外は再生しない）。
AAC 固定	AAC に固定する（AAC 信号以外は再生しない）。

■ スタンバイ時充電

本機がスタンバイ時に、iPod ドックや iPod ワイヤレスシステムに接続した iPod を充電するかどうかを設定します。

対象の入力

DOCK（iPod）

設定値

オン（初期値）	本機がスタンバイ時でも iPod を充電する。
オフ	本機がスタンバイ時は充電しない。

■ iPod 操作連動

iPod ワイヤレスシステムに接続した iPod の操作と本機を連動させるかどうかを設定します。

対象の入力

DOCK（iPod）

- **iPod ワイヤレスシステム接続時のみ設定できます。**

□ 電源と入力連動

iPod の操作と本機の電源 / 入力の切り替えを連動させるかどうかを設定します。

設定値

オン（初期値）	連動させる。iPod で再生を始めると、本機の電源が入り、入力が「DOCK」に切り替わります。再生を停止してしばらくすると、本機の電源がスタンバイになります。
オフ	連動させない。

- **「電源と入力連動」を「オン」に設定時は、「スタンバイ時充電」（87 ページ）の設定に関わらず iPod ワイヤレスシステムに接続した iPod が充電されます。**

□ 音量連動

iPod の操作と本機の音量調節を連動させるかどうかを設定します。

設定値

オン（初期値）	連動させる。iPod で音量を調節すると、本機の音量も調節されます。
オフ	連動させない。

■ 映像選択

選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。

対象の入力

TUNER、PC、NET RADIO、USB、MULTI CH

設定値

オフ（初期値）	映像を表示しない。
AV1 ～ 7、V-AUX	選択した入力の映像を表示する。

■ DMC からの操作

DLNA 対応のデジタルメディアコントローラー（DMC）からの操作を有効 / 無効にします。

対象の入力

PC

設定値

無効	DMC からの操作を無効にする。
有効（初期値）	DMC からの操作を有効にする。

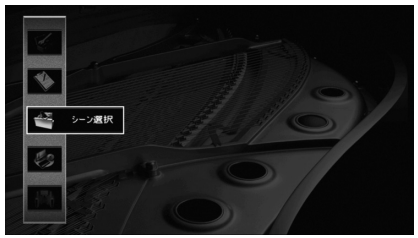
- **デジタルメディアコントローラー（DMC）とは、ネットワーク上でほかの機器を制御できる機器のことです。この機能を有効にすると、本機と同じネットワーク上にある DMC（Windows Media Player 12 など）から直接本機の再生を操作できます。**

シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）

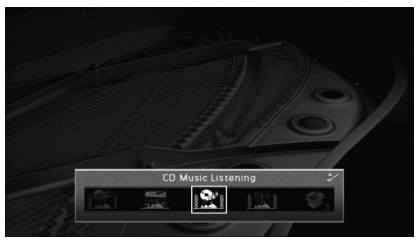
テレビ画面を見ながら、シーン機能（49 ページ）の設定を変更します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「シーン選択」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁ / ▷）で設定を変更するシーンを選び、カーソルキー（△）を押す。



- 手順 3 実行後もカーソルキー（◁/▷）でシーンを切り替えることができます。

4 カーソルキー（△ / ▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。



5 カーソルキーと ENTER キーで設定値を変更する。

6 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

シーン選択メニューでできること

項目	説明	ページ
登録	現在の環境をシーンに登録します。	89
呼出	シーンの登録内容を呼び出します。 シーン連動再生の設定、シーンに登録する設定項目の選択、登録内容の確認もできます。	89
シーン名変更 / アイコン選択	シーンの名称やアイコンを変更します。	90
リセット	シーンの登録内容を初期値に戻します。	90

■ 登録

現在の環境（入力、音場プログラムなど）を選択したシーンに登録します。

- シーンに登録されている入力を変更したときは、SCENE キーのリモコンコードも登録し直してください（49 ページ）。

■ 呼出

選択したシーンの登録内容を呼び出します。
「詳細設定」では、シーン連動再生の設定、シーンに登録する設定項目の選択、登録内容の確認ができます。

□ 機器連携

シーン選択と連動して、HDMI で本機に接続した外部機器や、REMOTE OUT 端子に接続したヤマハ製機器の再生を開始します（シーン連動再生）。

設定値

オフ	シーン連動再生を無効にする。
HDMI コントロール	シーン選択と連動して、本機と HDMI 経由で接続した HDMI コントロール対応の外部機器（BD/DVD レコーダーなど）の再生を開始する。テレビが HDMI コントロールに対応している場合は、テレビの電源も入ります。
リモコン：ヤマハ BD/DVD 1	シーン選択と連動して、REMOTE OUT 端子に接続したヤマハ製 BD/DVD プレーヤーの再生を開始する。

リモコン : ヤマハ BD/DVD 2	シーン選択と連動して、REMOTE OUT 端子に接続したヤマハ製 BD/DVD プレーヤーの再生を開始する。(「リモコン : ヤマハ BD/DVD 1」が正しく機能しない場合に選択してください。)
リモコン : ヤマハ CD	シーン選択と連動して、REMOTE OUT 端子に接続したヤマハ製 CD プレーヤーの再生を開始する。

初期値

シーン 1 (BD/DVD)、シーン 2 (TV) : HDMI コントロール
シーン 3 (CD) : リモコン : ヤマハ CD
シーン 4 (RADIO)、シーン 5 ～ 12 : オフ

- **HDMI コントロール経由でシーン連動再生を使うには、設定メニューの「HDMI コントロール」を「オン」(初期値) に設定してから、HDMI コントロール機器どうしの連動設定が必要になります (128 ページ)。**

□ 詳細設定

シーンに登録する設定項目を選択します。また、各シーンに現在登録されている内容を確認することもできます。
設定項目を追加するには、カーソルキーで項目を選び、ENTER キーでチェックボックスをチェックします。チェックを外すと設定項目から除外されます。
たとえば、テレビを観るときは頻繁に音量を調整するが、ラジオは夜間などに一定の音量で聴きたい場合、シーン 2 (TV) の「音量」はチェックを外し、シーン 4(RADIO) の「音量」をチェックしておけば、シーン選択時にラジオの音量だけを調整することができます。



選択項目

入力設定	入力 (48 ページ)、音声入力選択 (85 ページ)
HDMI 出力端子	HDMI 出力端子 (48 ページ)
再生モード	サウンドプログラム (51 ページ)、ピュアダイレクトモード (100 ページ)
音声設定	トーンコントロール (84 ページ)、Adaptive DRC (84 ページ)、エンハンサー (85 ページ)
音場設定	シネマ DSP 3D モード (84 ページ)、セリフ位置調整 (84 ページ)、拡張サラウンド (85 ページ)
映像設定	ビデオ信号処理 (100 ページ)
音量	マスターボリューム (48 ページ)
リップシンク設定	リップシンク設定 (99 ページ)、ディレイ (99 ページ)
スピーカー設定	設定パターン (96 ページ)、PEQ 選択 (98 ページ)

初期値

入力設定、HDMI 出力端子、再生モード、音声設定 : チェックあり
音場設定、映像設定、音量、リップシンク設定、スピーカー設定 : チェックなし

■ シーン名変更 / アイコン選択

前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、シーンの名称やアイコンを変更します。

■ 手順

1 **カーソルキー (◁ / ▷) でアイコンを選び、カーソルキー (▽) を押す。**
2 **ENTER キーを押してから、カーソルキーで名称を変更し、ENTER キーを押す。**



3 **カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。**

- **入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。**

4 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**

■ リセット

選択したシーンの登録内容を初期値 **(49 ページ) に戻します。**

音場プログラム / サラウンドデコーダーの設定を変更する（サウンドプログラムメニュー）

テレビ画面を見ながら、音場プログラム / サラウンドデコーダーの設定を変更します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「サウンドプログラム」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁ / ▷）で設定を変更する音場プログラム / サラウンドデコーダーを選び、カーソルキー（△）を押す。



- 手順 3 実行後もカーソルキー（◁/▷）で音場プログラムを切り替えることができます。

4 カーソルキー（△ / ▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。
- 選択した音場プログラムの設定を初期化するには、「リセット」を選びます。

5 カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

6 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

サウンドプログラムメニューでできること

- 選択した音場プログラムや、サラウンドデコーダーにより設定可能な項目が異なります。

■ 音場プログラムの設定

項目	説明	設定値
デコーダー選択	選択した音場プログラムと組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを設定します。	PLIIx ムービー（PLII ムービー）、Neo：6 シネマ
エフェクト量の加減	音場効果の強弱を調節します。	− 6dB 〜＋ 3dB （初期値：0dB） 値を大きくすると音場効果が増加し、小さくすると減少します。
ディレイ	直接音からプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節します。	1ms 〜 99ms 値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。

項目	説明	設定値
サラウンド音場の遅れ	直接音からサラウンド音場が生じるまでの時間を調節します。	1ms ～ 49ms 値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。
サラウンドバックの遅れ	直接音からサラウンドバック音場が生じるまでの時間を調節します。	
音場空間の大きさ	プレゼンス音場の広がり感を調節します。	0.1 ～ 2.0 値を大きくすると広がり感が増加し、小さくすると減少します。
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節します。	
サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します。	
響きの強さ	プレゼンス音場の減衰量を調節します。	0 ～ 10 値を大きくすると反響が増加し、小さくすると減少します。
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の減衰量を調節します。	
サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の減衰量を調節します。	
残響時間	後部残響音の減衰時間を調節します。	1.0s ～ 5.0s 値を大きくすると残響音が長く残り、小さくすると早く消えます。
残響音の遅れ	直接音から後部残響音が生じるまでの時間を調節します。	0ms ～ 250ms 値を大きくすると残響音の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。
残響音の強さ	後部残響音の強さを調節します。	0% ～ 100% 値を大きくすると残響音が強くなり、小さくすると弱くなります。

「2ch ステレオ」および「7ch ステレオ」では、以下の項目を設定できます。

音場プログラム	項目	説明	設定値
2ch ステレオ	**ダイレクト**	アナログ音声を再生時、自動的に DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスするかどうかを設定します。	自動（初期値）、オフ 「自動」に設定すると、バイパスします（トーンコントロールの高音 / 低音ともに 0dB に設定時）。
7ch ステレオ	**センター音量**	センターチャンネルの音量を調節します。	0% ～ 100% （初期値：100%）
	サラウンド左音量	サラウンド左チャンネルの音量を調節します。	
	サラウンド右音量	サラウンド右チャンネルの音量を調節します。	
	サラウンドバック音量	サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。	0% ～ 100% （初期値：50%）
	サラウンドバック左音量	サラウンドバック左チャンネルの音量を調節します。	0% ～ 100% （初期値：35%）
	サラウンドバック右音量	サラウンドバック右チャンネルの音量を調節します。	
	フロントプレゼンス左音量	フロントプレゼンス左チャンネルの音量を調節します。	0% ～ 100% （初期値：33%）
	フロントプレゼンス右音量	フロントプレゼンス右チャンネルの音量を調節します。	

- **スピーカー接続の有無により、「7ch ステレオ」で設定可能な項目が異なります。**

■ サラウンドデコーダーの設定

「サラウンドデコーダー」の「デコーダー選択」で「DD PLIIx ミュージック」または「Neo：6 ミュージック」を選ぶと、以下の項目を設定できます。

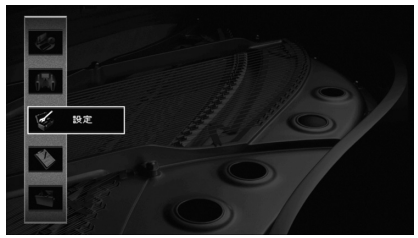
デコーダー選択	項目	説明	設定値
DD PLIIx ミュージック	パノラマ	フロント音場の広がり感を調節します。	オフ（初期値）、オン 「オン」に設定すると、フロントチャンネル音声を左右に大きく回り込ませて、サラウンド音場とつながるような広がり感を得ることができます。
	センターの広がり	センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。	0 ～ 7（初期値：3） 値を大きくすると左右に広がり、小さくするとセンターに近づきます。
	ディメンション	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。	－3 ～＋3（初期値：0） 値を大きくするとフロント音場が強くなり、小さくするとサラウンド音場が強くなります。
Neo：6 ミュージック	センターイメージ	フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。	0.0 ～ 1.0（初期値：0.3） 値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増します。

詳細機能を設定する（設定メニュー）

テレビ画面を見ながら、本機の詳細機能を設定します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「設定」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁ / ▷）でメニューを選ぶ。



4 カーソルキー（△ / ▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

5 カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

6 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

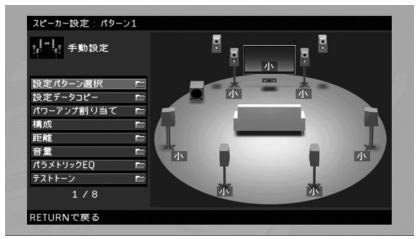
設定メニューでできること

メニュー	項目			説明	ページ
スピーカー設定	自動測定			スピーカー設定を自動で調整します（YPAO）。	41
	手動設定	設定パターン選択		2 つのスピーカー設定パターンを登録して、使用するスピーカー設定を選択します。	96
		設定データコピー		「設定パターン選択」に登録されているスピーカー設定をコピーします。	96
		パワーアンプ割り当て		使用するスピーカーシステムを選択します。	96
		構成	フロント	フロントスピーカーのサイズを選択します。	97
			センター	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	97
			サラウンド	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	97
			サラウンドバック	サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。	97
			フロントプレゼンス	フロントプレゼンススピーカーの有無を設定します。	97
			サブウーファー	サブウーファーの有無や位相を設定します。	97
			エクストラベース	フロントチャンネルの低音域を出力するスピーカーを設定します。	98
			低音クロスオーバー	「小」に設定したスピーカーが出力可能な低音域成分の下限周波数を設定します。	98
		距離		スピーカーの距離を個別に設定します。	98
		音量		スピーカーの音量を個別に調節します。	98
		パラメトリック EQ	PEQ 選択	使用するイコライザーの種類を選択します。	98
			PEQ データコピー	「自動測定」で得たパラメトリックイコライザーの値を「手動編集」エリアにコピーします。	98
		テストトーン		テストトーン出力を有効 / 無効にします。	99
音声設定	リップシンク			映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。	99
	ダイナミックレンジ			Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	100
	音量の上限			リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	100
	音量の初期値			電源を入れたときの音量を設定します。	100
	ピュアダイレクトモード			ピュアダイレクトが有効なときに映像信号を出力するかどうかを設定します。	100
	Adaptive DSP Level			音量調節時に、音場プログラムのエフェクト量も自動的に調節するかどうかを設定します。	100
映像設定	アナログ端子間変換			アナログ端子間の映像信号変換を有効 / 無効にします。	100
	信号処理			映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効 / 無効にします。	100
HDMI 設定	HDMI コントロール			HDMI コントロールを有効 / 無効にします。また HDMI コントロール関連項目（ARC、TV 音声入力など）を設定します。	101
	音声出力			音声の出力先を設定します。	102
	スタンバイスルー			本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された音声 / 映像をテレビに出力するかどうかを設定します。	102
ネットワーク設定	IP アドレス			ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。	103
	ネットワークスタンバイ			ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能を有効 / 無効にします。	103
	MAC アドレスフィルター			MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるネットワーク機器を制限します。	103

メニュー	項目			説明	ページ
マルチゾーン設定	ゾーン 2 設定	音量		ソーン 2 出力の音量調整を有効 / 無効にします。	104
		音量の上限		リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン 2 の音量の上限値を設定します。	104
		音量の初期値		ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	104
		モノラル再生		ソーン 2 に出力する音声信号をモノラル信号に変換するかどうかを設定します。	104
	モニター出力割り当て			MONITOR OUT/ZONE OUT 端子を割り当てるゾーンを選択します。	104
	パーティーモード設定			パーティーモードへの切り替えを有効 / 無効にします。	104
	ゾーン シーン名称変更			前面ディスプレイやテレビ画面に表示される、ゾーン 2 のシーン名称を変更します。	104
	ゾーン名称変更			前面ディスプレイやテレビ画面に表示される、ゾーンの名称を変更します。	105
ファンクション設定	オートパワーダウン			本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。	105
	入力端子割り当て			COMPONENT VIDEO、COAXIAL、OPTICAL 端子を他の入力に割り当てます。	105
	表示設定	本体表示設定	明るさ	前面ディスプレイの明るさを調節します。	106
			スクロール表示	前面ディスプレイのスクロール方法を設定します。	106
		ショートメッセージ		本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。	106
		壁紙設定		テレビ画面表示の背景画像を選択します。	106
	トリガー出力 1 トリガー出力 2	トリガーモード		トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。	106
		対象ゾーン		トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。	106
		対象ソース		入力ごとに電気信号の出力 / 停止を設定します。	107
		手動設定		電気信号を手動で出力 / 停止します。	107
	設定保護			設定を保護して、変更できないようにします。	107
表示言語				テレビ画面の表示言語を設定します。	107

スピーカー設定（手動設定）

スピーカーの各種パラメーターを手動で設定します。



■ 設定パターン選択

2 つのスピーカー設定パターンを登録して、使用するスピーカー設定を選択します。
選択した設定パターンに以下のスピーカー設定が登録されます。
- YPAO の測定結果（自動測定）
- パワーアンプ割り当て
- 構成
- 距離
- 音量
- パラメトリック EQ

設定値

パターン 1（初期値）、パターン 2

- 「自動測定」および「手動設定」の画面左上に、選択している設定パターンが表示されます。

■ 設定データコピー

「設定パターン選択」に登録されているスピーカー設定をコピーします。

選択項目

パターン 1 > 2	「パターン 1」のスピーカー設定を「パターン 2」にコピーする。
パターン 2 > 1	「パターン 2」のスピーカー設定を「パターン 1」にコピーする。

■ パワーアンプ割り当て

使用するスピーカーシステムを選択します。
本機は 7 チャンネルのアンプを内蔵しています。ご使用になる環境や楽しみ方に合わせて、2 ～ 9 本のスピーカーと最大 2 台のサブウーファー（アンプ内蔵）を接続できます。
さらに、バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）、マルチゾーン接続を使った応用的なスピーカーシステムにも対応しています。

設定値

Basic（初期値）	標準的なスピーカーシステム（7 チャンネル＋フロントプレゼンスなど）を使う場合に選択する（16 ページ）。
7ch +1ZONE	メインゾーンの 7 チャンネルスピーカーに加えて、ゾーン 2 スピーカーを使う場合に選択する（22 ページ）。
5ch BI-AMP	5 チャンネルスピーカー（フロントをバイアンプ接続）を使う場合に選択する（21 ページ）。
5ch BI-AMP +SB	5 チャンネルスピーカー（フロントをバイアンプ接続）に加えて、外部パワーアンプを使ってサラウンドバックチャンネルを拡張する場合に選択する（22 ページ）。

■ 構成

スピーカーの出力特性を設定します。

- スピーカーのサイズ選択時、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」にしてください。

□ フロント

フロントスピーカーのサイズを選択します。

設定値

大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。
小（初期値）	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 フロントチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）はサブウーファーから出力されます。

- **「サブウーファー」が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。**

□ センター

センタースピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
小（初期値）	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 センターチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）はサブウーファーから出力されます。
無	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

□ サラウンド

サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
小（初期値）	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）はサブウーファーから出力されます。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

□ サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大 1 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの全帯域がサラウンドバックスピーカーから出力されます。
大 2 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの全帯域がサラウンドバックスピーカーから出力されます。
小 1 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）はサブウーファーから出力されます。
小 2 台（初期値）	小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）はサブウーファーから出力されます。
無	サラウンドバックスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの音声はサラウンドスピーカーおよびサブウーファー（またはフロントスピーカー）から出力されます。

- **「サラウンド」が「無」の場合は設定できません。**

□ フロントプレゼンス

フロントプレゼンススピーカーの有無を設定します。

設定値

使用する（初期値）	フロントプレゼンススピーカーを接続している場合に選択する。
使用しない	フロントプレゼンススピーカーを接続しない場合に選択する。

□ サブウーファー

サブウーファーの有無や位相を設定します。

設定値

使用する	正相（初期値）	サブウーファーを接続している場合に選択する（位相を反転しない）。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。
	逆相	サブウーファーを接続している場合に選択する（位相を反転する）。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。
使用しない		サブウーファーを接続しない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。



• 視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。

□ エクストラベース

フロントチャンネルの低音域を出力するスピーカーを設定します。

設定値

オフ（初期値）	フロントスピーカーのサイズに応じて、サブウーファーまたはフロントスピーカーの一方から低音域音声を出力する。
オン	サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域音声を出力する。



• 「サブウーファー」が「使用しない」または「フロント」が「小」の場合は設定できません。

□ 低音クロスオーバー

「小」に設定したスピーカーが出力可能な低音域成分の下限周波数を設定します。設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

設定値

40Hz、60Hz、80Hz（初期値）、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz



• サブウーファー側で音量やクロスオーバー周波数を調節できる場合は、音量を半分に、クロスオーバー周波数を最大にしてください。

■ 距離

スピーカーの距離を個別に設定して、各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように調節します。最初に表示単位（メートルまたはフィート）を選んでください。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、サブウーファー

設定値

0.30m ～ 24.00m（1.0ft ～ 80.0ft）　※ 0.05m（0.2ft）単位

初期値

3.00m (10.0ft)

■ 音量

スピーカーの音量を個別に調節します。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、サブウーファー

設定値

－ 10.0dB ～＋ 10.0dB（0.5dB 単位）

初期値

0.0dB

■ パラメトリック EQ

イコライザーを使って音色を調節します。

□ PEQ 選択

使用するイコライザーの種類を選択します。

設定値

手動編集	イコライザーを手動で調節する場合に選択する。 詳しくは「イコライザーの手動編集」をご覧ください。
YPAO: フラット	各スピーカーの特性を均一に設定する。
YPAO: フロントに近似	フロントスピーカーの特性に合わせて、各スピーカーの特性を設定する。
YPAO: ナチュラル	高域特性を下げた状態で揃えて、各スピーカーの音質を設定する。
使用しない	イコライザーを使用しない。



• 「YPAO: フラット」、「YPAO: フロントに近似」、「YPAO: ナチュラル」は、「自動測定」（41 ページ）の結果が保存されている場合のみ選択できます。

□ PEQ データコピー

「自動測定」（41 ページ）で得たパラメトリックイコライザーの値をコピーします。
コピーした値は、「イコライザーの手動編集」の手順で調節できます。

選択項目

フラット > 手動編集	「自動測定」で得た「フラット」の値をコピーする。
フロント > 手動編集	「自動測定」で得た「フロントに近似」の値をコピーする。
ナチュラル > 手動編集	「自動測定」で得た「ナチュラル」の値をコピーする。

■ イコライザーの手動編集

1 「PEQ 選択」で「手動編集」を選び、ENTER キーを押す。
2 カーソルキーでスピーカーを選び、ENTER キーを押す。
3 カーソルキーで項目を選び、ENTER キーを押す。

バンド / ゲイン：あらかじめ設定されている 7 つのバンドから中心周波数を選び、ゲイン（レベルの強さ）を調節する。

周波数 / ゲイン：「バンド / ゲイン」で選んだ「バンド」の中心周波数とゲイン（レベルの強さ）を調節する。

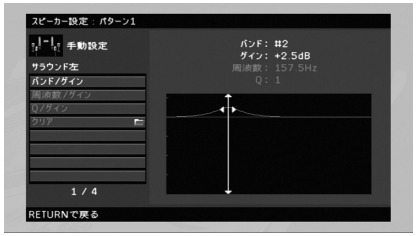
Q/ ゲイン：「バンド / ゲイン」で選んだ「バンド」の Q ファクター（周波数帯域幅）とゲイン（レベルの強さ）を調節する。

クリア：選択したスピーカーの音響特性を全帯域均一（ゲイン：0.0dB）に戻す。

4 カーソルキーでイコライザーを操作してパラメーターを調整し、ENTER キーを押す。

設定値

ゲイン：－ 20.0dB ～+ 6.0dB（0.5dB 単位）
中心周波数：31.3Hz ～ 16.0kHz
Q ファクター：0.500 ～ 10.08



5 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

■ テストトーン

テストトーン出力を有効 / 無効にします。テストトーンを出力すると、実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節できます。

設定値

オフ（初期値）	テストトーンを出力しない。
オン	音の出力が必要なパラメーターを設定する際に、テストトーンを自動的に出力する。

音声設定

音声出力に関する設定を変更します。



■ リップシンク

映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。

□ 自動補正

自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合、映像と音声のずれが自動で調整されます。必要であれば、補正時間を微調整できます。「オフセット」には自動補正の値と微調整した値の差が表示されます。

設定値

0ms ～ 250ms（1ms 単位）

初期値

0ms

□ 手動補正

映像と音声のずれを手動で調整します。

設定値

0ms ～ 250ms（1ms 単位）

初期値

0ms

■ ダイナミックレンジ

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

設定値

最大（初期値）	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
最小 / 自動	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。 Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

■ 音量の上限

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定値

− 30.0dB ～+ 15.0dB（5.0dB 単位）、+ 16.5dB

初期値

+ 16.5dB

■ 音量の初期値

電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

オフ（初期値）	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
オン	ミュート、または− 80.0dB ～+ 16.5dB（0.5dB 単位）に固定する。 （「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効）

■ ピュアダイレクトモード

ピュアダイレクト（55 ページ）が有効なときに映像信号を出力するかどうかを設定します。

設定値

自動（初期値）	映像信号を出力する。 選択した入力の映像やオンスクリーン表示が自動的に表示されます。 映像信号が入力されていない場合は、壁紙が表示されます。
ビデオ オフ	映像信号を出力しない（壁紙も表示しない）。

■ Adaptive DSP Level

音量調節時に、音場プログラムのエフェクト量も自動的に調節するかどうかを設定します。

設定値

オフ	自動的に調節しない。
オン（初期値）	自動的に調節する。

映像設定

映像出力に関する設定を変更します。



■ アナログ端子間変換

アナログ端子間（COMPONENT VIDEO、D4 VIDEO、S VIDEO、VIDEO）の映像信号変換（127 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	アナログ端子間の映像信号変換を無効にする。
オン（初期値）	アナログ端子間の映像信号変換を有効にする。 変換された映像信号は MONITOR OUT 端子からのみ出力されます。

- 「モニター出力割り当て」（104 ページ）が「ゾーン 2」の場合は、アナログ端子間の映像信号変換は機能しません。
- 480p、1080i、720p 信号は、S VIDEO 端子および VIDEO 端子から出力されません（127 ページ）。

■ 信号処理

映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ（初期値）	映像の信号処理を無効にする。
オン	映像の信号処理を有効にする。 「解像度」と「アスペクト」の設定が適用されます。

- 解像度が 720p、1080i、1080p の映像信号は処理できません。

□ 解像度

「信号処理」を「オン」に設定時、出力する HDMI 映像信号の解像度を選択します。

設定値

変換しない	解像度を変換しない。
自動判別（初期値）	出力先のテレビの解像度に自動的に合わせる。
480p、720p、1080i、1080p	指定した解像度に変換する。 （テレビが対応している解像度のみ選択可）

- テレビが対応していない解像度で出力するには、アドバンスドセットアップメニューの「MONITOR CHECK」で「SKIP」を選んでから（110 ページ）、解像度を設定してください。（映像がテレビ画面に正しく表示されなくなる場合があります。）

□ アスペクト

「信号処理」を「オン」に設定時、出力する HDMI 映像信号のアスペクト比（縦横比）を選択します。

設定値

変換しない（初期値）	アスペクト比を変換しない。
16：9 ノーマル	4:3 の映像の左右に黒い帯をつけて、16:9 のテレビに合わせる。

- 解像度が 480i、480p の映像信号を 720p、1080i または 1080p に変換時のみ有効です。

HDMI 設定

HDMI に関する設定を変更します。



■ HDMI コントロール

HDMI コントロール（128 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
オン（初期値）	HDMI コントロールを有効にする。 「TV 音声入力」、「ARC」、「スタンバイ連動」の設定が適用されます。

- 「HDMI コントロール」を「オン」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を本機に接続後、連動設定が必要になります（128 ページ）。

□ TV 音声入力

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定値

AUDIO1 ～ 4

初期値

AUDIO1

- ARC 使用時は、ここで選択した入力がテレビ音声入力用として使用されます。したがって、本体背面の該当入力端子は使用できません。

□ ARC

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、ARC（26 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン（初期値）	ARC を有効にする。

- 通常は「オン」（初期値）から変更する必要はありません。本機が非対応の音声信号がテレビから入力されてノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。

□ スタンバイ連動

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。

設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
自動（初期値）	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

■ 音声出力

音声の出力先を設定します。

- 「アンプ」および「HDMI OUT1」は、「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

□ アンプ

音声を本機に接続したスピーカーから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ	スピーカーから出力しない。
オン（初期値）	スピーカーから出力する。

□ HDMI OUT1、HDMI OUT2

音声を HDMI OUT 1 端子または HDMI OUT 2 端子に接続したテレビから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ（初期値）	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。

■ スタンバイスルー

本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された音声 / 映像をテレビに出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ（初期値）	テレビに出力しない。
オン	テレビに出力する。（1 ～ 3W の電力を消費）

- 「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

ネットワーク設定

ネットワークに関する設定を変更します。



■ IP アドレス

ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。

□ DHCP

DHCP サーバーを使用するかどうかを設定します。

設定値

オフ	DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する。
オン（初期値）	DHCP サーバーを使用して、本機のネットワーク情報（IP アドレスなど）を自動的に取得する。

□ 手動設定

「DHCP」を「オフ」に設定時、本機のネットワーク情報を手動で設定します。

選択項目

IP アドレス	IP アドレスを設定する。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定する。
デフォルト ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。

■ ネットワークスタンバイ

ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能（ネットワークスタンバイ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ（初期値）	ネットワークスタンバイを無効にする。
オン	ネットワークスタンバイを有効にする。（約 5W の電力を消費）

■ MAC アドレスフィルター

MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるネットワーク機器を制限します。

□ モード

MAC アドレスフィルターを有効 / 無効にします。

設定値

オフ（初期値）	MAC アドレスフィルターを無効にする。
オン	MAC アドレスフィルターを有効にする。「アドレス設定」で指定した MAC アドレスを持つネットワーク機器だけが本機にアクセスできるようになります。

□ アドレス設定

「モード」を「オン」に設定時、本機へのアクセスを可能にするネットワーク機器の MAC アドレス（最大 10 個）を指定します。

マルチゾーン設定

マルチゾーンに関する設定を変更します。



■ ゾーン 2 設定

ゾーン 2 の音声出力に関する設定を変更します。

□ 音量

ソーン 2 出力の音量調整を有効 / 無効にします。

設定値

固定	ゾーン 2 出力の音量調整を無効にする。
可変（初期値）	ゾーン 2 出力の音量調整を有効にする。

- 外部パワーアンプ経由でゾーン 2 スピーカーを接続している場合（75 ページ）のみ設定できます。

□ 音量の上限

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン 2 の音量の上限値を設定します。

設定値

－ 30.0dB ～＋ 15.0dB（5.0dB 単位）、＋ 16.5dB

初期値

＋ 16.5dB

□ 音量の初期値

ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

オフ（初期値）	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
オン	ミュート、または－ 80.0dB ～＋ 16.5dB（0.5dB 単位）に固定する。 （「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効）

□ モノラル再生

ソーン 2 に出力する音声信号をモノラル信号に変換するかどうかを設定します。

設定値

オフ（初期値）	モノラル信号に変換する。
オン	モノラル信号に変換しない。

■ モニター出力割り当て

MONITOR OUT/ZONE OUT（COMPONENT VIDEO、S VIDEO、VIDEO）端子を割り当てるゾーンを選択します。

設定値

メイン（初期値）、ゾーン 2

- ビデオ機器の映像をゾーン 2 で楽しむには、ビデオ機器およびゾーン 2 のテレビを同じ方法で本機に接続してください。アナログ端子間の映像信号変換は機能しません。

■ パーティーモード設定

パーティーモード（78 ページ）への切り替えを有効 / 無効にします。

選択項目

対象：ゾーン 2

設定値

無効	パーティーモードへの切り替えを無効にする。
有効（初期値）	パーティーモードへの切り替えを有効にする。 リモコンの PARTY キーでパーティーモードを入 / 切できます。

■ ゾーン シーン名称変更

前面ディスプレイやテレビ画面に表示される、ゾーン 2 のシーン名称を変更します。

■ 手順

1 「ゾーン 2」が選択されている状態で、ENTER キーを押す。
2 カーソルキーで名称を変更したいシーンを選び、ENTER キーを押す。

3 ENTER キーを押してから、カーソルキーで名称を変更し、ENTER キーを押す。



4 カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。

・ 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。

5 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

■ ゾーン名称変更

前面ディスプレイやテレビ画面に表示される、ゾーンの名称を変更します。

■ 手順

1 カーソルキーで名称を変更したいゾーンを選び、ENTER キーを押す。
2 ENTER キーを押してから、カーソルキーで名称を変更し、ENTER キーを押す。



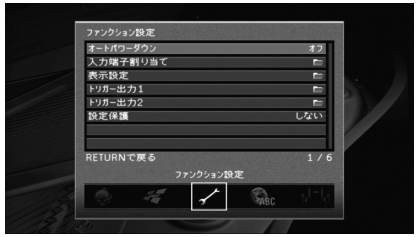
3 カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。

・ 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。

4 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

ファンクション設定

本機をより便利に使うための機能を設定します。



■ オートパワーダウン

本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。

設定値

オフ（初期値）	電源を自動的にスタンバイにしない。
4 時間、8 時間、12 時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。

■ 入力端子割り当て

COMPONENT VIDEO（コンポーネント）、COAXIAL（同軸）、OPTICAL（光）端子を他の入力に割り当てます。

■ 手順

設定例：OPTICAL（⑤）端子を入力「AV2」に割り当てる場合

1 カーソルキーで「AV2」と「光」の交差するセルを選び、ENTER キーを押す。



2 カーソルキーで「⑤」を選び、ENTER キーを押す。



3 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

- COAXIAL（同軸）端子と OPTICAL（光）端子を同じ入力に割り当てることはできません。

■ 表示設定

前面ディスプレイおよびテレビ画面表示に関する設定を変更します。

□ 本体表示器設定

前面ディスプレイに関する設定を変更します。

明るさ

前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定値

－ 4 ～ 0（値が大きいほど明るい）

初期値

0

スクロール表示

前面ディスプレイのスクロール方法を設定します。
表示文字数が 14 文字を超える場合にスクロール表示になります。

設定値

継続（初期値）	すべての文字をスクロールしながら表示する。
1 回	すべての文字を一度スクロールしたら、最初の 14 文字だけを表示する。

□ ショートメッセージ

入力選択や音量調節など、本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。

設定値

オン（初期値）	テレビ画面にショートメッセージを表示する。
オフ	テレビ画面にショートメッセージを表示しない。

□ 壁紙設定

テレビ画面表示の背景画像を選択します。

設定値

ピクチャー 1、ピクチャー 2、ピクチャー 3	選択した画像を背景画像に設定する。
グレー	背景をグレー（灰色）に設定する。

■ トリガー出力 1、トリガー出力 2

TRIGGER OUT 1~2 端子に接続した機器の制御に関する設定をします。

□ トリガーモード

トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。

設定値

パワー（初期値）	本機の電源を入れたときに電気信号を出力する。
ソース	本機の入力を切り替えたときに電気信号を出力 / 停止する。
手動	電気信号を手動で出力 / 停止する。

□ 対象ゾーン

「トリガーモード」を「パワー」または「ソース」に設定時、トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。

設定値

メイン	メインゾーンの動作に連動して電気信号を出力する。
ゾーン 2	ゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力する。
全ゾーン（初期値）	メインゾーンやゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力する。

□ 対象ソース

「トリガーモード」を「ソース」に設定時、入力ごとに電気信号の出力 / 停止を設定します。

選択項目

AV1 ～ 7、V-AUX、AUDIO1 ～ 4、PHONO、TUNER、PC、NET RADIO、USB、DOCK、MULTI CH

設定値

ロー	該当する入力を選んだときに電気信号の出力を停止する。
ハイ（初期値）	該当する入力を選んだときに電気信号を出力する。

□ 手動設定

「トリガーモード」を「手動」に設定時、電気信号を手動で出力 / 停止します。
トリガー機能が正しく動作するか確認する際にご利用ください。

選択項目

ロー	電気信号の出力を停止する。
ハイ（初期値）	12V の電気信号を出力する。

■ 設定保護

設定を保護して、変更できないようにします。

設定値

しない（初期値）	設定を保護しない。
する	設定を保護する。「しない」に戻すまで、設定変更が禁止されます。

表示言語

テレビ画面の表示言語を設定します。



設定値

English	英語
日本語（初期値）	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
Русский	ロシア語

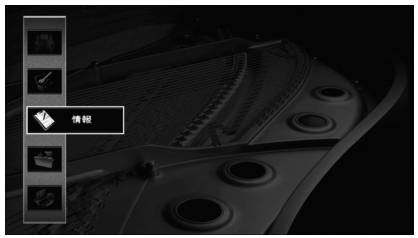
- 前面ディスプレイは常に英語で表示されます。

情報を確認する（情報メニュー）

テレビ画面で各種情報を確認します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「情報」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁ / ▷）で情報の種類を選ぶ。



4 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

情報の種類

■ 音声信号

音声信号に関する情報が表示されます。

入力	信号方式	入力信号の音声フォーマット
	チャンネル	信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE） 「5.1(3/2/0.1)」と表示されている場合、合計 5.1ch（フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE）
	サンプリング	入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数
	ビットレート	入力ビットストリーム信号の 1 秒あたりのデータ量
	ダイアローグ	入力ビットストリーム信号のダイアログノーマライゼーションレベル
出力		音声を出力しているスピーカー端子

- 本機側でビットストリーム信号をそのまま出力していても、再生機器側の仕様や設定により、信号が変換されている場合があります。

■ ビデオ信号

映像信号に関する情報が表示されます。

HDMI 信号	HDMI 信号の入出力の有無
HDMI 解像度	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度
アナログ解像度	入力信号（アナログ）と MONITOR OUT 端子から出力される信号（アナログ）の解像度
HDMI エラー	HDMI に関するエラー HDCP エラー：テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。 デバイス数超過：HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。

■ HDMI モニタ

HDMI OUT 端子に接続しているテレビに関する情報が表示されます。
カーソルキー（△ / ▽）で「OUT1」と「OUT2」を切り替えてください。

インターフェース	テレビのインターフェース
ビデオ解像度	テレビが対応している解像度

■ ネットワーク

本機のネットワーク情報が表示されます。

IP アドレス	IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
デフォルト ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレス
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレス
MAC アドレス	MAC アドレス
ステータス	ネットワーク接続ステータス

■ システム

本機のシステム情報が表示されます。

リモート ID	本体側のリモコン ID 設定（110 ページ）
TV フォーマット	本機のビデオ信号方式（110 ページ）
システム ID	システム認識番号
ファームウェア バージョン	本機にインストールされているファームウェアのバージョン

- ネットワークから最新のファームウェアが検出されると、「情報」アイコンおよび「システム」アイコンの右上に「!」が表示されます。また「システム」画面にメッセージが表示されます。ファームウェアを更新するには、「システム」画面で ENTER キーを押し、「本機のファームウェアを更新する」（116 ページ）の手順を実行してください。

■ ゾーン

ゾーン 2 に関する情報が表示されます。

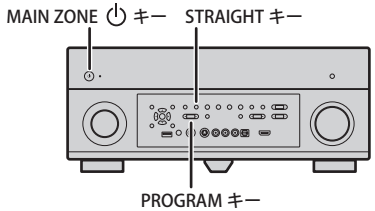
入力	ゾーン 2 で再生中の入力
音量	ゾーン 2 の音量

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

前面ディスプレイを見ながら、本機のシステム設定を変更します。

1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。

2 前面の STRAIGHT キーを押しながら MAIN ZONE ⏻ キーを押す。



3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。

4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。

5 MAIN ZONE ⏻ キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

設定変更が反映されます。

アドバンスドセットアップメニューでできること

項目	説明	ページ
REMOTE SENSOR	本体（リモコン信号受光部）の信号受信を有効 / 無効にします。	110
REMOTE CON AMP	本体側のリモコン ID を変更します。	110
TV FORMAT	ビデオ信号方式を切り替えます。	110
MONITOR CHECK	HDMI 映像出力の制限を解除します。	110
RECOV./BACKUP	本機の各種設定を保存します、また保存した設定を復元します。	111
INITIALIZE	各種設定を初期化します。	111

FIRM UPDATE	ファームウェアを更新します。	111
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	111

リモコン信号の受信設定（REMOTE SENSOR）



本体（リモコン信号受光部）の信号受信を有効 / 無効にします。信号受信が無効の場合、リモコンで本機を操作することはできません（通常は有効にしておいてください）。

設定値

ON（初期値）	リモコン信号受信を有効にする。
OFF	リモコン信号受信を無効にする。

リモコン ID の変更（REMOTE CON AMP）



リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するよう、本体側のリモコン ID を変更します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないように設定します。

設定値

ID1（初期値）、ID2

■ リモコン側のリモコン ID 設定

各手順を 1 分以内に操作してください。前の手順から 1 分経過すると設定が中止されます。

1. ボールペンなどの先の細長いもので、リモコンの CODE SET ボタンを押す。
2. SOURCE/RECEIVER キーを押す。
3. 数字キーで「5019」（ID1 に設定）または「5020」（ID2 に設定）を入力する。
   設定が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
   6 回点滅した場合は設定失敗です。手順 1 からやり直してください。

- リモコン ID を変更しても、登録済みのリモコンコード（112 ページ）は保持されます。

ビデオ信号方式の変更（TV FORMAT）



お使いのテレビに合わせて、本機のビデオ信号方式を切り替えます。

設定値

NTSC（初期値）、PAL

HDMI 映像出力の制限解除（MONITOR CHECK）



本機は、HDMI OUT 端子に接続したテレビが対応している解像度を自動的に判別します（モニターチェック）。本機の判別に関わらず「解像度」（101 ページ）で出力する解像度を指定したい場合や、テレビの解像度を本機が判別できない場合は、モニターチェックを無効にしてください。

設定値

YES（初期値）	モニターチェックを有効にする。（テレビが対応している解像度の映像のみ出力）
SKIP	モニターチェックを無効にする。（テレビの対応に関わらず映像を出力）

- 「SKIP」に設定後、本機の映像がテレビ画面に正しく表示されずに本機を操作できない場合は、「YES」に戻してください。

設定の保存 / 復元（RECOV./BACKUP）



本機の各種設定を保存します、また保存した設定を復元します。

■ 保存 / 復元の手順

1 本体前面の STRAIGHT キーで「BACKUP」または「RECOVERY」を選び、INFO キーで実行する。

選択項目

BACKUP	本機の各種設定を内部メモリーに保存する。
RECOVERY	保存されている設定を復元する（設定が保存されている場合のみ有効）。

注意

- リカバリー（設定の読み込み）中は本機の電源を操作しないでください。正しく設定が反映されないことがあります。
- ユーザー情報（アカウント、パスワードなど）や本機特有の情報（MAC アドレス、IP アドレスなど）は保存されません。

設定の初期化（INITIALIZE）



選択した項目にしたがって設定を初期化します。

選択項目

VIDEO	映像に関する設定を初期化する。
ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL	初期化しない。

ファームウェアの更新（FIRM UPDATE）

機能の追加や不具合の改善に応じて、新しいファームウェアを提供します。ファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。本機がインターネットに接続されている場合は、ネットワーク経由で更新することも可能です。詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。



■ ファームウェアの更新手順

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前に、更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

1 本体前面の STRAIGHT キーで「USB」または「NETWORK」を選び、INFO キーで実行する。

選択項目

USB	USB メモリーを使ってファームウェアを更新する。
NETWORK	ネットワーク経由でファームウェアを更新する。

- ネットワークから最新のファームウェアが検出されると、ON SCREEN キーを押したときにメッセージが表示されます。この場合は、「本機のファームウェアを更新する」（116 ページ）の手順でもファームウェアを更新できます。

ファームウェアバージョンの確認（VERSION）

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。



- 情報メニューの「システム」（109 ページ）でもファームウェアのバージョンを確認できます。



リモコンで外部機器を操作する

外部機器のリモコンコードを登録すれば、本機のリモコンでテレビや再生機器（BD/DVD レコーダーなど）を操作できます。

- 赤外線受光部を持たない外部機器は操作できません。
- 外部機器の本体側のリモコン ID が「ID1」に設定されていることをご確認ください。ほかの ID を使用している場合、リモコンコードを登録しても正しく機能しません。
- リモコンの電池が切れた状態で 2 分以上経過すると、リモコンコードの登録が消去されることがあります。この場合は、新しい乾電池に交換してから、リモコンコードを登録し直してください。

- 本機および再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロールが有効な場合、リモコンコードを登録しなくてもリモコンで外部機器を操作できることがあります。

テレビのリモコンコードを登録する

テレビのリモコンコードを登録して、本機のリモコンで操作します。

- テレビのリモコンコードは、入力選択キーにも登録できます。この場合、テレビの機種によっては入力選択後にカーソルキーや数字キーでテレビを操作できます。

1 「リモコンコード一覧」（114 ページ）で、テレビのリモコンコードを確認する。

2 ボールペンなどの先の細長いもので、CODE SET ボタンを押す。

SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
以降は、前の手順から 1 分以内に操作してください。1 分経過すると設定が中止されます。その場合は手順 2 からやり直してください。

3 TV ⏻ キーを押す。

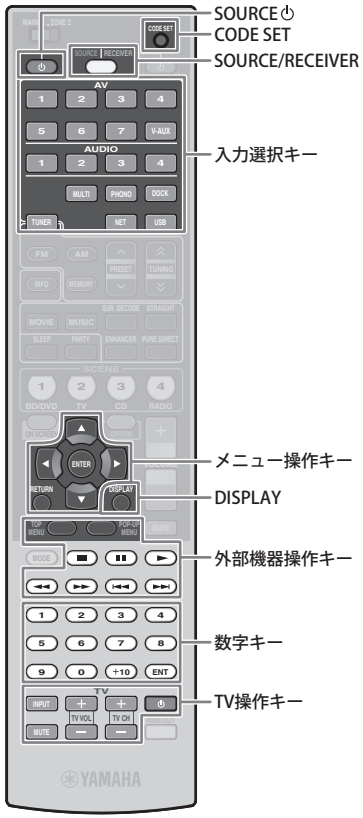
4 数字キーでリモコンコード（4 桁）を入力する。

登録が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
6 回点滅した場合は登録失敗です。手順 2 からやり直してください。

■ テレビの操作

テレビのリモコンコードを登録すると、本機で選択している入力に関係なく、いつでも TV 操作キーでテレビを操作できます。

TV 操作キー	INPUT キー	テレビの映像入力を切り替えます。
	MUTE キー	テレビ音声を消音します。
	TV VOL キー	テレビの音量を調節します。
	TV CH キー	テレビのチャンネルを切り替えます。
	TV ⏻ キー	テレビの電源を入 / 切します。



再生機器のリモコンコードを登録する

再生機器（BD/DVD レコーダーなど）のリモコンコードを登録して、本機のリモコンで操作します。入力選択キーに割り当てるため、入力を選ぶのと同時に、リモコンで操作する再生機器を切り替えることができます。

- 初期状態では、AUDIO2 キーに CD プレーヤー（Yamaha：5095）が登録されています。その他の入力選択キーは未登録です。

1 「リモコンコード一覧」（114 ページ）で、再生機器のリモコンコードを確認する。

2 ボールペンなどの先の細長いもので、CODE SET ボタンを押す。

SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
以降は、前の手順から 1 分以内に操作してください。1 分経過すると設定が中止されます。その場合は手順 2 からやり直してください。

3 入力選択キーを押す。

（例）AV1 端子に接続した BD/DVD レコーダーのリモコンコードを登録する場合は、AV1 キーを押します。

4 数字キーでリモコンコード（4 桁）を入力する。

登録が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。6 回点滅した場合は登録失敗です。手順 2 からやり直してください。

- SCENE キーに入力選択キー（リモコンコード）を割り当てることで、SCENE キーを押したあと対象の外部機器を操作できるようになります。設定方法については、「シーンに好みの設定を登録する」（50 ページ）をご覧ください。

■ 再生機器の操作

再生機器のリモコンコードを入力選択キーに登録すると、入力またはシーン選択後に以下のキーで再生機器を操作できます。

- SOURCE/RECEIVER キーで、メニュー操作キー、DISPLAY キーおよび数字キーの操作対象（本機、外部機器）を切り替えます。本機を選んでいるときはオレンジ色、外部機器を選んでいるときは緑色に SOURCE/RECEIVER キーが点灯します。
  たとえば外部機器のリモコンコードを TUNER キーに登録した場合、オレンジ色のときは本機の FM/AM ラジオ、緑色のときは外部機器を操作できます。

SOURCE ⏻ キー		再生機器の電源を入 / 切します。
メニュー操作キー	カーソルキー	項目を選びます。
	ENTER キー	選択項目を決定します。
	RETURN キー	1 つ前の表示に戻します。
DISPLAY キー		ディスプレイの表示を切り替えます。
外部機器操作キー	TOP MENU キー	トップメニューを表示します。
	POP-UP MENU キー	ポップアップメニューを表示します。
	■ キー	再生を停止します。
	▮▮ キー	再生を一時停止します。
	► キー	選択中の曲（映像）を再生します。
	◄◄ キー	押し続けている間、曲（映像）を巻き戻し / 早送りします。
	►► キー	
	⏮ キー	再生している曲（映像）の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲（映像）にスキップします。
	⏭ キー	
数字キー		数値を入力します。
TV 操作キー		テレビを操作します（112 ページ）。

- 再生機器側のリモコンに対応するキーがある場合のみ機能します。



リモコンコードを消去する

登録したリモコンコードをすべて消去します。

- SCENE キーに割り当てた入力選択キー（リモコンコード）の設定も消去されます。

1 ボールペンなどの先の細長いもので、CODE SET ボタンを押す。

SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。
以降は、前の手順から 1 分以内に操作してください。1 分経過すると設定が中止されます。その場合は最初からやり直してください。

2 SOURCE/RECEIVER キーを押す。

3 数字キーで「9981」と入力する。

消去が完了すると、SOURCE/RECEIVER キーが 2 回点滅します。6 回点滅した場合は消去失敗です。最初からやり直してください。

リモコンコード一覧

リモコンコードが複数ある場合は、左から順番にお試しください。
製品の型番からリモコンコードを特定することはできません。

● テレビ（プロジェクターを含む）

Aiwa	0078, 0379
Eizo	0509
Epson	0155, 0206, 0359
Fujitsu	0059, 0069, 0074, 0075, 0282
Funai	0051, 0058, 0059, 0112, 0113, 0115, 0118, 0119, 0179, 0337
Hitachi	0008, 0012, 0026, 0066, 0084, 0092, 0093, 0120, 0172, 0173, 0255, 0270, 0271, 0282, 0320, 0335, 0338, 0342, 0344, 0346, 0347, 0365, 0382, 0448, 0456, 0467, 0482
LG	0031, 0053, 0066, 0116, 0117, 0140, 0161, 0164, 0175, 0195, 0269, 0277, 0282, 0300, 0309, 0317, 0320, 0323, 0328, 0342, 0343, 0346, 0349, 0350, 0366, 0368, 0377, 0466, 0471, 0478
Mitsubishi	0008, 0026, 0031, 0053, 0066, 0084, 0093, 0098, 0150, 0178, 0289, 0320, 0339, 0344, 0350, 0376
Orion	0043, 0146, 0283, 0320, 0323, 0328, 0343, 0349, 0350
Panasonic	0016, 0017, 0020, 0022, 0023, 0035, 0052, 0056, 0084, 0085, 0133, 0163, 0193, 0284, 0286, 0290, 0292, 0320, 0325, 0347, 0356, 0483
Philips	0267, 0296, 0299, 0301, 0303, 0305, 0313, 0319, 0452, 0459, 0460
Pioneer	0008, 0026, 0094, 0095, 0161, 0320, 0345, 0347, 0349, 0350, 0458, 0480
Samsung	0004, 0005, 0006, 0007, 0008, 0012, 0026, 0031, 0036, 0050, 0053, 0076, 0077, 0079, 0114, 0124, 0125, 0126, 0127, 0139, 0161, 0183, 0185, 0190, 0191, 0258, 0264, 0277, 0282, 0320, 0323, 0334, 0337, 0342, 0343, 0349, 0350, 0351, 0373, 0453, 0468
Sanyo	0008, 0019, 0068, 0070, 0071, 0099, 0161, 0168, 0223, 0237, 0277, 0282, 0288, 0295, 0323, 0342, 0344, 0369, 0469
Sharp	0000, 0001, 0002, 0003, 0007, 0008, 0012, 0026, 0060, 0088, 0089, 0091, 0138, 0165, 0170, 0178, 0198, 0229, 0262, 0278, 0279, 0291, 0308, 0312, 0336, 0344, 0354, 0370, 0449, 0450, 0451, 0464, 0474, 0476, 0481
Sony	0038, 0044, 0045, 0047, 0055, 0090, 0104, 0105, 0107, 0110, 0123, 0184, 0220, 0248, 0249, 0251, 0252, 0254, 0326, 0343, 0344, 0371, 0374, 0457, 0475, 0486
Toshiba	0018, 0019, 0040, 0041, 0046, 0073, 0100, 0103, 0108, 0109, 0111, 0121, 0132, 0166, 0208, 0210, 0214, 0217, 0260, 0268, 0282, 0283, 0293, 0304, 0306, 0307, 0329, 0344, 0355, 0454
Victor	0012, 0014, 0015, 0056, 0064, 0065, 0067, 0169, 0174, 0297, 0314, 0344, 0350, 0375
Yamaha	0008, 0026, 0050, 0053, 0080, 0081, 0082, 0083, 0086, 0087

● VTR

Aiwa	1024, 1026, 1027, 1069
Funai	1026, 1069
Hitachi	1011, 1026, 1027, 1028, 1046, 1062
LG	1010, 1026, 1031, 1047, 1054, 1056, 1071, 1103, 1221
Mitsubishi	1026, 1028, 1079
NEC	1027, 1064, 1065
Orion	1023, 1024, 1051, 1115, 1217
Panasonic	1000, 1022, 1044, 1055, 1068, 1072, 1085, 1090, 1091, 1120, 1121, 1214
Pioneer	1028, 1036
Samsung	1002, 1034, 1041, 1043, 1057, 1060, 1070, 1084, 1110, 1116, 1122, 1124, 1220, 1222
Sanyo	1032, 1065, 1070

Sharp	1003, 1033, 1077, 1107, 1127, 1219
Sony	1001, 1016, 1048, 1053, 1073, 1074, 1080, 1081, 1082, 1083, 1108, 1118, 1216
Toshiba	1004, 1016, 1027, 1028, 1037, 1049, 1052, 1086, 1087, 1097, 1109, 1112, 1194
Victor	1007, 1018, 1027, 1039, 1064, 1065, 1066, 1067, 1078, 1089, 1092, 1093, 1094, 1095, 1113, 1208, 1209, 1212, 1213, 1215, 1218
Yamaha	1064, 1065

● DVD プレーヤー

Denon	2059, 2151, 2193, 2332
Funai	2137
Hitachi	2062, 2090, 2115, 2274, 2282, 2316, 2359, 2380
Kenwood	2041, 2151, 2348
LG	2002, 2033, 2038, 2057, 2129, 2133, 2189, 2191, 2223, 2238, 2270, 2288, 2335, 2373, 2375
Marantz	2328
Onkyo	2159, 2368
Panasonic	2011, 2024, 2034, 2042, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2151, 2159, 2164, 2166, 2167, 2172, 2173, 2175, 2209, 2214, 2275, 2277, 2278, 2281, 2282, 2283, 2301, 2374, 2470
Pioneer	2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109, 2157, 2180, 2190, 2212, 2269, 2272, 2299, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2344, 2345, 2347, 2379
Samsung	2000, 2045, 2077, 2112, 2113, 2114, 2115, 2151, 2200, 2216, 2219, 2228, 2264, 2265, 2271, 2279, 2294, 2303, 2329, 2365
Sanyo	2134, 2145, 2217, 2292
Sharp	2006, 2040, 2088, 2091, 2182, 2194, 2220, 2221, 2231, 2236, 2293, 2340
Sony	2004, 2005, 2007, 2009, 2014, 2015, 2023, 2026, 2027, 2052, 2068, 2069, 2070, 2071, 2074, 2075, 2084, 2085, 2087, 2168, 2171, 2208, 2210, 2211, 2258, 2273, 2284, 2285, 2312, 2313, 2314, 2315, 2318, 2319, 2466
Teac	2149, 2333, 2355, 2383
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2048, 2049, 2054, 2055, 2072, 2073, 2076, 2078, 2079, 2086, 2145, 2159, 2218, 2233, 2256, 2259, 2296, 2369
Victor	2020, 2096, 2097, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2106, 2107, 2160, 2257, 2260, 2262, 2263, 2321, 2324, 2326, 2327, 2343, 2464, 2465, 2468, 2469, 2471
Yamaha	2056, 2064, 2065, 2080, 2081, 2082, 2083, 2089, 2118, 2151, 2323

● BD プレーヤー / レコーダー

LG	2033
Panasonic	2011, 2209, 2214
Pioneer	2212
Samsung	2045, 2113
Sharp	2194, 2220, 2221
Sony	2075

● DVD レコーダー

Hitachi	2062, 2090
LG	2033, 2057, 2223, 2238
Panasonic	2011, 2034, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123
Pioneer	2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109
Samsung	2000, 2112, 2113, 2216, 2219
Sanyo	2217
Sharp	2088, 2091
Sony	2004, 2005, 2007, 2052, 2068, 2069, 2074, 2084, 2085, 2087, 2208, 2210, 2211
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2049, 2054, 2055, 2076, 2086
Victor	2100, 2101, 2106, 2107
Yamaha	2056

● ケーブルテレビチューナー

Panasonic	3112, 3118, 3122
Pioneer	3001, 3006, 3094, 3098, 3114, 3116, 3120
Samsung	3069, 3089, 3114, 3120
Sony	3092, 3125
Toshiba	3122

● 衛星放送チューナー

Hitachi	4006, 4114, 4199, 4203
Humax	4025, 4030, 4060, 4097
Mitsubishi	4006, 4015, 4202
Panasonic	4006, 4035, 4036, 4121, 4124, 4126, 4198, 4221
Pioneer	4046, 4213
Samsung	4000, 4001, 4003, 4032, 4064, 4069, 4071, 4120, 4123, 4196, 4200
Sony	4067, 4070, 4213
Toshiba	4194, 4202, 4203
Victor	4029, 4065, 4089, 4117

● CD プレーヤー

Yamaha	5082, 5095

● CD レコーダー

Yamaha	5083

● MD プレーヤー

Yamaha	5080, 5081, 5086

● テープデッキ

Yamaha	5084, 5087

● チューナー

Yamaha	5066, 5071, 5085, 5088, 5090, 5092, 5094

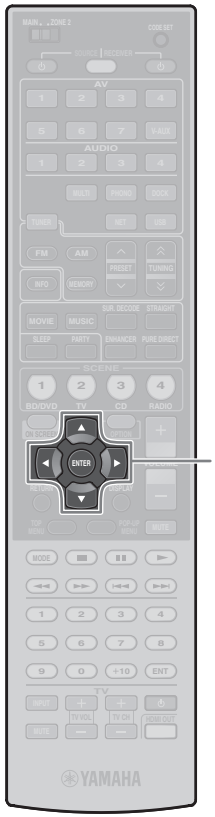
● アンプ

Yamaha	5098

● Apple TV

Apple	2241

※ Apple TV は、Apple Inc. の商標または登録商標です。



本機のファームウェアを更新する

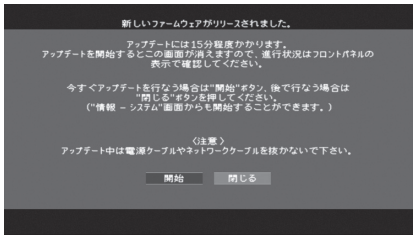
本機がインターネットに接続されている場合、ネットワークから最新のファームウェアが検出されるとメッセージが表示されます。この場合、以下の手順でファームウェアを更新できます。

注意

- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。所要時間は約 15 分です。

- アドバンスドセットアップメニュー（111 ページ）では、USB メモリーを使ってファームウェアを更新することもできます。

ファームウェアの更新が可能な場合、ON SCREEN キーを押したあとに次のメッセージ画面が表示されます。



1 テレビ画面の表示内容を確認する。

2 ファームウェアを更新するには、カーソルキーで「開始」を選び、ENTER キーを押す。

テレビ画面の表示が消えます。

3 前面ディスプレイに「UPDATE SUCCESS PLEASE POWER OFF!」と表示されたら、本体前面の MAIN ZONE ⏻キーを押す。

これでファームウェアの更新は完了です。

- ファームウェアを更新せずにメッセージ画面を閉じるには、手順 2 で「閉じる」を選びます。この場合、「情報」アイコンおよび「システム」アイコンの右上に「!」が表示されます。また「システム」画面（109 ページ）にメッセージが表示されます。「システム」画面で ENTER キーを押すと、ファームウェアを更新できます。



付録

こんな場合の解決方法

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった…

スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、「自動測定」でスピーカー設定を再調整してください（41 ページ）。手動でスピーカー設定を調整する場合は、設定メニューの「手動設定」をご利用ください（96 ページ）。

小さな子供がいるので音量が大きくならないようにしたい…

誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。このような場合は、設定メニューの「音量の上限」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください（100 ページ）。ゾーン 2 でも同様に設定できます（104 ページ）。

電源を入れた直後に音量が大きいとびっくりする…

初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、設定メニューの「音量の初期値」で、電源を入れたときの音量を設定してください（100 ページ）。ゾーン 2 でも同様に設定できます（104 ページ）。

HDMI ケーブルで接続しているのに HDMI コントロールが機能しない…

HDMI コントロールを使うには、HDMI コントロール対応機器どうしの連動設定が必要になります（128 ページ）。HDMI コントロール対応機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）を本機に接続後、各機器の HDMI コントロール設定を有効にしてから、連動設定を行ってください。この設定は HDMI コントロール対応機器を追加するたびに必要です。なお、HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

操作時にテレビ画面に表示されるメッセージを消したい…

初期状態では、入力選択や音量調節など本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージが表示されます。映画やスポーツを観ているときなど、映像と重なってしまい見づらい場合は、設定メニューの「ショートメッセージ」（106 ページ）でメッセージが表示されないように設定できます。

設定変更を禁止したい…

スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止するには、設定メニューの「設定保護」をご利用ください（107 ページ）。

ウェブコンロール画面（80 ページ）が表示されなくなった…

DHCP サーバーから本機の IP アドレスを取得している場合、本機の電源を入れ直したときに IP アドレスが変わる可能性があります。情報メニューの「ネットワーク」（109 ページ）で IP アドレスをご確認ください。また、「MAC アドレスフィルター」（103 ページ）を設定している場合は、お使いのパソコンの MAC アドレスを「アドレス設定」（103 ページ）に登録して、本機へのアクセスを可能にしてください。MAC アドレスの確認方法については、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

本機のリモコンを操作すると別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう…

複数のヤマハ製機器お使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。このような場合は、それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください（110 ページ）。

故障かな?と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記をご確認ください。
対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

最初にご確認ください…

① 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。

② 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。

③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源 / システム

症状	原因	対策
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。	製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
電源が切れない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の MAIN ZONE ⏻を 10 秒以上押して本機を再起動してください。
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（19 ページ）。
電源が自動的にスタンバイに切り替わる	スリープタイマーが作動した。	もう一度電源を入れて、再生を始めてください。
	操作がない状態で一定時間が経過したため、オートパワーダウンが作動した。	オートパワーダウンを無効にするには、設定メニューの「オートパワーダウン」を「オフ」に設定してください（105 ページ）。
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（19 ページ）。
本機が操作を受け付けない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の MAIN ZONE ⏻を 10 秒以上押して本機を再起動してください。

音声

症状	原因	対策
音が出ない	別の入力が選択されている。	入力選択キーで入力を選んでください。
	本機で再生できない信号が入力されている。	一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、情報メニューの「音声信号」で確認できます（108 ページ）。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音量が上がらない	音量の上限値が低く設定されている。	設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください（100 ページ）。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。 （AV レシーバーの特性上、可能性があります）	該当機器すべての電源を入れてください。
特定のスピーカーから音が出ない	再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。	「7ch ステレオ」を選ぶことで確認できます（51 ページ）。
	該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。	「7ch ステレオ」を選ぶことで確認できます（51 ページ）。
	該当スピーカーの音声出力が無効になっている。	「自動測定」を実行するか（41 ページ）、設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください（96 ページ）。
	該当スピーカーの音量が極端に小さい。	「自動測定」を実行するか（41 ページ）、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください（98 ページ）。
	本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
	該当スピーカーが故障している。	正常に機能している別のスピーカーと交換することで確認できます。 それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。
サラウンドバックスピーカーから音が出ない	拡張サラウンドが無効になっている。	オプションメニューの「拡張サラウンド」で使用するデコーダーを選んでください（85 ページ）。
サブウーファーから音が出ない	再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。	確認するには、設定メニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください（98 ページ）。
	サブウーファーの出力が無効になっている。	「自動測定」を実行するか（41 ページ）、設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください（97 ページ）。
	サブウーファーのオートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）が作動した。	サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。
HDMI で接続した再生機器の音が出ない	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	情報メニューの「ビデオ信号」で確認できます（108 ページ）。
	HDMI 入力音声をスピーカーから出力しない設定にしている。	設定メニューの「音声出力」で、「アンプ」を「オン」に設定してください（102 ページ）。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。

症状	原因	対策
テレビの音声が本機から出ない（HDMI コントロール使用時）	（音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合）「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。	設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください（101 ページ）。
	（ARC を使ってテレビ音声を入力したい場合）本機またはテレビの ARC が無効になっている。	設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください（102 ページ）。また、テレビ側で ARC を有効にしてください。
マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている。	再生機器側の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	本機と該当機器の距離を離してください。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音がひずむ	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。（AV アンプの特性上、可能性があります）	該当機器すべての電源を入れてください。

映像

症状	原因	対策
映像が出ない	本機で別の入力が選択されている。	入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。
	テレビで別の入力が選択されている。	テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
	テレビが非対応の映像信号を出力している。	アドバンスドセットアップメニューの「MONITOR CHECK」を「YES」に設定してください（110 ページ）。
	本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
HDMI で接続したビデオ機器の映像が出ない	本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。	入力中の映像信号（解像度）は、情報メニューの「ビデオ信号」で確認できます（108 ページ）。本機が対応している映像信号については「本機が対応している HDMI 信号」（129 ページ）をご覧ください。
	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	情報メニューの「ビデオ信号」で確認できます（108 ページ）。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。

FM/AM ラジオ

症状	原因	対策
FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	MODE キーでモノラル放送に切り替えてください（56 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。	環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。ANTENNA（AM）端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。
自動選局ができない	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	手動で選局してください（56 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
	AM ラジオの電波が弱い。	AM アンテナの方向を変えてください。
		手動で選局してください（56 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA（AM）端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。
AM ラジオ局を登録（プリセット）できない	自動登録（オートプリセット）を使用した。	オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください（56 ページ）。

USB/ ネットワーク

症状	原因	対策
USB 機器が認識されない	本機と USB 機器を接続している USB ケーブルが USB2.0 に対応していない。	USB2.0 対応の USB ケーブルを使用してください。
USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない	本機が認識できないファイル構成が適用されている。	本機が認識できるフォルダー階層は最大 8 階層、1 フォルダーあたりのサブフォルダーとファイルの合計は最大 500 個です。必要に応じて、USB 機器のフォルダー構成を変更してください。
ネットワーク機能を使用できない	ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていない。	ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の設定メニューで「DHCP」を「オン」に設定してください（103 ページ）。DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本機の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください（103 ページ）。

症状	原因	対策
パソコンが検出されない	メディアの共有設定が正しくない。	本機がパソコンのフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください（69 ページ）。
	セキュリティソフトなどの設定により、パソコンへのアクセスが制限されている。	セキュリティソフトの設定をご確認ください。
	本機とパソコンが同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
パソコンのファイルが表示（再生）されない	本機またはサーバーが非対応のファイル形式を使用している。	本機およびサーバーが対応しているファイル形式を使用してください。 本機が対応している音楽ファイルについては「パソコンの曲を再生する」（69 ページ）をご覧ください。
インターネットラジオを再生できない	選択したラジオ局のサービスが現在停止している。	ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。	時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できていても音は出ません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。

リモコン

症状	原因	対策
本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（5 ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明または本体の向きを変えてください。
	操作対象が外部機器になっている。	SOURCE/RECEIVER キーで操作対象を本機に切り替えてから（オレンジ色に点灯）、操作してください。
	本体とリモコンの ID が一致していない。	本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください（110 ページ）。
外部機器を操作できない	操作対象が本機になっている。	SOURCE/RECEIVER キーで操作対象を外部機器に切り替えてから（緑色に点灯）、操作してください。
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを登録し直してください（112 ページ）。機器によってはリモコンコードを正しく設定しても操作できない場合があります。

前面ディスプレイのエラー表示

メッセージ（アルファベット順）	内容	対策
Access denied	パソコンがアクセスを拒否している。	本機がパソコンのフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください（69 ページ）。
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	USB 端子に接続した iPod にアクセスできない。	iPod の電源を入れ直してください。
	ネットワーク経路に問題が発生している。	ルーターおよびモデムの電源が入っていることを確認してください。
		本機とルーター（またはハブ）が正しく接続されているか確認してください（37 ページ）。
No device	USB 機器が認識されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	USB 端子に接続した iPod が認識されていない。	iPod の電源を入れ直してください。
Not found	Bluetooth 機器が見つからない。	(ペアリング時) Bluetooth 機器の電源を入れ、ペアリングモードにしてください。
		(接続時) - Bluetooth 機器の電源を入れてください。 - Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーを 10 メートル以内に置いてください。 - 再度ペアリングしてください。
Unknown iPod	非対応の iPod が接続されている。	対応している iPod をご利用ください（59 ページ）。
Unable to play	iPod の曲を再生できない。	再生可能なファイルか確認してください。iPod 本体でも再生できない場合は、曲データや記憶領域が破損している可能性があります。
	パソコンの曲を再生できない。	本機で再生可能なファイルか確認してください。本機が対応している音楽ファイルについては「パソコンの曲を再生する」（69 ページ）をご覧ください。本機が対応しているファイルなのに再生できない場合は、ネットワークに大きな負荷がかかっている可能性があります。
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。

音声に関する用語

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数をサンプリング周波数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックや Dolby Digital、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

シネマ DSP 3D

高さ方向の情報も含めた 3 次元の実測データを応用した音場処理です。シネマ DSP 3D モードでは、より緻密で立体的な 3 D 感覚の音場を再現します。

バーチャルシネマ DSP

サラウンドスピーカーを設置していなくとも、前方のスピーカーを使って仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。最小構成の 2 チャンネルシステム（フロントスピーカーのみ）でも、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

ミュージックエンハンサー

MP3 や AAC など、携帯音楽プレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

リップシンク（Lip sync）

HDMI がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動で補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動で検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で 7 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。本機は AAC デコーダーを搭載しているため、BS/ 地上波デジタルチューナーで受信した番組の 5.1 チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント 3 チャンネル（フロント左 / 右、センター）と、サラウンド 2 チャンネル（サラウンド左 / 右）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。
サラウンド 2 チャンネルがステレオで収録されているため、Dolby Surround と比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の 5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から 5.1 チャンネルシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

Dolby Digital Plus

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート 6Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II はドルビープロロジックを改良した方式で、Dolby Surround 方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声信号を処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換します。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

Dolby Pro Logic IIx

ドルビープロロジックの技術です。2 チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声信号も処理し、自然な 7.1 チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用の Movie モード、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby Surround

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。Dolby Surround は、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント左 / 右チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）のアナログ 4 チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動で調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理をします。

Dolby TrueHD

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。BD ではオプション採用され、96kHz/24bit 時には最大 8 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数 2822.4kHz で記録することにより、CD などで使われている PCM よりも高音質で再生できます。周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。本機では、HDMI 端子から入力された DSD 信号の再生が可能です。

DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる 5.1 チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用している DTS システムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の 6 チャンネル（フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右チャンネル、サブウーファー用 LFE0.1 チャンネルを加えた 5.1 チャンネル）で構成されています。

DTS 96/24

DTS 96/24 は DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来の DTS デコーダーとも互換性があるため、DTS 96/24 に対応していない機器では、通常の DTS サラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24 ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができます。

DTS Express

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワークストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。BD ではセカンダリーオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

DTS Neo:6

2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS-HD High Resolution Audio

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（BD の場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

DTS-HD Master Audio

BD（ブルーレイディスク）などの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。BD で標準採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

FLAC（Free Lossless Audio Codec）

音声圧縮方式の一つで、可逆圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るものの、原音からの質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

MP3

MPEG で利用される音声圧縮方式の 1 つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の 1 つで、MPEG-2 AAC より低いビットレートでデータを圧縮できることから、携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高品質が求められる機器にも利用されています。また、上記の機器以外にもインターネット上のコンテンツ配信など、パソコンやメディアサーバーなどでも多く利用されている規格です。

PCM（リニア PCM）

MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

WAV

Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は非圧縮（PCM）のデータが使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft 社が開発した音声圧縮方式です。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったまま約 1/20 に圧縮できると言われています。

映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号（青色差信号）および Pr/Cr 信号（赤色差信号）の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているため、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、または D 端子のあるテレビを本機に接続してください。

コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビの NTSC 信号などが採用しています。

D 端子

AV 機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、性能に応じてランクが D1 から D5 に分けられています。D 端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1 本の専用ケーブルで接続できます。
本機には D4 ビデオ端子が装備されており、D1 から D4 の規格に対応しています。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。

S ビデオ信号

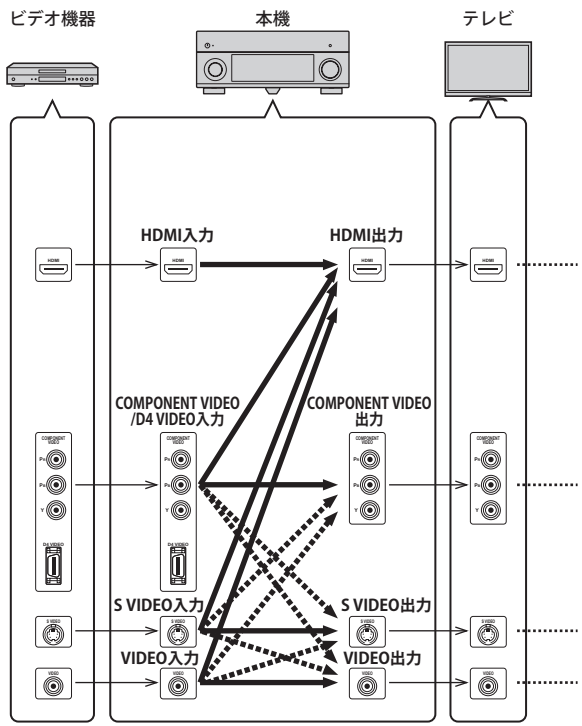
映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画 / 再生をお楽しみいただけます。

x.v.Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。
➡（実線）は常に有効です。⇢（点線）は設定メニューの「アナログ端子間変換」（100 ページ）を「オン」（初期値）に設定時のみ有効です。



■ 映像信号変換表

- 設定メニューの「信号処理」（100 ページ）で、出力する HDMI 映像信号の解像度やアスペクト比を設定できます。

		HDMI 出力					COMPONENT VIDEO 出力				S VIDEO 出力	VIDEO 出力
	解像度	480i	480p	720p	1080i	1080p	480i	480p	720p	1080i	480i	480i
HDMI 入力	480i	○	○	○	○	○						
	480p		○	○	○	○						
	720p			○								
	1080i				○							
	1080p					○						
COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO 入力	480i	○	○	○	○	○	○				△	△
	480p		○	○	○	○		○				
	720p			○					○			
	1080i				○					○		
S VIDEO 入力	480i	○	○	○	○	○	△				○	△
VIDEO 入力	480i	○	○	○	○	○	△				△	○

○：常に有効　△：「アナログ端子間変換」を「オン」に設定時のみ有効

HDMI について

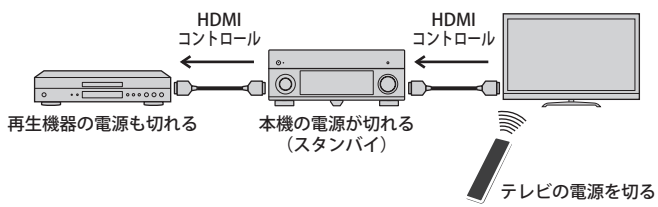
HDMI コントロール

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMI コントロール）。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど）も操作できます。
接続方法については、「テレビを接続する」（26 ページ）および「ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）」（31 ページ）をご覧ください。

テレビのリモコン操作による連動機能

- 電源スタンバイ
- 音量調節および消音
- テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- テレビで再生機器を選択時に、本機の入力を再生機器に切り替え（映像をテレビに出力）
- 音声出力機器の切り替え（本機またはテレビ）

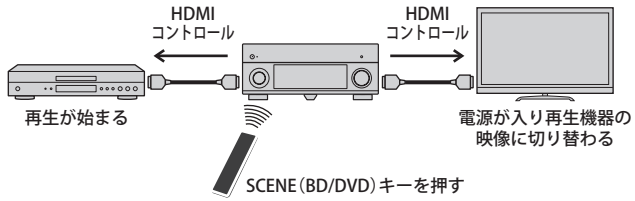
（動作イメージ）



本機のリモコン操作による連動機能

- シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入（49 ページ）
- テレビの入力を本機の映像に切り替えてオンスクリーンメニューを表示（ON SCREEN キー操作時）
- リモコンコードの登録をせずに再生機器（再生機能およびメニュー）を操作（112 ページ）

（動作イメージ）



HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の連動設定が必要です。

- HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、以下の設定が必要になります。
- HDMI コントロールを使うには、テレビを HDMI OUT1 端子に接続してください。

1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。

2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。

本機のHDMIコントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMIコントロール」（101 ページ）を「オン」（初期値）に設定してから、関連項目（TV音声入力、ARC、スタンバイ連動）を設定します。

3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。

4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

6 以下の点を確認する。

本機：再生機器からのHDMI入力（「HDMI1〜5」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。
テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

7 テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超えて接続されていると正しく機能しないことがあります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。

  http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

本機が対応している HDMI 信号

音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、BD（ブルーレイディスク）、HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	BD（ブルーレイディスク）、HD DVD

映像信号

以下の解像度に対応しています。

- 480i/60Hz
- 480p/60Hz
- 576i/50Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、24Hz

- 一部の再生機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像 / 音声を出力できません。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声（光デジタルまたは同軸デジタル）で本機に入力すれば、音声解説を楽しめます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。なお、BD などの音声解説（インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

主な仕様

入力端子

・アナログ音声
ステレオ × 10（AV1 ～ 4、AUDIO1 ～ 4、PHONO、V-AUX）
マルチチャンネル入力（MULTI CH INPUT）× 1（8 チャンネル）
（フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右、サラウンドバック左 / 右、サブウーファー）

・デジタル音声（対応 fs：32kHz ～ 96kHz）
光 × 4（AV3 ～ 4、AUDIO1、V-AUX）
同軸 × 3（AV1 ～ 2、AUDIO2）

・映像
コンポジットビデオ × 5（AV1 ～ 4、V-AUX）
S ビデオ × 5（AV1~4、V-AUX）
D4 ビデオ × 1（AV1）
コンポーネントビデオ × 4（AV1 ～ 4）

・HDMI 入力
HDMI（前面）× 1（V-AUX）
HDMI（背面）× 7（AV1 ～ 7）

・その他
DOCK × 1（ステレオ音声、コンポジットビデオ、S ビデオ）
USB × 1（USB2.0）
NETWORK × 1（100Base-TX/10Base-T）

出力端子

・アナログ音声
スピーカー出力× 9（7 チャンネル）（フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右、サラウンドバック左 / 右、エクストラスピーカー左 / 右 *1）
*1 割り当て変更可能 [ZONE2、F.PRESENCE、BI-AMP（フロント左 / 右）]
PRE OUT × 7（フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右、サラウンドバック左 / 右）
サブウーファー出力 × 2（SUBWOOFER1 ～ 2、モノラル）
ステレオ × 1（AV OUT）
ZONE OUT × 1

・デジタル音声
光 × 1（AV OUT）

・映像
MONITOR OUT/ZONE OUT
- コンポジットビデオ × 1
- S ビデオ × 1
- コンポーネントビデオ × 1
AV OUT
- コンポジットビデオ × 1
- S ビデオ × 1

・HDMI 出力
HDMI OUT × 2（HDMI OUT 1 ～ 2）

リモート端子

・REMOTE IN × 1

・REMOTE OUT × 1

・TRIGGER OUT × 2

・RS-232C × 1

HDMI

・HDMI 規格：Deep Color、“x.v.Color”、Auto Lips Sync、HDMI コントロール（CEC）、オーディオリターンチャンネル（ARC）、3D

・映像フォーマット
VGA
- 480i@60Hz
- 576i@50Hz
- 480p@60Hz
- 576p@50Hz
- 720p@50/60Hz
- 1080i@50/60Hz
- 1080p@24/50/60Hz

・音声フォーマット
- Dolby Digital
- DTS
- DSD 6ch
- Dolby Digital Plus
- Dolby TrueHD
- DTS-HD
- PCM 2 ～ 8 チャンネル（Max 192kHz/24bit）
- AAC

・著作権保護：HDCP 準拠

チューナー

・アナログチューナー
FM/AM × 1（TUNER）

USB

・iPod、USB マスストレージクラス、
MTP（Media Transfer Protocol）対応

・最大供給電流 : 1A

ネットワーク

・PC クライアント機能

・Windows 7 対応、DLNA ver. 1.5 対応

・インターネットラジオ

対応デコードフォーマット

・デコードフォーマット
- Dolby True HD、Dolby Digital Plus
- Dolby Digital、Dolby Digital EX
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution、DTS Express
- DTS、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1、DTS 96/24
- AAC

・ポストデコードフォーマット
- Dolby Pro Logic
- Dolby Pro Logic II Music、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic II Game
- Dolby Pro Logic IIx Music、Dolby Pro Logic IIx Movie、Dolby Pro Logic IIx Game
- DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

オーディオ部

・定格出力

（20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、6 Ω）

フロント左 / 右 ..... 110W+110W

センター 110W

サラウンド左 / 右 ..... 110W+110W

サラウンドバック左 / 右 ..... 110W+110W

・実用最大出力（JEITA、1kHz、10%THD、6 Ω）

フロント左 / 右 170W/ch

センター 170W/ch

サラウンド左 / 右 170W/ch

サラウンドバック左 / 右 170W/ch

・ダンピングファクタ

フロント左 / 右、1kHz、8 Ω ..... 150 以上

・入力感度 / 入力インピーダンス

PHONO（1kHz、100W/8 Ω） ..... 3.5mv/47k Ω

AUDIO2 他（1kHz、100W/8 Ω） ..... 200mV/47k Ω

・最大許容入力

PHONO（1kHz、0.5%THD） ..... 60mV 以上

AUDIO2 他（1kHz、0.5%THD） ..... 2.4V 以上

・出力電圧 / 出力インピーダンス

AV OUT ..... 200mV/1.2k Ω

HEADPHONE OUT ..... 150mV/100 Ω

PRE OUT

SUBWOOFER（50Hz） ..... 1.0V/1.2k Ω

SUBWOOFER 以外（1kHz） ..... 1.0V/1.2k Ω

ZONE OUT ..... 1.0V/1.2k Ω

・周波数特性

AUDIO2 他→フロント（Pure Direct、10kHz ～ 100kHz）

..... +0/-3dB

・RIAA 偏差

PHONO（20Hz ～ 20kHz） ..... 0 ± 0.5dB

・全高調波歪率

PHONO（MM）→ AV OUT ..... 0.02% 以下

MULTI CH INPUT → SP OUT（Pure Direct、70W、8 Ω）

..... 0.04% 以下

・S/N 比（IHF ネットワーク）

PHONO（MM）→ AV OUT（入力ショート 2.5mV） ..... 80dB 以上

・残留ノイズ（IHF ネットワーク）

フロントスピーカー（SP OUT） ..... 150 μ V 以下

・チャンネルセパレーション

PHONO（入力ショート、1kHz/10kHz） ..... 60dB/55dB 以上

AUDIO2 他（入力 5.1k Ωショート、1kHz/10kHz）

..... 60dB/45dB 以上

・音量可変範囲

メインゾーン ..... MUTE、-80 dB ～ +16.5dB（0.5dB ステップ）

ゾーン 2 ..... MUTE、-80 dB ～ +16.5dB（0.5dB ステップ）

・トーンコントロール特性

メインゾーン

Bass（可変幅） ..... ± 6.0dB/50Hz（0.5dB ステップ）

Bass（ターンオーバー周波数） 350Hz

Treble（可変幅） ..... ± 6.0dB/20kHz（0.5dB ステップ）

Treble（ターンオーバー周波数） 3.5kHz

ゾーン 2

Bass（可変幅） ..... ± 10dB/50Hz（2dB ステップ）

Bass（ターンオーバー周波数） 350Hz

Treble（可変幅） ..... ± 10dB/50Hz（2dB ステップ）

Treble（ターンオーバー周波数） 3.5kHz

・フィルター特性（fc ＝ 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz）

H.P.F.（フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック：Small）

..... 12dB/oct.

L.P.F（サブウーファー） ..... 24dB/oct.

ビデオ部

・ビデオ信号方式 ..... NTSC

・ビデオコンバージョン ..... NTSC/PAL

・信号レベル

コンポジットビデオ ..... 1Vp-p/75 Ω

S ビデオ

Y ..... 1Vp-p/75 Ω

C ..... 0.286Vp-p/75 Ω

コンポーネントビデオ /D4 ビデオ

Y ..... 1Vp-p/75 Ω

Pb/Pr ..... 0.7Vp-p/75 Ω

・ビデオ最大許容入力（ビデオコンバージョンオフ）

..... 1.5Vp-p 以上

・S/N 比（ビデオコンバージョンオフ） ..... 60dB 以上

・モニターアウト周波数帯域（ビデオコンバージョンオフ）

コンポーネントビデオ /D4 ビデオ（MONITOR OUT/ZONE OUT）

..... 5Hz ～ 100MHz、± 3dB

FM チューナー部

・受信周波数範囲 ..... 76.0 ～ 90.0MHz

・50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）

モノ ..... 3.0 μ V（20.8dBf）

・S/N 比（IHF）

モノ / ステレオ 72dB/70dB

・歪率（1kHz）

モノ / ステレオ 0.3%/0.5%

・アンテナ入力 ..... 75 Ω、アンバランス

AM チューナー部

・受信周波数範囲 ..... 531 ～ 1611kHz

総合

・電源電圧 ..... AC 100V 50/60Hz

・消費電力 275W

・待機電力

HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ ..... 0.3W 以下

HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン

（HDMI 無信号時、標準） 2.0W

ネットワークスタンバイオン（標準） 2.5W

・寸法（幅×高さ×奥行き） ..... 435 × 182 × 432mm

・質量 15.1kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

Information about software

以下は本製品で使用しているソフトウェアに関する表示です。権利者の要請により英語原文を掲載しております。
This product uses the following free software.
For information (copyright, etc) about each software, read the original sentences stated below.

■ About The Independent JPEG Group's JPEG software

The Independent JPEG Group's JPEG software
Copyright © 1991-2010, Thomas G. Lane, Guido Vollbeding.
All Rights Reserved except as specified below.

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

■ About PNG Reference Library

libpng versions 1.2.6, August 15, 2004, through 1.4.5, December 9, 2010, are Copyright © 2004, 2006-2010 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright © 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright © 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright © 1996, 1997 Andreas Dilger
Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright © 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

■ About zlib Library

Copyright notice:
© 1995-2010 Jean-loup Gailly and Mark Adler
This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

■ About FLAC codec Library

Copyright ©
2000,2001,2002,2003,2004,2005,2006,2007,2008,2009
Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ About lwIP Library

Copyright © 2001-2004 Swedish Institute of Computer Science.
All rights reserved.

Copyright © 2002-2003, Adam Dunkels.
All rights reserved.

Copyright © 2001-2004 Leon Woestenberg
<leon.woestenberg@gmx.net>
Copyright © 2001-2004 Axon Digital Design B.V., The Netherlands.
All rights reserved.

Copyright © 2007 Dominik Spies <kontakt@dspies.de>
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright © 2002 CITEL Technologies Ltd.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of CITEL Technologies Ltd nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY CITEL TECHNOLOGIES AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CITEL TECHNOLOGIES OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Notice for Windows Media DRM

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.
Content owners use Windows Media digital rights management technology (WMDRM) to protect their intellectual property, including copyrights. This device uses WMDRM software to access WMDRM protected content. If the WMDRM software fails to protect the content, content owners may ask Microsoft to revoke the software's ability to use WMDRM to play or copy protected content. Revocation does not affect unprotected content. When you download licenses for protected content, you agree that Microsoft may include a revocation list with the licenses. Content owners may require you to upgrade WMDRM to access their content. If you decline an upgrade, you will not be able to access content that requires the upgrade.

Do not disassemble, decompile, or reverse engineer the software included in Yamaha AV products.

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には：
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右 20cm、上 30cm、背面 20cm 以上のスペースを確保する。）
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のご注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しない場合は、電池を本体から抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



必ず 2 人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意



再生を始める前には、アンプの音量（ボリューム）を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053)460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付:月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053)460-4830

受付:月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03)5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06)6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付:月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋　〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052)363-5903

大阪　〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06)6465-0374

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日から5年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



ヤマハ株式会社

© 2011 Yamaha Corporation Printed in Malaysia ZA37550